

第3期横浜市障害者プラン中間見直しについて

1 プランの概要

「第3期横浜市障害者プラン」は、平成27年度から平成32年度までの6年を計画期間としています。このプランは、障害者基本法に基づき本市における障害者に関する基本的な施策の方向性及びその実現のために必要な個別の事業等を定める計画である「障害者計画」と、障害者総合支援法に基づき円滑にサービス提供が進むよう、障害福祉におけるサービスごとに必要な利用の見込み量等を定める「障害福祉計画」の二つの性質を持つ計画です。

このうち、「障害福祉計画」については、障害者総合支援法により3年ごとに定めることとなっています。

平成28年の児童福祉法改正に伴い、平成30年度から新たに「障害児福祉計画」の策定が義務付けられましたが、本プランは、「ライフステージを通じた一貫した支援」への視点を持ち、障害児の施策及び障害福祉サービスごとに必要な利用の見込み量等についても既に定めています。そこで、本市では「障害福祉計画」のうち障害児を対象とした部分については、今回より「障害児福祉計画」と位置付け、併せて「障害者計画」の個別事業についても見直しを行います。

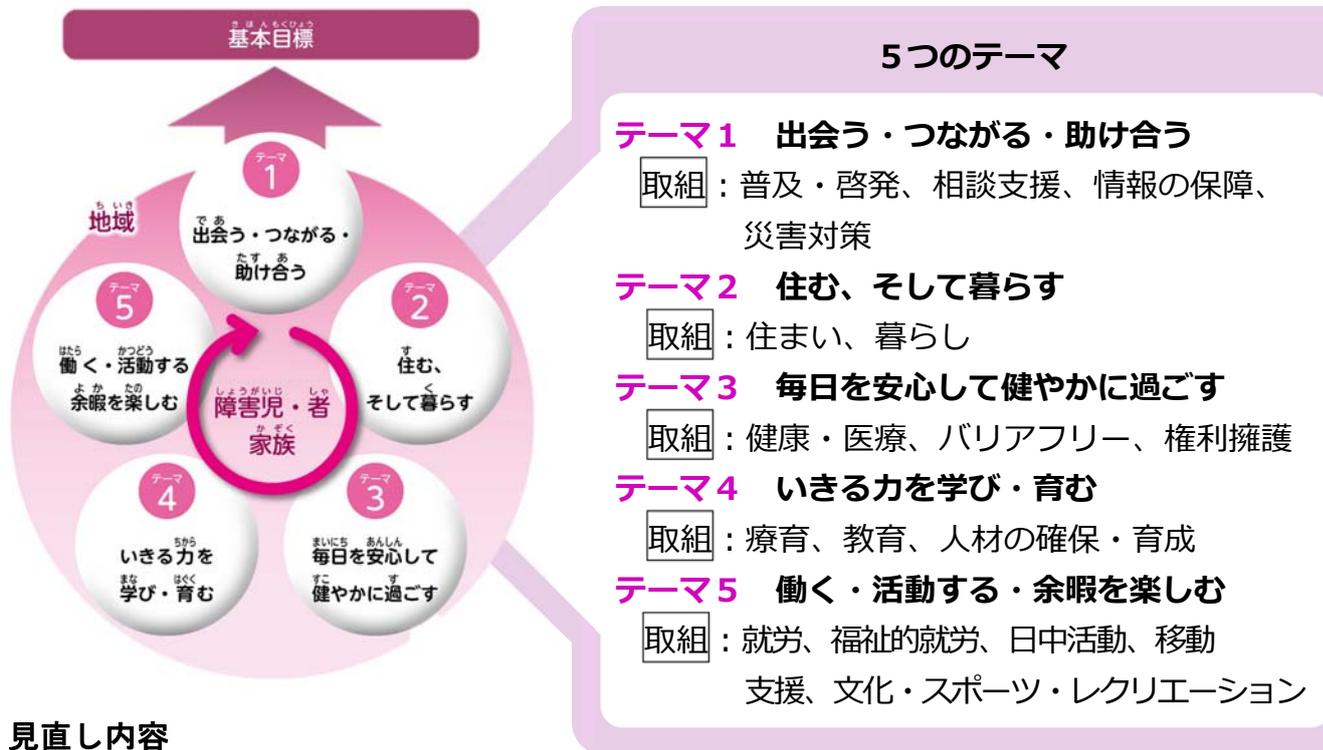
また、平成28年7月の県立障害者支援施設「津久井やまゆり園」で発生した事件を踏まえ、障害があっても一人の市民として、住み慣れた地域で当たり前のように生活していける共生社会の実現に向け、各種の取組を一層推進していきます。

【参考】障害者プラン構成図

第 3 期 横 浜 市 障 害 者 プ ラ ン							該当する法定計画
年度	27	28	29	30	31	32	
構成	施策の方向性 (H27一定議決)						障害者計画
	個 別 事 業						
	サービス利用の見込み量			サービス利用の見込み量			障害福祉計画
			うち、障害児におけるサービス利用の見込み量			障害児福祉計画 (平成30年度～)	

2 プランの全体像

本プランでは、「自己選択・自己決定のもと、住み慣れた地域で、安心して、学び・育ち・暮らしていくことができるまち、ヨコハマを目指す」を基本目標として掲げ、障害児・者の生活を「5つのテーマ」に分類し、施策を進めています。



3 見直し内容

「障害福祉計画」及び「障害児福祉計画」に係る部分については、障害者総合支援法・児童福祉法をはじめとした関係法令の改正並びに国の基本指針等の内容を踏まえ、平成30年度からの後期3年間の障害福祉における、サービスごとに必要な利用の見込み量等を設定します。

併せて、「障害者計画」の個別事業についてもニーズの動向等を踏まえながら必要に応じて内容の見直しを行います。

【参考】国の基本指針(厚生労働省告示第160号・平成29年度3月31日)の要旨

- (1) 地域共生社会の実現に向けた取組の推進
 - (2) 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築
 - ・保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置
 - ・精神病床における1年以上長期入院患者数の目標値の設定
 - ・入院後3か月、6か月、1年以上の退院率の目標値の設定
 - (3) 障害児支援の提供体制の計画的な整備
 - ・医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場の設置
 - (4) 発達障害者支援の一層の充実
 - ・発達障害者地域支援マネジャーの適切な配置等
 - (5) 難病患者への一層の周知
 - ・難病患者等の障害福祉サービス等の活用が促されるようにすること
 - (6) 障害福祉サービス等及び障害児通所支援等の提供体制の確保に係る目標の設定
 - ・就労定着支援利用者数 (※)
 - ・自立生活援助利用者数 (※)
 - ・居宅訪問型児童発達支援利用児童数及び量の見込み (※)
 - ・医療的ケア児に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターの配置人数
- ※ 国が事業詳細を示した後、地域の実情等を基に設定します。

4 当事者等からの意見聴取

(1) ニーズ把握

ア 当事者ワーキング 全5回開催 <延べ参加者数：約80人>

イ 関係者団体グループインタビュー<計8団体、計8回>

横浜市身体障害者団体連合会／横浜市心身障害児者を守る会連盟
／横浜市精神障害者家族連合会／横浜市知的障害関連施設協議会
／横浜市障害者地域作業所連絡会／横浜市地域活動ホーム連絡会
／横浜市グループホーム連絡会／横浜市精神障害者地域生活支援連合会

ウ 障害児支援等に関する関係者団体アンケート調査及びヒアリング

<計3団体、計3回>

横浜障害児を守る連絡協議会／横浜重心グループ連絡会～ぱざぱネット～
／横浜市自閉症児・者親の会

(2) 当事者ワーキングや関係者団体グループインタビュー等で頂いた御意見（抜粋）

- ・障害理解を言葉で進めるだけでは難しい。交流や体験を通じて学ぶことが大切。
- ・差別はダメという強いメッセージを。
- ・身体障害があり特別支援学校に通ったが、今思えば統合教育の場で勉強が出来ていたらと思うことがある。
- ・津久井やまゆり事件はぜったいだめ。
- ・地域啓発する場が少ない。自治会や住民の集まりの場で障害理解の勉強会の開催を行う。
- ・計画相談事業所を増やすための、具体的な方向性を明示してほしい。
- ・グループホームの空き状況がわからない。
- ・知的障害をよく知る医師・看護師の育成が必要。
- ・療育センター、家庭、学校、事業所が無理なく繋がれる療育を。
- ・障害児の保育所・放課後児童健全育成事業等での受入れ推進のため、更に職員の障害理解が必要。
- ・あらゆる手段を検討し、人員・人材不足による福祉施策の滞りや偏りがないような施策を講じてください。
- ・障害者もできる作業をもっと増やしてほしい。
- ・本人たちが楽しめる場があるとよい。
- ・文化に触れる機会を増やすための仕組みが必要。

5 振り返り及び見直し内容（テーマ別）

＜参考資料1「第3期横浜市障害者プラン中間見直し 詳細版」より抜粋＞

テーマ1 出会う・つながる・助け合う

(1) 「障害者計画」に係る個別事業の振り返り及び新規事業

事業名	振り返り	平成29年度		評価	平成32年度目標
		目標	現状		
当事者や障害福祉関連施設、市民団体等による普及・啓発活動への支援	・セイフティーネットプロジェクト横浜による出前講座の開催など障害理解に向けた普及・啓発活動を実施。	推進	出前講座等の実施	○	推進
相談支援事業の周知及び普及・啓発	・全区の法人型地活ホームに相談員を配置し、「基幹相談支援センター」として位置付け相談支援機能を強化。	推進	相談支援の強化・普及	○	推進
発達障害者支援センター運営事業	・発達障害者が身近な地域で相談を受けられるよう各区福祉保健センターに特定相談日を設定。 (平成27年度プラン策定時:3区実施)	特定相談日実施区18区	全区実施	○	推進
合理的配慮を踏まえた情報発信のルール化	・「障害者差別解消の推進に関する取組指針」等を策定。 ・聴覚障害のある人へタブレット端末を活用した手話通訳サービスの提供による区役所窓口における対応の充実。	推進	実施	○	推進
当事者による相談の充実 (ピア相談)	・ピア相談員の派遣依頼が無く、実績が上がっていない。	実績の検証	派遣相談等の取組の周知不足	△	18区の法人型地活ホームにおいて派遣相談の活用
【新規】 「地域共生社会」の実現に向けた取組等の推進	【事業内容】 地域のあらゆる方が「支え手」と「受け手」に分かれるのではなく、地域、暮らし、生きがいとともに創り、高めあうことができる「地域共生社会」の実現に向けた取組等の推進。	—	—	—	推進
【新規】 難病患者等への必要な情報提供	【事業内容】 難病患者等、本人に対して必要な情報提供を行うこと等により、難病患者等の障害福祉サービス等の活用が促されるよう検討。	—	—	—	推進

【評価欄の凡例】 ○：想定した目標を達成し、想定したとおりの効果が得られた。

△：一定程度の効果は得られた。

×：想定した目標は達成できず、効果も得られなかった。

(2) 「障害福祉計画」に係るサービス見込み量等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
手話通訳者の派遣	8,900人	9,500人	9,900人	10,000人	10,500人	11,000人
	見込:7,897人	見込:8,343人	見込:9,900人			
計画相談支援利用者数	21,500人	23,000人	24,500人	22,000人	23,000人	24,000人
	見込:4,777人	見込:5,662人	見込:8,000人			
【新規】 発達障害者支援センター及び発達障害者地域支援マネージャーの外部機関や地域住民への研修、啓発	—	—	—	60件	65件	70件

テーマ2 住む、そして暮らす

(1) 「障害者計画」に係る個別事業の振り返り及び新規事業

事業名	振り返り	平成29年度		評価	平成32年度目標
		目標	現状		
行動障害のある方の住まい検討	・発達障害者支援センターに新たに地域支援マネジャー2人を配置。 (平成29年10月には2人増員予定) ・障害福祉サービス事業所等に対する行動障害・発達障害に係るコンサルテーションを実施。	推進	地域支援マネジャーの配置 (計4人)	○	推進
自立生活アシスタント	・単身等で生活する障害者が身近な地域で支援が受けられるよう、各区で体制整備を進め、平成28年度から全区実施。 (平成27年度プラン策定時：36か所)	事業所数 40か所 (全区実施)	事業所数 40か所 (全区実施)	○	推進
後見的支援制度	・親亡き後も安心して地域生活が送れる仕組みとして、平成27、28年度に、実施区をそれぞれ2区ずつ増やし、全区実施。 (平成27年度プラン策定時：14区)	全区実施	全区実施	○	推進
障害児施設の整備・再整備	・平成27年度に福祉型障害児入所施設「ぶどうの実(旧白根学園児童寮)」再整備完了。 ・重症心身障害児者施設について「横浜医療福祉センター港南」を平成28年6月に開所、「横浜療育医療センター」を平成28年度に再整備完了。 ・平成29年度には「ぽらいと・えき(旧横浜市なしの木学園)」の再整備完了予定。	工事完了 4か所	工事完了 4か所	○	施設状況等により検討
多機能型拠点の整備・運営	・常に医療的ケアを必要とする重症心身障害児・者の地域での暮らしを支援するため、相談支援、生活介護、訪問看護サービス及び短期入所などを一体的に提供できる多機能型拠点の3館目が、平成29年4月に瀬谷区に開所。 (平成27年度プラン策定時：2か所)	開所2か所 (累計4か所)	開所1か所 (累計3か所)	△	開所3か所 (累計6か所) (整備完了)
【新規】 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築	【事業内容】 精神障害者が、地域の一員として安心して自分らしく暮らすことができるよう、保健、医療、福祉関係者による協議の場を設置し、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムを構築。	—	—	—	推進

(2) 「障害福祉計画」に係るサービス見込み量等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
共同生活援助(グループホーム)利用者数	3,700人	3,900人	4,100人	4,352人	4,552人	4,752人
	見込:3,762人	見込:3,959人	見込:4,152人			
地域生活支援拠点の整備※	検討	検討	1か所	2か所	18か所	18か所
	見込:検討	見込:検討	見込:検討			

※ 国の基本指針で、整備完了目標年が「平成29年度末まで」から「平成32年度末まで」に延長。

テーマ3 毎日を安心して健やかに過ごす

(1) 「障害者計画」に係る個別事業の振り返り及び新規事業

事業名	振り返り	平成29年度		評価	平成32年度 目標
		目標	現状		
医療機関連携事業	・障害特性等を理解し適切な医療を提供できる医療機関として、知的障害者専門外来を3病院で開設。 (平成27年度プラン策定時：2病院)	推進	開設 4病院 (見込み)	○	推進
精神科救急医療対策事業	・精神科救急に対応する診療報酬を取得している病院の役割を整理し、精神科救急に係る指針を作成。 ・平成28年度には、深夜帯に急性期の患者の受け入れを行う民間病院を週5回に増やし、平成29年度には毎日通年稼働。 ・救急受入病院に、切れ目が生じやすかった夕方の時間帯において市内病院の輪番制を強化。	推進	実施	○	推進
(障害者差別に関する) 相談体制等の整備	・平成28年度に「横浜市障害者差別解消支援地域協議会」を設置し、相談事例の共有及び相談対応の検討。 ・解決が図られなかった差別事案のあっせんを行う「横浜市障害者差別の相談に関する調整委員会」を設置。	推進	実施	○	推進
医療従事者研修事業	・医療機関や福祉施設等に勤務する看護師を対象に「小児訪問看護・重症心身障害児者研修」を毎年度実施。	推進	実施	○	推進
医療機関ネットワーク等の構築	・重症心身障害児・者を対象としたアンケート結果を活用し、医療的ケアを要する障害児・者の生活を支えるための支援体制の構築を検討。	実態把握及び医療ネットワーク検討と構築	検討	○	推進
法人後見支援事業	・平成26年度から法人後見支援事業を実施し、法人後見実施団体や受任を目指す団体の連絡会等を開催。 ・障害のある方の家族や支援者向けの成年後見制度のパンフレットを作成。	推進	実施	○	推進
【新規】 医療的ケア児・者等の支援のための関係機関の協議の場の設置	【事業内容】 医療的ケア児・者等が適切な支援を受けられるよう、平成30年度末までに、保健・医療・障害福祉・保育・教育等の関係機関が連携を図るための協議の場を設置します。	—	—	—	推進

(2) 「障害福祉計画」及び「障害児福祉計画」に係るサービス見込み量等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
申立て及び報酬助成件数 (成年後見制度)	72人	79人	87人	173人	202人	232人
	見込:90人	見込:118人	見込:161人			
【新規】 医療的ケア児・者等に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターの配置	—	—	—	準備	1人	1人

テーマ4 いきる力を学び・育む

(1) 「障害者計画」に係る個別事業の振り返り及び新規事業

事業名	振り返り	平成29年度		評価	平成32年度 目標
		目標	現状		
特別支援学校におけるICT機器の活用	・平成26～28年度の3か年で全ての特別支援学校(12校)でタブレット端末の実践研究を実施し、平成26年度中間報告、29年度最終報告(予定)。	推進	実施	○	推進
障害特性に応じた支援のための研修	・障害福祉サービス事業所等の職員を対象に、行動障害に係る支援力向上を図るための研修を市内法人が共同して「オール横浜」として実施。 (平成28年度:2回実施)	推進	実施	○	推進
学齢後期障害児支援事業	・相談対応延べ件数は増加傾向にあり、4か所目の事業実施を検討。 (平成27年度プラン策定時:3か所)	4か所	3か所	△	4か所
就学・教育相談の体制強化	・平成28年度は4,267件の就学・教育相談を実施。前年度に比べ約300件増加したため、関係機関との更なる連携を検討。	推進	平成29年度:4,300件(見込み)	△	推進
学生等を対象とした人材の確保事業	・平成27年「福祉のしごとフェア」に関連団体と参画。 ・障害福祉人材不足の解決に向け、民間事業者と協働して、有効な広報や打聞策を検討。	推進	実施	△	推進

(2) 「障害児福祉計画」に係るサービス見込み量等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
障害児相談	4,000人 実績:1,771人	4,500人 実績:2,630人	5,000人 見込:3,950人	5,700人	6,400人	7,000人
放課後等デイサービス事業	130か所 実績:162か所	165か所 実績:217か所	200か所 見込:262か所	300か所	350か所	推進
	229,000人※ 実績:350,782人※	298,000人※ 実績:521,130人※	368,000人※ 見込:656,000人※	720,000人※	840,000人※	推進

※ 年間の延べ利用人数

【新規】 子ども・子育て支援等(保育所、放課後児童健全育成事業所等)における障害児の受入れ体制の整備	—	—	—	関係機関と連携し、子ども・子育て支援等(保育所、放課後児童健全育成事業所等)へ、保育所等訪問支援、巡回訪問及び研修等を拡充することにより、利用を希望する障害児の受入れ体制の整備を引き続き推進。		
【新規】 居宅訪問型児童発達支援	—	—	—	国が事業詳細を示した後、地域の実情等を基に設定。		

テーマ5 、働く・活動する・余暇を楽しむ

(1) 「障害者計画」に係る個別事業の振り返り及び新規事業

事業名	振り返り	平成29年度		評価	平成32年度目標
		目標	現状		
働きたい！あなたのシンポジウム	シンポジウムを開催し、当事者・御家族等に対して就労啓発を実施(平成27～28年度参加者数累計：824人)	参加者累計 600人	平成29年度 参加者数 累計 1,224人	○	参加者累計 3,000人
移動情報センター運営等事業の推進	・移動情報センターの窓口を平成28年度までに15区に設置。平成29年度に新たに3区で開設し、全区展開予定。 (平成27年度プラン策定時：9区)	相談件数 2,500件	平成29年度 相談件数 2,500件 (見込み)	○	相談件数 3,600件
障害者スポーツの啓発	・他都市取組の情報収集を進めると同時に、障害者スポーツ体験会を市内公立学校を中心に開催。 ・横浜マラソンの寄付金を活用し、リオパラリンピック出場選手への助成金の交付や、リオパラリンピックの撮影を行った写真家の写真展を開催し、オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた啓発活動を実施。	啓発方法の 検討	実施	○	推進
よこはま障害者共同受注総合センターの運営	・平成27年度にセンターを開設。 ・市内障害者施設等の登録を進め、作業内容などの情報を集約し、WEBで周知を実施したほか、工賃向上のため、企業訪問やパンフレットの改訂、技術指導を実施。 ・工賃総額は増加したものの、加盟施設及び利用者の増により平均工賃は目標を下回る見込み。 (平成27年度平均月額工賃：10,200円)	加盟施設における「月額平均工賃」が10%以上上昇	加盟施設における「月額平均工賃」の維持(見込み)	△	加盟施設における「月額平均工賃」が10%以上上昇

(2) 「障害福祉計画」に係るサービス見込み量等

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
就労移行支援事業	657人分	807人分	898人分	1,376人分	1,628人分	1,949人分
	実績：830人分	実績：950人分	見込：1,036人分			
	10,911人※	13,683人※	15,252人※			
移動支援事業(移動介護・通学通所支援)	668,820時間分	668,978時間分	709,744時間分	724,125時間分	745,849時間分	768,224時間分
	実績：659,335時間分	実績：682,557時間分	見込：703,034時間分			
	4,546人分	4,819人分	5,109人分			
	実績：5,105人分	実績：5,401人分	見込：5,671人分	5,898人分	6,134人分	6,379人分

※ 月の延べ利用人数

6 今後のスケジュール（予定）

日 程	内 容	
9月25日 ～10月	中間見直し報告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民意見募集（9月25日～10月25日） ・ 市民説明会・関係者団体説明
11月	市民意見募集報告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 横浜市自立支援協議会 ・ 第3回横浜市障害者施策検討部会 ・ 第2回横浜市障害者施策推進協議会
12月		<ul style="list-style-type: none"> ・ 常任委員会へ報告
1月		<ul style="list-style-type: none"> ・ 第4回横浜市障害者施策検討部会
2月	第3期横浜市障害者プラン改訂版報告	<ul style="list-style-type: none"> ・ 横浜市自立支援協議会 ・ 第3回横浜市施策推進協議会 ・ 常任委員会へ報告

だい 3 き 第 3 期

よこはま し しょうがいしゃ ぷ ら ん ちゅうかん み なお 横浜市 障害者プラン 中間見直し

しょう さい ばん 詳 細 版

※この冊子には、今回見直されたすべての取組・事業が掲載してあります。この中には、「現プランに掲載されているが、今回の見直しを経て後期3年間（平成30年度～32年度）のサービス見込み量等を設定したものと、「国の基本指針等を踏まえて新たに取組む事業（今まで掲載されていなかった事業）」の2種類によって構成されています。現プランの第3章（46頁～127頁）を基に作成しています。

【凡例】

＜事業名欄＞

- ㊦：「障害福祉計画」で定めるサービス等の見込み量等を指します。
- ㊧：「障害児福祉計画」で定めるサービス等の見込み量等を指します。
- 【新規】：国の基本指針等（平成29年3月31日告示）を踏まえ新たに実施する事業を指します。
- ㊨：第2期であるしん施策として開始した事業を指します。
- ※ 上記以外のものは障害者計画の個別事業を指します。

＜評価欄の説明＞

- ：想定した目標を達成し、想定したとおりの効果が得られた。
- △：一定程度の効果は得られた。
- ×：想定した目標は達成できず、効果も得られなかった。

目次

テーマ1 出会う・つながる・助け合う

とりくみ 取組1-1	ふきゅう けいはつ 普及・啓発	…… 1	とりくみ 取組1-2	そうだん しえん 相談・支援	…… 5
とりくみ 取組1-3	じょうほう ほしように 情報の保障	…… 14	とりくみ 取組1-4	さいがいたいさく 災害対策	…… 17

テーマ2 住む、そして暮らす

とりくみ 取組2-1	すまい 住まい	…… 20	とりくみ 取組2-2	くらし 暮らし	…… 30
---------------	------------	-------	---------------	------------	-------

テーマ3 毎日を安心して健やかに過ごす

とりくみ 取組3-1	けんこう いりよう 健康・医療	…… 38	とりくみ 取組3-2	ばりあふりー バリアフリー	… 49
とりくみ 取組3-3	けんりようご 権利擁護	…… 53			

テーマ4 いきる力を学び・育む

とりくみ 取組4-1	りょういく 療育	…… 61	とりくみ 取組4-2	きょういく 教育	…… 67
とりくみ 取組4-3	じんざい かくほ いくせい 人材の確保・育成	…… 77			

テーマ5 働く、活動する・余暇を楽しむ

とりくみ 取組5-1	しゅうろう 就労	…… 82	とりくみ 取組5-2	ふくし てきしゅうろう 福祉的就労	…… 87
とりくみ 取組5-3	にっちゅうかつどう 日中活動	…… 89	とりくみ 取組5-4	いどうしえん 移動支援	…… 92
とりくみ 取組5-5	ぶんか すぽーつ れくりえーしょん 文化・スポーツ・レクリエーション	…… 96			



◆持続的な普及・啓発の促進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
とうじしゃ しょうがいふくし 当事者や障害福祉 かんれんしせつ 関連施設、 しみんだんたいどう 市民団体等による ふきゅう けいはつかつどう 普及・啓発活動へ の支援	せいふてい-ねつとぶろじえくと セイフティーネットプロジェクト よこはま しょうがいふくしかんれんしせつ 横浜(*1)や障害福祉関連施設、 しみんだんたいどう しょうがいりかい 市民団体等による障害理解のための けんしゅう こうえん ちいきかつどう しえん きょう 研修や講演、地域活動を支援・協 働するなど、様々な普及・啓発を すすしん 推進します。 ふかえ <振り返り> しょうがいふくしかんれんしせつ じっし しょうがい 障害福祉関連施設が実施する障害 りかい かん じぎょう けいひめん しえん 理解に関する事業を経費面で支援し ました。また、せいふてい-ねつと ぶろじえくとよこはま だまごうぎ プロジェクト横浜による出前講座の かいさい しょうがいりかい む ぶ 開催など、障害理解に向けた普 きゅう けいはつかつどう じっし 及・啓発活動を実施しました。	すすしん 推進*2	だまごうぎ 出前講座等 のじっし 実施	○	すすしん 推進	
しょうがいしゃほんにんおよ 障害者本人及び かぞく ぶきゅう 家族による普及・ けいはつかつどう すいしん 啓発活動の推進	しゃかいさんかすいしんせんた- ちゅうしん 社会参加推進センターが中心とな り、しょうがいしゃほんにん かぞくおよ かくだんたい 障害者本人、家族及び各団体と れんけい きょうどう しょうがいりかい そくしん む 連携・協働し、障害理解の促進に向 ふきゅう けいはつかつどう すいしん けた普及・啓発活動を推進します。 ふかえ <振り返り> しゃかいさんかすいしんせんた- とう ぶ 社会参加推進センター等により、普 きゅうけいはつり-ふれつと さくせいおよ けいはつ 及啓発リーフレットの作成及び啓発 こうぎとう じっし 講座等を実施しました。	すすしん 推進	ぶきゅうけいはつ 普及啓発 り-ふれっ リーフレッ と さくせいおよ トの作成及 び啓発講座 とう じっし 等の実施	○	すすしん 推進	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
しっぺい しょうがい 疾病や障害に かん しょうほう はっしん に関する情報の発信	<p>ほ む ペ ー じ などの ばいたい かつよう ホームページなどの媒体を活用し、しっぺい しょうがい かん しょうほう し 疾病や障害に関する情報や支援に関わる活動を しょうかい し 市民や当事者・関係者の理解促進に努めます。</p> <p><振り返り> ねんど しょうほうこうしん しょうかい 年度ごと情報更新をし、紹介しました。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	△	すいしん 推進	
かくく ふきゅう けいはつ 各区の普及・啓発 かつどう そくしん 活動の促進	<p>かくく じゅうみん たい しょうがい 各区の住民に対して、疾病や障害等に対する理解を深めるための研修や啓発活動の支援を行います。</p> <p><振り返り> かくくどくじ ちいきとくせい おう ふきゅう 各区独自で地域特性に応じた普及・啓発活動をしました。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	

* 1…セイフティーネットプロジェクト横浜は、よこはま市 15 のしょうがいふくしかんけいだんたい 機関で組織されています。とうじしゃ かぞく しゅたい 当事者や家族が主体となっており、自分たちのできることから活動していくことをたいせつ 大切にしながら、ちいき ひとびと さまざまなしょうがい 地域の人々へ障害についての理解を深めてもらい、しょうがい ひと 地域で安心して暮らしていけるよう、かつどう 活動しています。

* 2…「推進」とは、けいぞく ちやくじつ とく 継続して着実に取り組むことをあらわ 表しています。



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
<p>こうしゅ ず が こうさく 4校種 図画工作・ びじゅつ しやうさくひんてん 美術・書道作品展 とくべつしえんきやういくぶもん 特別支援教育部門 ~つたえたい ぼく のおもい わたしの きもち~の開催</p>	<p>こうしゅ しやう ちゅう こう とくべつしえん 4校種（小・中・高・特別支援） の幼児児童生徒の作品を一堂に集 め、市民公開の作品展を開催するこ とで、障害のある子どもの文化活動 に関する普及・啓発を図ります。 <振り返り> こうしゅ しやう ちゅう こう とくべつしえん 4校種（小・中・高・特別支援） の幼児児童生徒の作品を一堂に集 め、市民公開の作品展を開催し、毎 年1万人を超える市民が来場してい ます。また、平成28年度にはNPO ほうじん こうえん う てんじ ぱねる 法人の後援を受け、展示するパネル を新しくすることができました。</p>	すいしん 推進		さくひんてん 作品展を かいさい 開催	○	すいしん 推進		
<p>しんき 【新規】 ち いき ぎやうせいしゃかい 「地域共生社会」 じつげん む の実現に向けた とりくみとう すいしん 取組等の推進</p>	<p>ちい き かた さき て 地域のあらゆる方が、「支え手」と 「受け手」に分かれるのではなく、 ちい き く い つく 地域、暮らし、生きがいをともに創 り、高めあうことができる「地域 ぎやうせいしゃかい じつげん む とりくみとう 共生社会」の実現に向けた取組等を すいしん 推進していきます。</p>	—	—	—	—	すいしん 推進		



がくれいき じゅうてんてき ふきゅう けいはつ
◆学齢期への重点的な普及・啓発

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
がくれいきじどうおよび 保護者への障害理解啓発	<p>市内の当事者団体等の協力を得ながら、障害理解を進める教材等を、教育委員会と連携しながら作成します。また、それとともに、学齢期児童と保護者が、障害児・者と一緒に関わる機会の場について、実施方法を検討します。</p> <p><振り返り></p> <p>市内の当事者団体等の協力を得ながら、教育委員会事務局と連携し、教職員向けの障害理解を進める冊子を作成・発行しました。</p>	すいしん 推進		しょうがい 障害理解を進める教材等の作成	○	すいしん 推進		
ふくがくせき 副学籍による交流教育及び共同学習	<p>特別支援学校に在籍する児童生徒が、居住地の小・中学校の児童生徒と一緒に学ぶ機会の拡大を図るなど、交流教育と共同学習を進めるとともに、特別支援学校の児童生徒に対する必要な教育的支援を、居住地の学校においても行います。</p> <p>小・中学校の児童生徒には、障害児・者に対する理解を含め、心の障壁をつくらない「心のバリアフリー」を育むことを目指します。</p> <p><振り返り></p> <p>毎年、200人を超える児童生徒が副学籍交流を利用し、居住地の小・中学校での授業や校外活動において一緒に学ぶ機会を設けることができました。</p>	すいしん 推進		へいせい ねんど 平成29年度 じゅうし じどうすう 実施児童数 : 223人 (見込み)	△	すいしん 推進		



◆相談支援体制の再構築と充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
<p>そうだん し えん じぎょう 相談支援事業の しゅうち およ ぷ きゅう 周知及び普及・ けいはつ 啓発</p>	<p>しょうがいしゃ かぞく みぢか きかん あん 障害者やその家族が身近な機関に安 しん そうだん 心して相談することができるよう、身 ぢか そうだんしゃ たいしょう そうだん し えん 近な相談者を対象として、相談支援 じぎょう しゅうち けいはつ おこな 事業の周知、啓発を行います。 ふ かえ <振り返り> ぜんく ほうじんがたち かつ ほ ー む そうだんいん 全区の法人型地活ホームに相談員を はいち きかん そうだん し えん せん た ー 配置し、「基幹相談支援センター」と い ち づ そうだん し えん き の う きょう か して位置付け相談支援機能を強化し ました。</p>	すいしん 推進		そうだん し えん 相談支援の きょうか 強化・ ぷ きゅう 普及	○	すいしん 推進		
<p>そうだん し えん じゅう じ しゃ 相談支援従事者の じんざいいくせい 人材育成</p>	<p>よこはまし じりつ し えん きょう ぎ かい い か し じ 横浜市自立支援協議会（以下「市自 りつ し えん きょう ぎ かい 立支援協議会」といいます。）で作成 した「よこはまし そうだん し えん じゅう じ しゃ じんざいいく 成ビジョン」に基づき、人材育成を進 めめます。 ふ かえ <振り返り> し じりつ し えん きょう ぎ かい じんざいいくせい ぶ かい 市自立支援協議会人材育成部会にお いて、「よこはまし そうだん し えん じゅう じ しゃ じんざいいく 成ビジョン」を平成28年度に改訂 し、へいせい ねんど ほん び じ ょ ん ち と 平成29年度から本ビジョンに基 づいたじんざいいくせい と く 人材育成に取り組めるように けんとう おこな 検討を行っています。 く じりつ し えん きょう ぎ かい そうだん し えん また、区自立支援協議会に相談支援 ぶ かい せっち そうだん いん どう し よこ 部会を設置し、相談員同士の横のつな がりを うなが そだ あ かんきょう せい び 促し、育ち合える環境の整備 すいしん を推進しています。</p>	すいしん 推進		かいていばん よこ 改訂版「横 はまし そうだん し 横浜市相談支 えん じゅう じ しゃ 援従事者 じんざいいくせい び 人材育成ビ じょん ジョン」に もと じんざいいくせい 基づき人材 い く せい じつ し 育成を実施	△	すいしん 推進		

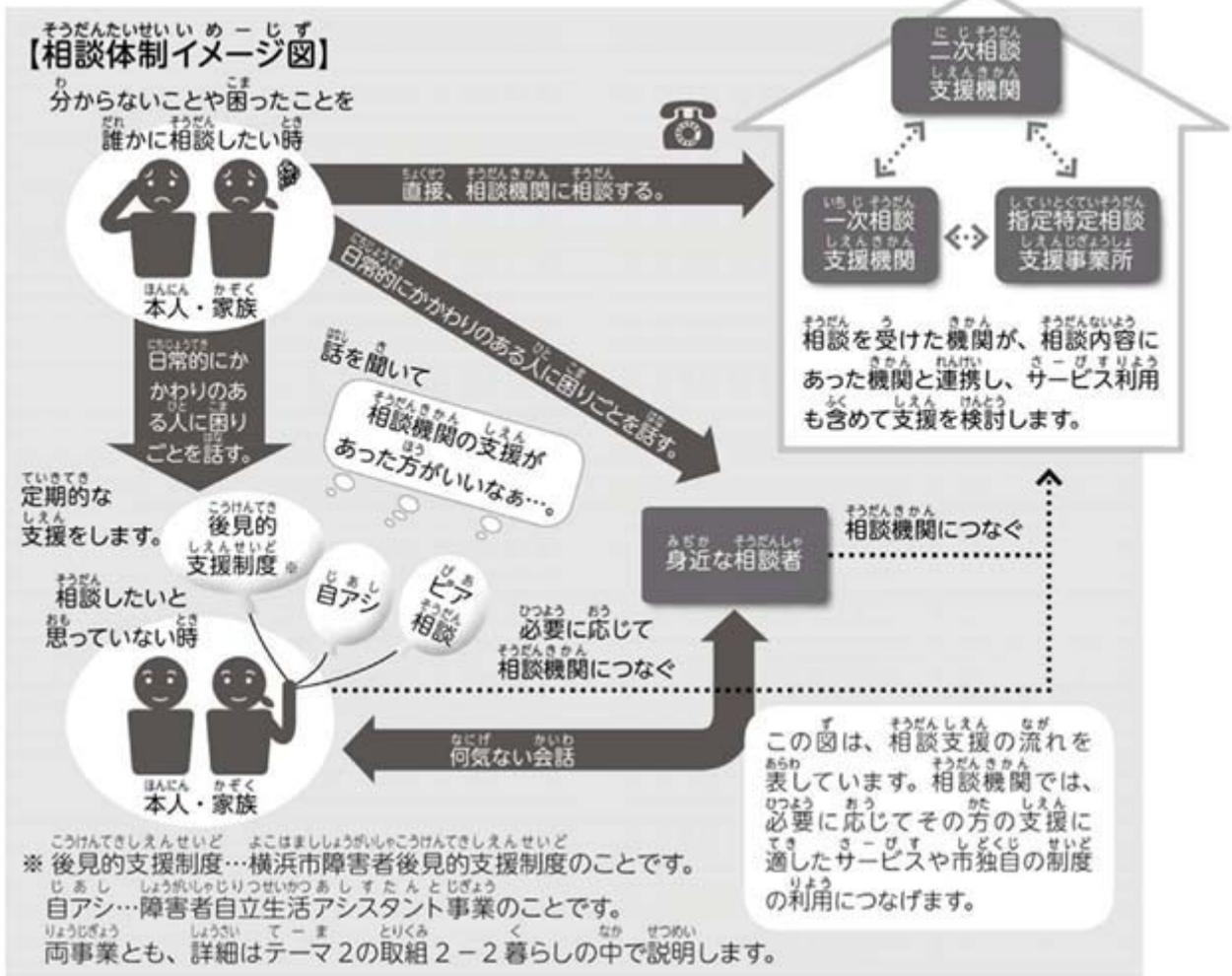


じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
とうじしゃ そうだん 当事者による相談 の充実	<p>しゃかいさんかすいしんせんたーにせつちするび。社会参加推進センターに設置するピア相談センターでの当事者相談を検証し、当事者による相談支援を推進します。</p> <p><振り返り> ピア相談員研修を活用し、ピア相談員のスキルアップを図りました。また、ピア相談センターコーディネーターが一次相談支援機関の集まりに参加し、派遣相談等の取組の周知をおこなって行っていますが、派遣依頼が無く、実績が上がっていません。</p>	じっせき 実績の けんしょう 検証		はけんそうだんとう 派遣相談等 の取組の しゅうち 周知	△	18区の社会 福祉法人型 地活ホーム において派 遣相談の活 用		
きそん そうだんまどぐち 既存の相談窓口 (ちいきけあぶらざ 地域ケアプラザ 等) による連携	<p>ひごろのかかわりの中で、何気ない会話に含まれている相談を身近な相談者としてとらえ、必要に応じて、一次及び二次相談支援機関につなげます。</p> <p><振り返り> 地域の身近な相談機関である、地域ケアプラザにおいて、障害に関する相談を受け、必要に応じて適切な機関へつなげました。</p> <p>へいせい ねん ど 平成27年度 そうだんけんすう 相談件数：1,632件 へいせい ねん ど 平成28年度 そうだんけんすう 相談件数：2,501件</p>	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		



福【見込み】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
けいかくそうだん 計画相談 しえん 支援	21,500 人	23,000 人	24,500 人			
りようしゃすう 利用者数 ねんかん (年間)	実績: 4,777 人	実績: 5,662 人	8,000 人 (実績見込み)	22,000 人	23,000 人	24,000 人



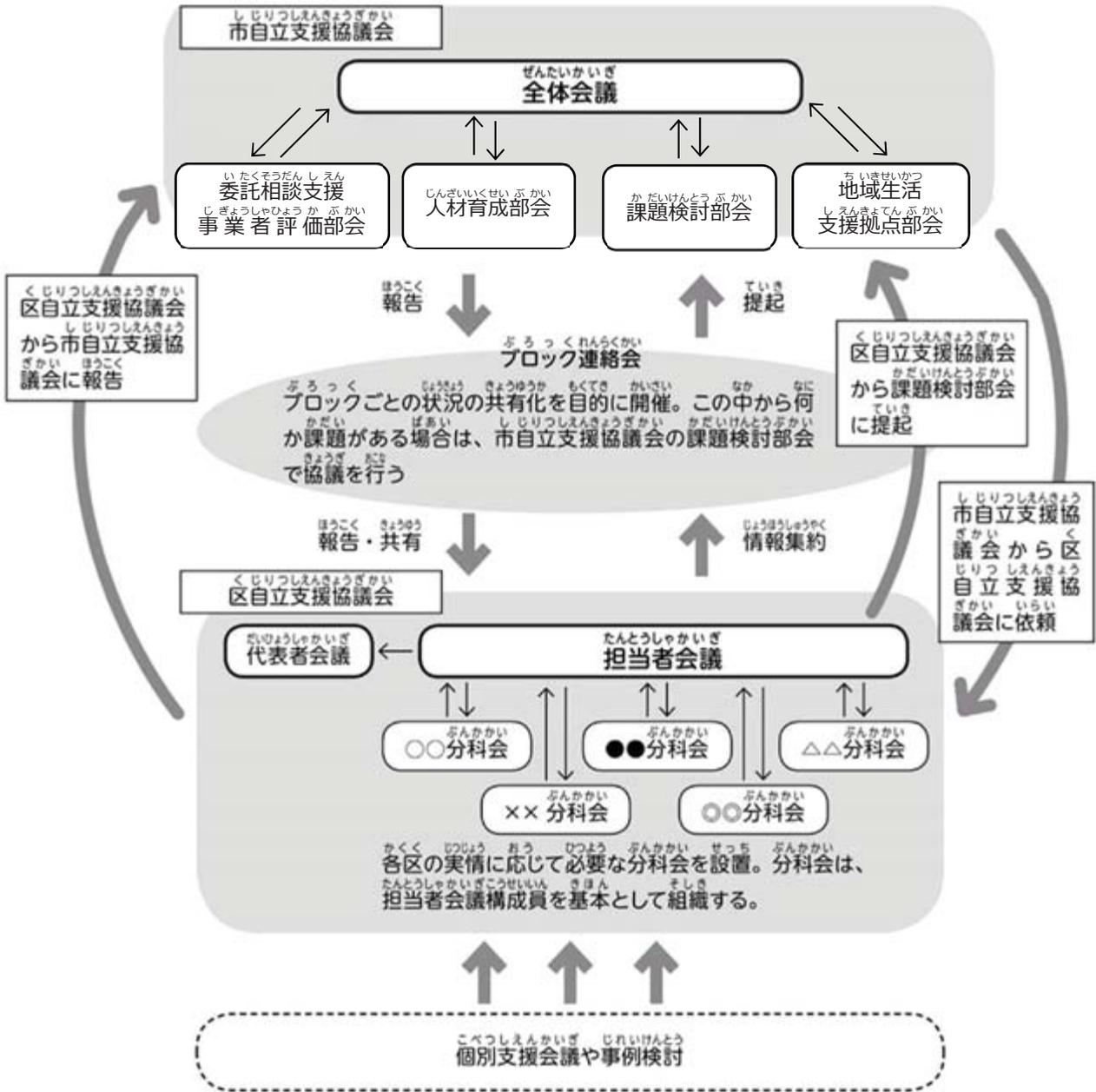
分類	役割	機関
身近な相談者	日頃の関わりの中で、何気ない会話に含まれている相談に気づき、必要に応じて適した相談支援機関につなげます。	学校、施設、医療機関、近隣住民、サービス提供事業者、グループホーム、作業所、地域ケアプラザ、障害者支援センター、区社会福祉協議会、中途障害者地域活動センター、ピア相談センターなど
指定特定相談支援事業所	計画相談支援を利用する方の支援の中心を担います。	各指定特定相談支援事業所
一次相談支援機関	地域の相談支援専門機関として、どんな相談でも受け止め、支援を考えます。また、計画相談支援を利用しない方の支援の中心を担います。	基幹相談支援センター、生活支援センター、療育センター、区福祉保健センター、児童相談所、就労支援センターなど
二次相談支援機関	専門的・個別的な相談及び助言を行います。他の機関と異なり、専門知識を生かして一次相談支援機関等が行う支援をサポートします。	障害者更生相談所、こころの健康相談センター、総合保健医療センター、総合リハビリテーションセンター、十愛病院、横浜療育医療センター、てらん広場、花みずき、青葉メゾン、発達障害者支援センター



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しじりつしえんきょうぎかい 市自立支援協議会 くじりつしえんきょうぎ と区自立支援協議 かいれんけいれんどう 会の連携・連動	かくく かいさい 各区で開催されている区自立支援協 ぎかい とりくみ けんどうないよう しじりつし えんきょうぎかい しさくてんかい 議会議会での取組や検討内容を、市自立支 れんけい れんどう しく せいり 援協議会での施策展開にいかすた め、連携・連動の仕組みを整理します。 ふ かえ <振り返り> しじりつしえんきょうぎかい くじりつしえんきょうぎ 市自立支援協議会に区自立支援協 議 かい けんどう ちいきかだい ほうこく しさく 会で検討した地域課題の報告や施策 ていあん おこな る ー る さだ の提案などを行うルールを定めるこ しじりつしえんきょうぎかい くじりつし とで、市自立支援協議会と区自立支 えんきょうぎかい れんけい れんどう しく 援協議会が連携・連動する仕組みを つくりました。	すいしん 推進	じっし 実施		△	すいしん 推進		
くいき こ 区域を超えた おうだんてき けんどう 横断的な検討の すいしん 推進	くいき かいけつ かだい きょうゆう 区域で解決できない課題の共有や、 あら しゃかいしげん そうせつ む けんどう 新たな社会資源の創設に向けた検討、 しじりつしえんきょうぎかい しさくていあん じょう 市自立支援協議会への施策提案(情 ほうていきょう もくてき くいき 報提供)などを目的として、区域を こ けんどう ぼ せつち 超えた検討の場を設置します。 ふ かえ <振り返り> しじりつしえんきょうぎかい ちいきかだい ほう 市自立支援協議会への地域課題の報 こくどう あ る ー る さだ 告等を挙げるルールを定めたことで、 くじりつしえんきょうぎかいおよ ぶ、ろっく れんらく 区自立支援協議会及びブロック連絡 かい しいき かだい きょうゆう たい 会における、市域の課題の共有や対 おう けんどう かつぱつか 応の検討が活発化しました。	すいしん 推進	じっし 実施		△	すいしん 推進		

【自立支援協議会 体制イメージ図】

しじりつしえんきょうぎかい たいせいイメージ図
 しじりつしえんきょうぎかい くじりつしえんきょうぎかいかんれんず
 市自立支援協議会と区自立支援協議会関連図



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
なんびょうかんじゃ そうだん 難病患者への相談 しえん じっし 支援の実施	いりよう ふくし せいかつとう かん ちしき 医療、福祉、生活等に関する知識を え 得るための難病医療講演会や、生活 じょう 上の工夫などについて情報交換を おこな 行うための交流会等を、引き続き実 し 施します。 <ふりかえり> かくく 各区において、専門医による医療講 えんかい 演会を年間2回ずつ、疾患別の交流 かい 会を実施しています。 へいせい ねん ど かいさいすう 平成27年度開催数：203回 へいせい ねん ど かいさいすう 平成28年度開催数：193回	—	—	へいせい ねん ど 平成29年度 こうりゅうかい 交流会 かいさいすう 開催数 : 200回 (みこみ)	○	—	—	
しん き 【新規】 なんびょうかんじゃとう 難病患者等への ひつよう 必要な情報提供	なんびょうかんじゃとう ほんにん たい ひつよう じょう 難病患者等、本人に対して必要な情 ほうていきょう おこな 報提供を行うこと等により、難病 かんじゃとう しょうがいふくし きーびすとう かつよう 患者等の障害福祉サービス等の活用 うなが が促されるよう検討します。	—	—	—	—	—	—	
はつたつしょうがいしゃしえん 発達障害者支援 せんたーうんえいじぎょう センター運営事業	はつたつしょうがいしゃしえん せんたー しょくいん が かくく 各区域で、区職員と一緒に そうだん 相談を受ける特定相談日を設けます。 <ふりかえり> はつたつしょうがいしゃ みちか ちいき そうだん う 発達障害者が身近な地域で相談を受 けられるよう、かくふくしほけんせんたー とくていそうだんび 特定相談日を設けました。	とくていそうだんび 特定相談日 じっしゅく 実施区 18区 へいせい (平成27 ねん ど 年度)	ぜんくじっし 全区実施	○	すいしん 推進			



福【見込み】

	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
<p>【新規】 はつたつしようがいしゃ しえん ちいききょうぎ 発達障害者支援地域協議 かい かいさいけんすう 会の開催件数</p>	4 けん 件	4 けん 件	4 けん 件
<p>【新規】 はつたつしようがいしゃ しえん せんたー 発達障害者支援センターに そうだんけんすう よる相談件数</p>	6,000 けん 件	6,000 けん 件	6,000 けん 件
<p>【新規】 はつたつしようがいしゃ しえん せんたー およ び発達障害者支援センター及 はつたつしようがいしゃ ちいき しえん まね ジャーの関係機関への助言 けんすう 件数</p>	200 けん 件	200 けん 件	200 けん 件
<p>【新規】 はつたつしようがいしゃ しえん せんたー およ び発達障害者支援センター及 はつたつしようがいしゃ ちいき しえん まね ジャーの外部機関や地域住 民への研修、啓発</p>	60 けん 件	65 けん 件	70 けん 件

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
<p>こうじのうきのうしょうがい 高次脳機能障害に かか かんけいきかん 関わる関係機関の れんけいそくしん 連携促進</p>	<p>こうじのうきのうしょうがい たい しえん に ー ず 高次脳機能障害に対する支援ニーズ たいおう こうじのうきのうしょうがいし に対応するため、高次脳機能障害支 えん せんたー ちいき かんけいきかん れん 援センターと地域の関係機関との連 けい そくしん 携を促進します。 <ふ かせ 振り返り> こうじのうきのうしょうがい たい せんもんそうだん 高次脳機能障害に対する専門相談を おこな そうだん しえんきよてん かくだい しょ 行う相談支援拠点を拡大し、10か所 で実施しました。今後全区に展開を予 じっし こんごぜんく てんかい よ 定しています。</p>	—	18 しょ (全区) (見込み)	○	—	



ぎょうせいじょうほう ごうりてきはいりよ すいしん
◆行政情報における合理的配慮の推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
こみゆにけーしょ コミュニケーション んぼーど かーど ンボード・カード かつようそくしん の活用促進	<p>もじ ことば による こみゆにけーしょ 文字や言葉によるコミュニケーション ん ががて ひと が、ぼーど かーど えが ンが苦手な人が、ボードやカードに描 かかれた絵や記号を指さすことで、意思 え きごう ゆび を伝えやすくするツールの活用を継 つた つーる かつよう けい 続して行います。</p> <p><ふ かえ 振り返り></p> <p>せいふてい-ねつとぶるじえくとよこ セイフティーネットプロジェクト横 はま において、こみゆにけーしょんぼー ど かーど かつよう すいしん ド・カードの活用を推進したほか、地 いきぼうさいきよてんとう かつよう こみゆにけ 域防災拠点等で活用するコミュニケ ーしょんぼーど (さいがいよう そうさつ ーしょんぼーど (災害用) を増刷し、 またお店で活用するこみゆにけーし よんぼーど みせ かつよう こみゆにけーし ョンボード (お店用) の改訂を行 い ました。</p>	—	—	—	○	—	—	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
じょうほうはっしん 合理的配慮を踏ま えた情報発信の ルール化	し かくしょうがいしゃ ちょうかくしょうがいしゃおよ ち てき 視覚 障害者、聴 覚 障害者 及び知的 しょうがいしゃとう じょうほうていきょう 障害者等への 情報提供 について、 ぎょうせいじょうほうはっしん る ー る か が い どの 行政 情報発信のルール化、ガイドラ い ん とう さくせい けんとう イン等の作成を検討します。 <ふりかえり> ・「しょうがいしゃさべつかいしょう すいしん かん 障害者差別 解消の推進 に関する とりくみししん しょうがい りゆう 取組指針」や「障 害を理由とする さべつかいしょう すいしん かん しょうくいんたいおう 差別 解消の推進に関する 職 員対応 しょうりょう さくてい しょうがい ひと 要領」を策定し、障 害のある人の いこう かくにん ぼめん おう かんが 意向を確認し、場面に 応じて 考え、 たいおう ほんし たいおう き 対応していくことを本市の 対応の基 ほん 本としました。 ・ちょうかくしょうがい ひと じょうほう ほししょう 聴 覚 障害のある人への 情報保障 とりくみ たぶれつ とたんまつ かつよう の取組として、タブレット端末を 活用 しゅうわつうやくさーびす ていきょうとう した手話通訳サービスの 提供 等によ くやくしょまどぐち しゅうわつうやくたいおう り、区役所窓口における手話通訳対応 じゅうじつ はか の充 実を図りました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			



【見込み】

	へいせい ねん ど 平成27年度	へいせい ねん ど 平成28年度	へいせい ねん ど 平成29年度	へいせい ねん ど 平成30年度	へいせい ねん ど 平成31年度	へいせい ねん ど 平成32年度
しゅわつうやくしゃ はけん 手話通訳者の派遣 (利用者数)	8,900 人 実績: 7,897 人	9,500 人 実績: 8,343 人	9,900 人 9,900 人 (実績見込み)	10,000 人	10,500 人	11,000 人
ようやくひつ きしゃ はけん 要約筆記者の派遣 (利用者数)	1,750 人 実績: 1,494 人	1,800 人 実績: 1,591 人	1,900 人 1,900 人 (実績見込み)	1,900 人	1,900 人	1,900 人
しゅわほうしんいんようせい 手話奉仕員養成 研修事業 (養成人数)	80 人 実績: 44 人	80 人 実績: 144 人	80 人 172 人 (実績見込み)	172 人	172 人	172 人
しゅわつうやくしゃ ひつき 手話通訳者・筆記 者養成研修事業 (養成人数)	40 人 実績: 50 人	40 人 実績: 61 人	40 人 90 人 (実績見込み)	90 人	90 人	90 人
もう しゃむ 盲ろう者向け 通訳・介助員養成 研修事業 (養成人数)	25 人 実績: 4 人	25 人 実績: 21 人	25 人 30 人 (実績見込み)	30 人	30 人	30 人



さいがいじ じじよ きょうじよ こうじよ しんどう
◆災害時の自助・共助・公助の浸透

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
さいがいじ ようえんごしゃ 災害時要援護者 しえんじぎょう 支援事業	さいがいじ じりきひなん こんなん ようえんごしゃ 災害時に自力避難が困難な要援護者 あんびかくにん ひなんしえんとう かつどう えん の安否確認や避難支援等の活動が円 かつ おこな じょうほうきょうゆうほう 滑に行われるよう、「情報共有方 しき じっしどう つう さいがい そな 式」の実施等を通じて、災害に備えた ひごろ ちいき じしゆてき ささ あ 日頃からの地域での自主的な支え合 いとりくみ しえん いの取組を支援します。 <振り返り> さいがいじ ようえんごしゃしえん とりくみ じっし 災害時要援護者支援の取組を実施し ていじちかい ちょうないかい わりあい ている自治会・町内会の割合 へいせい ねんどまつ ぼーせんと 平成28年度末：82.2 %	さいがいじ ようえん 災害時要援 ごしゃしえん 護者支援の とりくみ じっし 取組を実施 している自 ちかい ちよう 治会・町 ないかい わりあい 内会の割合 ぼーせんと 82.2 % (見込み) : 80 %			○	すいしん 推進		
しょうがいしゃ しえんしゃ 障害者・支援者に きゃらばんたい よるキャラバン隊 はけんしえんじぎょう 派遣支援事業	かくく じっし ちいきぼうさいきてんくんれん 各区で実施される地域防災拠点訓練 に、せいふていーねつとぶろじえく とよこはま さんか しえん ト横浜が参加しやすいように支援 し、しょうがいとくせい せつめい し、障害特性を説明します。そして さんかしゃ たい しょうがいしゃ ぼらんて 参加者に対し、障害者へのボランテ いあしえん しょうがいじ しゃ こみゆに ィア支援や障害児・者とのコミュニ けーしょん しかい はか ケーションについて、理解を図りま す。 <振り返り> せいふていーねつとぶろじえくとよこ セーフティーネットプロジェクト横 はま きょうりよく え ちいきぼうさいきてんくんれん 浜の協力を得て、地域防災拠点訓練 においてしょうがいりかい かか だまごうざ において障害理解に係る出前講座を じっし だまごうざ かつよう 実施しました。また、出前講座の活用 む かくくやくしよ かつどう しゅうち に向け、各区役所に活動を周知しま した。	すいしん 推進	じっし 実施	△	すいしん 推進			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しょうがいしゅべつさいがいじ 障害種別災害時 たいおうまにゅある 対応マニュアルの さくせい 作成	さいがいはっせいちよくご 災害発生直後から復興期に至る期間 において、障害種別ごとの対応マニ ュあるさくせい ュアルを作成します。 <振り返り> しょうがいしゅべつ 障害種別ごとの特性等が記載された しょうがいしゃりかいけいはつさっし 障害者理解啓発冊子「心と手を貸し てください」を各区地域防災拠点運営 いんかい 委員会で配付したほか、地域防災拠点 くねんどう 訓練等で障害特性を含めた対応方法 の周知に取り組みました。	たいおうまにゅ 対応マニ ュアルの内容 けんどう 検討	たいおうまにゅ 対応マニ ュアルの内容 けんどう 検討		△	たいおうまにゅ 対応マニ ュアルの作成		
ちいきぼうさいきよてん 地域防災拠点に おけるしょうがいしゃたいけん 障害者体験	かくちく 各地区、年1回開催される地域防災 拠点訓練のメニューとして、障害者 たいけん 体験を実施できるよう支援します。 <振り返り> せいふてい-ねつとぶろじえくとよこ セイフティーネットプロジェクト横 浜が実施している障害理解に係る出 まえこうぎどう 前講座等を地域防災拠点訓練等で活 用いただけるよう、各区地域防災拠点 うんえい 運営委員会等に周知しました。	すいしん 推進	じっし 実施		△	すいしん 推進		
くきょくしょうがいしゃさいがい 区局障害者災害 たいさくかいぎ 対策会議	さいがいはっせいじ 災害発生時における区福祉保健セン ター、健康福祉局のそれぞれの役割 および連携方法について、検討します。 しいき 市域を越えた連携・搬送方法につい ても検討します。 <振り返り> かんけいきょく 関係区局において、特別避難場所に係 る課題検討を行いました。	くきょくしょうがい 区局障害 者災害対策 かいぎ 会議の実施	けんどう 検討		△	すいしん 推進		



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しょうがいしゃさいがいたいさく 障害者災害対策 かいぎ 会議	しょうがいしゃ しえんしゃ じぎょうしゃ ちいきおよび 障害者、支援者、事業者、地域及び ぎょうせいとう さいがいじ 行政等が災害時における 共助につ いて、検討する場を設けます。また、 けんとう ば もう その検討の中で自助の役割も明確に します。 しいかない そう ご れんけいおうえんたいせい こうちく 市内の相互連携応援体制の構築を けんとう 検討します。 <ふりかえり> かいぎ じっしほうほう けんとう ないぶ 会議の実施方法の検討および内部 ちょうせい おこな 調整を行いました。	しょうがいしゃさい 障害者災 がいたいさくかいぎ 害対策会議 じっし の実施	けんとう 検討	△	すいしん 推進			
しょうがいしゅべつおうきゅう 障害種別応急 びちくぶつ しれんけいじぎょう 備蓄物資連携事業	す と まようそうぐ しょうがいとくせい おう ストマ用装具など 障害特性に応じた おうきゅう びちくぶつし ほかん かのう 応急 備蓄物資について、保管が可能 しせつ をそれぞれ公募するなど、 ほかん む けんとう おこな 保管に向けた検討を行います。 <ふりかえり> す と まようそうぐ ほかんぼしよ ほかん ストマ用装具の保管場所として、保管 ようろっかー ぜんく かくく しよ せつ 用ロッカーを全区（各区 1か所）に設 ち 置しました。	すいしん 推進	す と まようそう ストマ用装 ぐ ほかんよう 具の保管用 ろっかー ロッカーを ぜんく かくく 全区（各区 1か所）に せつち 設置	○	すいしん 推進			

◆ 障害状況に合わせた住まいの充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
こうどうしょうがい 行動障害のある方 の住まい けんとう 検討	<p>ひつよう とされる しえん せいいり しえん 必要とされる支援などを整理し、支援体制のある生活の仕組みづくりについて、検討を進めます。</p> <p><振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> はったつしょうがいしゃ しえん せん たー あら 発達障害者支援センターに新たにちいき しえん まねじゃー めい はいち 地域支援マネジャー2名を配置し、しょうがいふくし さーび す じぎょうしやう たい 障害福祉サービス事業所等に対するこうどうしょうがい はったつしょうがい かか こんさ 行動障害・発達障害に係るコンサルテーションを実施しました。 しょうがいふくし さーび す じぎょうしやう しよく 障害福祉サービス事業所等の職員を対象に、行動障害に係る支援力向上を図るための研修を市内法人が共同して「オール横浜」として実施しました。 こうどうしょうがい たいおう ぐるーぷほーむ 行動障害に対応するグループホームについて検討しました。 	すいしん 推進		ちいき しえん 地域支援 まねじゃー マネジャー ぞういん の増員 (計： 4人)	○	すいしん 推進		
さぼーとほーむ サポートホーム じぎょう 事業 (あ) (発達障害者に対する生活支援の推進)	<p>はったつしょうがい にゆうきよしゃ たい せいかつ 発達障害のある入居者に対し、生活支援を行うことで、地域での一人暮らしに向けた準備を支援する「サポートホーム」について、効果を検証しながら進めます。</p> <p><振り返り></p> <p>さぼーとほーむ じぎょう サポートホーム事業により、発達障害のある人の生活支援を実施しました。</p>	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
ようごろうじんほーむ 養護老人ホーム せいびじぎょう 整備事業 しかくしょうがいしゃ (視覚障害者の にゅうしょ 入所)	かんきょうじょう りゆうおよ けいざいてきりゆう 環境上の理由及び経済的理由によ り、居宅において養護を受けること が困難な高齢者が入所する民設民営 の養護老人ホーム（平成27年度末開 所予定）を港南区野庭町の旧野庭 小学校跡地に整備します。その一部 居室において、視覚障害者を受け入 れます。 <振り返り> ・平成28年2月1日に養護老人ホー ム「野庭風の丘」が開所しました。 ・平成29年5月1日時点で5人の視 覚障害者が入所しています。（視 覚障害者定員6人）	しかくしょうがい 視覚障害 しゃにゅうしょ 者の入所 じっし 実施		じっし 実施	○	すいしん 推進		
しんたいしょうがいしゃ 身体障害者・ こうれいしゃ じゅうたく 高齢者の住宅 かいぞうおよ ちようが 改造及び模様替え	しえいじゅうたく にゅうきよ しょうがいしゃどう 市営住宅に入居している障害者等 の要望に対し、トイレや浴室への手 すりの取付などの住宅改造を実施し ます。 <振り返り> へいせい ねんど じっせき じゅうたくかいぞう けん 平成27年度実績：住宅改造59件 （障害者対応24件、高齢者対応35 件）、模様替承認154件 へいせい ねんど じっせき じゅうたくかいぞう けん 平成28年度実績：住宅改造37件 （障害者対応27件、高齢者対応10 件）、模様替承認140件	すいしん 推進	へいせい ねんど 平成29年度 じゅうたくかいぞう 住宅改造 :35件 しょうがいしゃたいおう (障害者対応 :25件、 こうれいしゃたいおう 高齢者対応 :10件) みこ (見込み) 、 ちようがえしょうにん 模様替承認 :140件 みこ (見込み)		○	すいしん 推進		



		へいせい ねん ど 平成27年度		へいせい ねん ど 平成28年度		へいせい ねん ど 平成29年度	
きょうどうせいかつえんじよ 共同生活援助 (グループホーム) 利用者数	しん きせつ ち ねん (新規設置/年)	200 人分	200 人分	200 人分	200 人分	193 人分 (実績見込み)	193 人分 (実績見込み)
	じつせい 実績: 195 人分	じつせい 実績: 192 人分	じつせい 実績: 192 人分	じつせい 実績: 192 人分	じつせい 実績: 192 人分	じつせい 実績: 192 人分	じつせい 実績: 192 人分
	り よう にん ず う ねん (利用人数/年)	3,700 人分	3,900 人分	3,900 人分	4,100 人分	4,100 人分	4,100 人分
	じつせい 実績: 3,762 人分	じつせい 実績: 3,959 人分	じつせい 実績: 3,959 人分	じつせい 実績: 3,959 人分	じつせい 実績: 3,959 人分	じつせい 実績: 3,959 人分	じつせい 実績: 3,959 人分
	り よう にん ず う ねん (利用人数/年)	4,352 人分	4,552 人分	4,552 人分	4,752 人分	4,752 人分	4,752 人分

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しょうがいしゃしえんしせつ 障害者支援施設の さいせいび 再整備	<p>たいしんきじゆん 耐震基準を満たしていない、または ろうきゆうか 老朽化している しょうがいしゃしえんしせつ 障害者支援施設につ いて、ユニット化・個室化を進めつ つ 建て替えを行います。</p> <p><振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> しょうがいしゃしえんしせつ けいわせいねんりょう 障害者支援施設「恵和青年寮」 とうさいせいび 等再整備については、平成28年度で こうじ かんりよう 工事が完了しました。 しょうがいしゃしえんしせつ かいけい とうさいせいび 障害者支援施設「偕恵」等再整備 については、平成28年度で こうじ かんりよう 工事が完了しました。 	こうじかんりよう 工事完了	2か所	かんりよう 完了	○	かんりよう 完了		



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しょうがいじしせつ 障害児施設の せいび さいせいび 整備・再整備 あ	<p>ししよかん 3か所目の重 症 心身 障害児 施設を整備するとともに、老朽化が進 んでいる障害児入 所施設の再整備・ ユニット化を進めます。</p> <p><振り返り> ・平成27年度に福祉型 障害児入 所 施設「ぶどうの実（旧 白根学園児童 寮）」の再整備を完了しました。 ・重症 心身 障害児者施設について 「横浜医療 福祉センター港南」を平 成28年6月に開所、「横浜療 育医療 センター」を平成28年度に再整備完 了しました。 ・平成29年度には「ぼらいと・えき （旧 横浜市なしの木学園）」の再整 備を完了 する予定です。</p>	こうじかんりょう 工事完了 4か所	こうじかんりょう 工事完了 4か所	○	しせつじょうきょう 施設状 況 とうによりけん 等により検 討			
こうりつしょうがいしゃしえんし 公立 障害者支援施設 せつ よこはまし しょうふうがく 設（横浜市松 風学 えん 園）の再整備の検 討	<p>しょうがいしゃしえんしせつ よこはまししょうふう 障害者支援施設である横浜市松 風 学園の担うべき役割や求められる きのう 機能について、検証しながら、再整備 けんとう を検討します。</p> <p><振り返り> せつつ ろうきゅうか すす かしょ あら だ 施設の老朽化の進んだ箇所の洗い出 しをおこな しを行いました。</p>	すいしん 推進	けんとう 検討	△	すいしん 推進			



福 【目標】 福祉施設入所者の地域生活への移行

げんじょう 現状	すうち 数値	けいかくち 計画値	すうち 数値	けいかくち 計画値	すうち 数値
へいせい ねんどもつじ 平成25年度末時 てん せつにゆう 点での施設入 しよしやす 所者数	1,544人	へいせい ねんどもつじ 平成29年度末時 てん せつにゆう 点での施設入 しよしやす 所者数	1,515人 【平成28年度】 実績: 1,494人	へいせい ねんどもつじ 平成32年度末時 てん せつにゆうしよ 点での施設入所 者数	1,465人
へいせい ねんどもつじ 平成25年度末時 てん ていいんすう 点での定員数	1,125人	へいせい ねんどもつじ 平成29年度末時 てん ていいんすう 点での定員数	1,125人 【平成28年度】 実績: 1,104人	へいせい ねんどもつじ 平成32年度末時 てん ていいんすう 点での定員数	1,104人

福児 【目標】

	へいせい ねんどもつじ 平成27年度	へいせい ねんどもつじ 平成28年度	へいせい ねんどもつじ 平成29年度	へいせい ねんどもつじ 平成30年度	へいせい ねんどもつじ 平成31年度	へいせい ねんどもつじ 平成32年度
しせつにゆうしよしえん 施設入所支援 りようにんすう つき (利用人数/月)	1,530人 実績: 1,510人	1,523人 実績: 1,494人	1,515人 1,487人 (実績見込み)	1,485人	1,475人	1,465人
しやうがいじにゆうしよ 障害児入所 しえん ふくしがた 支援(福祉型・ いりようがた 医療型) (利用児童数 つき/月)	226人分 実績: 226人分	256人分 実績: 239人分	256人分 251人分 (実績見込み)	277人分	277人分	277人分
しゆくはくがたじりつ 宿泊型自立 くんれん 訓練 (利用人数/月)	2,516人日 実績: 2,430人日	2,516人日 実績: 2,443人日	2,516人日 2,447人日 (実績見込み)	2,516人日	2,516人日	2,516人日
	96人分 実績: 89人分	96人分 実績: 92人分	96人分 90人分 (実績見込み)	96人分	96人分	96人分
りようようかいご 療養介護	189人分 実績: 197人分	295人分 実績: 225人分	295人分 233人分 (実績見込み)	281人分	281人分	281人分

※ 施設入所支援は、旧身体障害者更生施設を除く。



【目標】 18歳以上の障害児施設入所者の障害者支援施設及び地域への移行

	へいせい ねん ど 平成27年度	へいせい ねん ど 平成28年度	へいせい ねん ど 平成29年度	へいせい ねん ど 平成30年度	へいせい ねん ど 平成31年度	へいせい ねん ど 平成32年度
18歳以上の 入所者の移行 人数	28人 実績: 17人	28人 実績: 24人	29人 7人 (実績見込み)	7人	7人	6人
移行予定対象 人数	57人 実績: 51人	29人 実績: 27人	0人 20人 (実績見込み)	13人	6人	0人

【目標】 精神障害者地域移行・地域定着支援事業（市事業）

	へいせい ねん ど 平成27年度	へいせい ねん ど 平成28年度	へいせい ねん ど 平成29年度	へいせい ねん ど 平成30年度	へいせい ねん ど 平成31年度	へいせい ねん ど 平成32年度
個別支援 対象者数 (人/年)	70人 実績: 79人	70人 実績: 83人	70人 87人 (実績見込み)	89人	93人	97人

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
【新規】 精神障害にも対応 した地域包括ケア システムの構築	精神障害者が、地域の一員として 安心して自分らしく暮らすことがで きるよう、保健、医療、福祉関係者 による協議の場を設置し、精神障害 にも対応した地域包括ケアシステム を構築します。	—	—	—	—	すいしん 推進



福 【目標】

	へいせい ねんど 平成32年度
<p>【新規】 せいしんびょうしょう ねん い じょうちよう 精神病床における1年以上長 き にゅういんかんじゃすう さいい じょう 期入院患者数(65歳以上)</p>	<p>くに じぎょうしょうさい しめ のち ちいき 国が事業詳細を示した後、地域 じつじょうどう もと せってい の実情等を基に設定します。</p>
<p>【新規】 せいしんびょうしょう ねん い じょうちよう 精神病床における1年以上長 き にゅういんかんじゃすう さいみまん 期入院患者数(65歳未満)</p>	
<p>【新規】 せいしんびょうしょう そうき たいいんりつ 精神病床における早期退院率 にゅういんご げつじてん (入院後3か月時点)</p>	
<p>【新規】 せいしんびょうしょう そうき たいいんりつ 精神病床における早期退院率 にゅういんご げつじてん (入院後6か月時点)</p>	
<p>【新規】 せいしんびょうしょう そうき たいいんりつ 精神病床における早期退院率 にゅういんご ねん じてん (入院後1年時点)</p>	

福 【目標】 ちいきそうだんしえん ねんかん にんぶんの すう
地域相談支援(年間の人分は延べ数)

		へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
ちいきいこう 地域移行 しえん 支援	つき (/月)	5 にんぶん 人分	7 にんぶん 人分	8 にんぶん 人分	8 にんぶん 人分	8 にんぶん 人分	8 にんぶん 人分
		実績: 2 にんぶん 人分	実績: 2 にんぶん 人分	実績見込み 2 にんぶん 人分	8 にんぶん 人分	8 にんぶん 人分	8 にんぶん 人分
	ねん (/年)	60 にんぶん 人分	80 にんぶん 人分	100 にんぶん 人分	100 にんぶん 人分	100 にんぶん 人分	100 にんぶん 人分
		実績: 18 にんぶん 人分	実績: 19 にんぶん 人分	実績見込み 27 にんぶん 人分	100 にんぶん 人分	100 にんぶん 人分	100 にんぶん 人分
ちいきてい 地域定 ちやくしえん 着支援	つき (/月)	10 にんぶん 人分	15 にんぶん 人分	20 にんぶん 人分	20 にんぶん 人分	20 にんぶん 人分	20 にんぶん 人分
		実績: 2 にんぶん 人分	実績: 2 にんぶん 人分	実績見込み 4 にんぶん 人分	20 にんぶん 人分	20 にんぶん 人分	20 にんぶん 人分
	ねん (/年)	120 にんぶん 人分	180 にんぶん 人分	240 にんぶん 人分	240 にんぶん 人分	240 にんぶん 人分	240 にんぶん 人分
		実績: 23 にんぶん 人分	実績: 20 にんぶん 人分	実績見込み 45 にんぶん 人分	240 にんぶん 人分	240 にんぶん 人分	240 にんぶん 人分

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
みんかんじゅうたく 民間住宅あんしん にゅうきよ じぎょう 入居事業	やちんとう しはらいのうりよく れん 家賃等の支払能力はあるものの、連 たいほしようにん かくほ 帯保証人が確保できないことなどを りゆう みんかんちんたいじゅうたく にゅうきよ こん 理由に民間賃貸住宅への入居に困 きゆう しょうがいしゃとう たい きょう 窮している障害者等に対して、協 りよく ふ どうさんてん ぶつけん しょうかい みん 力不動産店による物件の紹介と民 かんほしょうがいしゃ りよう やちんほしょう 間保証会社を利用した家賃保証に にゅうきよ きかい ふ より入居の機会を増やします。 ふ かえ <振り返り> けんちくきよく けんこうふくし きよく れんけい はか 建築局、健康福祉局で連携を図りな ら、にゅうきよしゃ おーなー ふ どうさんてん 入居者、オーナー、不動産店 りようそくしん つな あんびかくにんさ の利用促進に繋がるよう、安否確認サ ービスモデル事業を開始し、かくたくち 各宅地 たてものとりひきぎょうだんたい かいぎ せいどしゅう 建物取引業団体の会議にて制度周 ち おこな だんたい 知を行いました（7団体）。	すいしん 推進	じっし 実施	△	すいしん 推進			
みんかんじゅうたくにゅうきよ 民間住宅入居の そくしん 促進	ぐるーぷほーむ等からみんかんちんたいじゅうたく グループホーム等から民間賃貸住宅 てんきよ ご たんしんせいかつ あんしん への転居や、その後の単身生活が安心 おく し く して送れるための仕組みについて検 とう じっし 討し、実施します。 ふ かえ <振り返り> せいしんしょうがいしゃ す けんとうぶかい 「精神障害者の住まい検討部会」を ぜん かいかいさい 全2回開催しました。 じゅうたくかく ほようはいりよしゃ たいしやう あ や 住宅確保要配慮者を対象に空き家 とう かつよう あら じゅうたくせーふてい 等を活用した新たな住宅セーフティ ねっとせいど けんとう ネット制度を検討しています。	みんかんじゅうたく 民間住宅 にゅうしょのし 入所の仕 組み検討・ じっし 実施	けんとう 検討	△	すいしん 推進			



◆ 高齢化・重度化を踏まえた住まいの構築

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
こうれいか じゅうどか 高齢化・重度化 たいおう ぐるーぷ 対応のグループ ほーむ けんしょう ホームの検証・ けんとう 検討	げんざいじっし じゅうどか たいおう ぐるー 現在実施している 重度化対応グルー ぷ ほーむ もでる じぎょう こうれいか たいおう プホームやモデル事業の高齢化対応 ぐるー ぷ ほーむ けんしょう おこな こんご グループホームの検証を行い、今後 も すす んでいくことが見込まれる しょうがい 者の高齢化・重度化を見据えて、一 にち とお あんしん できる す かくほ 日を通して安心できる住まいの確保 め ぎ じぞくてき じつげんかのう す を目指して、持続的に実現可能な住ま いの かたち こうちく 形を構築します。 <ふ かえ 振り返り> じゅうどか こうれいか ぐるー ぷ ほーむ 重度化・高齢化グループホームについ て、ない ぶ けんとう つづ じゅうどか たいおう ぐ 内部で検討を続け、重度化対応グ ープ ほーむ へいせい ねん ど こうれいか ループホームは平成25年度、高齢化 ぐるー ぷ ほーむ へいせい ねん ど もで グループホームは平成28年度にモデ ル じぎょう しゅうりょう つうじょう じぎょう い 事業を終了し、通常事業へ移 こう 行しました。	—	—	—	△	—		



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
こうれいか じゅうどか 高齢化・重度化 たいおうばりあふりー 対応バリアフリー かいしゅうじぎょう 改修事業	<p>ぐるーぷほーむ りよう しょうがいしゃ グループホームを利用する 障害者が こうれい ともな しんたいきのう 高齢になり、それに 伴う身体機能の ていかとう じゅうらい ほーむ せつび 低下等により、従来 のホームの設備 で生活することが困難となる場合 で、居住しているホームで安心して せいかつ つづ 生活し続けることができるよう、バリ あふりー とうかいしゅう かか けいひ ほじょ アフリー等改修に係る経費を補助し ます。</p> <p><振り返り> この3 ねん ほーむ しんせい か年で3 ホームから申請があ り、2ホームについては、トイレや浴 しつ かいしゅう かいだんしやうこうき せつち おこな 室の改修、階段昇降機の設置を行 いました。1ホームについては、平成 ねんど じっし よてい 29年度実施予定です。</p>			すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	

◆ 地域での生活を支える仕組みの充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
ちかつほ - む うんえい 地活ホームの運営	<p>ちかつほ - む ちいき きよてん 地活ホームは、地域における拠点とし て設置してきました。これからも、障 がいふくし にかか しゃかいしげん ちゅうしん 害福祉に関わる社会資源の中心とし て、より利用しやすい拠点となるよ う、しゃかいふくしほうじんがた きのうきょうかがた ちかつ 社会福祉法人型・機能強化型地活 ホームの両方について、地域におけ る役割や位置付けを明確にするため、 やくわり いちづ めいかく 改めて検討し、機能の充実を図りま す。</p> <p><振り返り> しゃかいふくしほうじんがた ちかつほ - む 社会福祉法人型地活ホームについて、 ちいき に - ず、たい くやくしよ れんけい 地域のニーズに対し、区役所と連携 して、じゅうなん じぎょうてんかい おこな 柔軟な事業展開が行えるよ う、せいど いちぶみなお 制度を一部見直しました。</p> <p>また、やくわり いちづ かんけい 役割や位置付けについて、関係 ぶしよ かない きょうゆう 部署と課題を共有するとともに、事 ぎょうしよとう けんとう おこな 業所等と検討を行いました。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
せいかつしえんせんたーの運営	<p>せつちとうしよ いばしよきもの 設置当初の居場所機能だけではなく、</p> <p>きそん さーびす せいり さいごうちく うえ 既存のサービスを整理・再構築した上で、</p> <p>そうきたいおう せいかつしえんせんたー 早期対応や生活支援センターに来</p> <p>られない方など、せいしんしやうがいしゃ そうだん 精神障害者の相談</p> <p>きもの じゅうてん お しえん じゅうじつ 機能に重点を置いた支援の充実を</p> <p>はか 図ります。</p> <p><ふりかえり></p> <p>そうだんきもの じゅうてん お しえん 相談機能に重点を置いた支援の</p> <p>じゅうじつ もくてき でんわそうだんおよ じよくじ 充実を目的に、電話相談及び食事</p> <p>さーびすと う きそん さーびす せいり サービス等の既存サービスを整理し</p> <p>ました。</p>	すすいん 推進		じっし 実施	○	すすいん 推進		
たきのうがたきよてん 多機能型拠点の せいび 運営 ②	<p>じゅうしやうしんしんしやうがいじ しゃ など、つね い 重症心身障害児・者など、常に医</p> <p>りやうてきけ あ ひつよう ひと かぞく ち 療的ケアが必要な人やその家族の地</p> <p>いき 域での暮らしを支援するため、そうだんし 相談支</p> <p>えん せいかつかいご ほうもんかんご さーびす およ 援、生活介護、訪問看護サービス及び</p> <p>たん きにゅうしよ いったいてき ていきやう 短期入所などを一体的に提供でき</p> <p>るたきのうがたきよてん せいび し ないほうめんべつ 多機能型拠点の整備を市内方面別</p> <p>すす に進めます。</p> <p><ふりかえり></p> <p>へいせい ねん がつ せ や く かんめ 平成29年4月に瀬谷区に3館目の</p> <p>たきのうがたきよてん かいしよ ぜん 多機能型拠点を開所し、全3か所</p> <p>さかえく つづきく せ や く たきのう 型拠点の運営支援を行っています。</p> <p>がたきよてん うんえいしえん おこな 市内4館目の整備地決定に向けて</p> <p>けんとう おこな 検討を行っています。</p>	かいしよ 開所2か所 (累計4か所)		かいしよ 開所1か所 (累計3か所)	△	かいしよ 開所3か所 (累計6か所) (整備完了)		



福

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
ちいきせいかつしえん 地域生活支援 きよてん せいび 拠点の整備	けんとう 検討	けんとう 検討	1か所 けんとう 検討 (実績見込み)	2か所	18か所	18か所
	じっせい 実績 : けんとう	じっせい 実績 : けんとう				

福 【見込み】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
きよたくかいご 居宅介護	140,521時間 じっせい 実績 : 128,138時間	149,710時間 じっせい 実績 : 124,038時間	159,499時間 122,611時間 (実績見込み)	124,349時間	124,504時間	124,659時間
	6,896人分 じっせい 実績 : 6,643人分	7,336人分 じっせい 実績 : 6,787人分	7,804人分 6,854人分 (実績見込み)	7,294人分	7,561人分	7,838人分
	42,593時間 じっせい 実績 : 47,540時間	45,378時間 じっせい 実績 : 54,193時間	48,345時間 58,688時間 (実績見込み)	69,254時間	78,288時間	88,501時間
	239人分 じっせい 実績 : 271人分	254人分 じっせい 実績 : 314人分	270人分 335人分 (実績見込み)	409人分	467人分	534人分



福【見込み】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
どうごうえんご 同行援護	14,649時間 じかん	15,607時間 じかん	16,627時間 じかん	16,398時間 じかん	17,205時間 じかん	18,052時間 じかん
	実績: 14,343時間 じかん	実績: 14,896時間 じかん	15,527時間 じかん (実績見込み)			
	713人分 にんぶん	758人分 にんぶん	807人分 にんぶん	798人分 にんぶん	837人分 にんぶん	878人分 にんぶん
	実績: 694人分 にんぶん	実績: 726人分 にんぶん	744人分 にんぶん (実績見込み)			
どうごうえんご 行動援護	2,833時間 じかん	3,018時間 じかん	3,215時間 じかん	12,432時間 じかん	17,171時間 じかん	23,716時間 じかん
	実績: 5,281時間 じかん	実績: 6,517時間 じかん	7,282時間 じかん (実績見込み)			
	106人分 にんぶん	113人分 にんぶん	120人分 にんぶん	669人分 にんぶん	994人分 にんぶん	1,476人分 にんぶん
	実績: 233人分 にんぶん	実績: 303人分 にんぶん	346人分 にんぶん (実績見込み)			
たんきにゅうしょ 短期入所 (福祉型)	1,007人分 にんぶん	1,074人分 にんぶん	1,146人分 にんぶん	1,000人分 にんぶん	1,000人分 にんぶん	1,000人分 にんぶん
	実績: 934人分 にんぶん	実績: 968人分 にんぶん	987人分 にんぶん (実績見込み)			
	6,251人日 にんにち	6,480人日 にんにち	6,718人日 にんにち	6,000人日 にんにち	6,000人日 にんにち	6,000人日 にんにち
	実績: 5,440人日 にんにち	実績: 5,552人日 にんにち	5,115人日 にんにち (実績見込み)			
たんきにゅうしょ 短期入所 (医療型)	360人分 にんぶん	498人分 にんぶん	689人分 にんぶん	400人分 にんぶん	400人分 にんぶん	400人分 にんぶん
	実績: 266人分 にんぶん	実績: 300人分 にんぶん	304人分 にんぶん (実績見込み)			
	1,937人日 にんにち	2,619人日 にんにち	3,541人日 にんにち	2,000人日 にんにち	2,000人日 にんにち	2,000人日 にんにち
	実績: 1,345人日 にんにち	実績: 1,526人日 にんにち	1,584人日 にんにち (実績見込み)			

福 【見込み】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
にっちゅういちじ 日中一時 しえん 支援	411 ^{にんぶん} 人分	411 ^{にんぶん} 人分	411 ^{にんぶん} 人分	471 ^{にんぶん} 人分	479 ^{にんぶん} 人分	487 ^{にんぶん} 人分
	実績: 457 ^{にんぶん} 人分	実績: 464 ^{にんぶん} 人分	493 ^{にんぶん} 人分 (実績見込み)			
	729 ^{かい} 回	729 ^{かい} 回	729 ^{かい} 回	783 ^{かい} 回	796 ^{かい} 回	809 ^{かい} 回
	実績: 707 ^{かい} 回	実績: 749 ^{かい} 回	817 ^{かい} 回 (実績見込み)			
にちじょうせいかつ 日常生活 ようぐきゅうふ 用具給付・ たいよ ねん 貸与 (/年)	65,000 ^{けん} 件	65,000 ^{けん} 件	65,000 ^{けん} 件	81,000 ^{けん} 件	81,000 ^{けん} 件	81,000 ^{けん} 件
	実績: 81,008 ^{けん} 件	実績: 86,220 ^{けん} 件	82,900 ^{けん} 件 (実績見込み)			

この表における単位の考え方は以下のとおりです。

- ・「人分」「回」…月間の利用人数・回数
- ・「人日」…「月間の利用人数」×「一人一か月あたりの平均利用日数」
- ・「時間」…月間のサービス提供時間

(※重度障害者等包括支援は利用実績がなく、今後の利用を見込んでいません。)

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
めでいかるしょー メディカルショー とすていしすてむ トステイシステム ㊤	いりょうてき け あ ひつよう じゅうしょうしんしんしょうがい 医療的ケアが必要な重症心身障害 じ しゃ ざいたく かいご かぞく ふたん 児・者を、在宅で介護する家族の負担 けいげん ざいたくせいかつ あんてい もくてき 軽減と在宅生活の安定を目的として、 いちじてき ざいたくせいかつ こんなん 一時的に在宅生活が困難となった ばあい びょういん う い 場合などに、病院での受け入れを じっし 実施します。 <ふ かえ 振り返り> じぎょうかいし へいせい ねんど へいせい 事業開始の平成24年度から平成28 ねんど りょうとうろくしゃすう にん りょう 年度までの利用登録者数212人、利用 の にんずう にん りょうの にっすう 延べ人数366人、利用延べ日数は にち かに かに かに かに 2,805日で、そのうち、家族の疾病に りょう にん よる利用は120人でした。	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		
せいしんしょうがいしゃ かぞく 精神障害者の家族 しえんじぎょう 支援事業 ㊤	せいしんしょうがいしゃ かぞく てきせつ かんけい 精神障害者とその家族が適切な関係 たも かえ きんきゅうたいざいばしょ じゅんび を保つため、緊急滞在場所を準備す るとともに、家族が精神疾患について りかい ふか きかい ていきょう 理解を深める機会を提供します。 <ふ かえ 振り返り> へいせい ねんど せいど りょう 平成28年度に制度をより利用しやす かいせい おこな くなるよう改正を行いました。	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		

ほんにん せいかつりよく ひ だ しえん じゅうじつ
◆本人の生活力を引き出す支援の充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
じりつせいかつ 自立生活 あしすたんと アシスタント ㊤	ちいき たんしんどう せいかつ しょうがいしゃ たい 地域で単身等で生活する 障害者に対 して、自立生活アシスタントが、その しょうがいとくせい ふ ぐたいてき せいかつ 障害特性を踏まえて、具体的な生活 ばめん しゃかいてきおうりよく たか じよげん 場面での社会適応力を高める助言を ちゅうしん しえん おこな 中心とした支援を行います。 <振り返り> みちか ちいき しえん う 身近な地域で支援が受けられるよう、 かくく じぎょう てんかい たいせい せいび 各区で事業を展開できる体制の整備 すす へいせい ねんど ぜんく を進め、平成28年度から全区での支 えんたいせい せいび 援体制を整備しています。	じぎょうしよすう 事業所数 40 箇所 (全区実 し 施) げんじょう (現状:36 しよ か所)	じぎょうしよすう 事業所数 40 箇所 (全区実 し 施)	○	すいしん 推進	
ごうけんてきしえんせいど 後見的支援制度 ㊤	しょうがいしゃほんにん しょうがいふくしきーびす 障害者本人に 障害福祉サービスに かか しえん ひつよう 係る支援が必要とされていない時か らんけいせい ち おやな ら関係性を持つことにより、「親亡き あと あんしん ちいきせいかつ おく しく 後も安心して地域生活を送れる仕組 みごうちく おこな みの構築」を行います。 <振り返り> へいせい ねんど へいせい ねんど じっしゅく 平成27年度、平成28年度に、実施区 をそれぞれ2区ずつ増やし、全区実施 となりました。 へいせい ねんど こうなんく あおぼく 平成27年度：港南区、青葉区 へいせい ねんど なかく せやく 平成28年度：中区、瀬谷区	ぜんくじっし 全区実施 (現状： げんじょう 14区)	ぜんくじっし 全区実施	○	すいしん 推進	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん 度 平成29年度				ひようか 評価	へいせい ねん 度 平成32年度	
		もく 目	ひよう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひよう 標
しょうひしゃきょういくじぎょう 消費者教育事業 ⑥	しょうがいしゃ かぞくおよ しえんしゃ しょうひん 障害者や家族及び支援者が、商品・ サービスの利用及び契約に関わる トラブル等を学ぶことにより、安心し た日常生活を送れるよう、意識啓発 を図ります。 <振り返り> けいざいきょく きょういく いんかいじむきょく けんこう 経済局、教育委員会事務局、健康 福祉局の3局が連携し、特別支援 がっこう せいと たいしょう でまえこうざ 学校の生徒を対象とした出前講座を 2校で実施しました。	すいしん 推進		じっし 実施		○	すいしん 推進	

福

	へいせい ねん 度 平成27年度	へいせい ねん 度 平成28年度	へいせい ねん 度 平成29年度	へいせい ねん 度 平成30年度	へいせい ねん 度 平成31年度	へいせい ねん 度 平成32年度
しんき 【新規】 じりつせいかつえんじよ 自立生活援助 (仮称)	—	—	—	くに じぎょうしょうさい しめ のち ちいき じつじょう 国が事業 詳細を示した後、地域の実情 等を基に設定します。		



いりようかんきょう せいび
◆医療環境のさらなる整備

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
じゅうどしんけいなんびょうかんじゃ 重度神経難病患者 ざいたくしえんしすてむ 在宅支援システム こうちく の構築	はつびょう すうねん きゅうそく しんこう 発病から数年で急速に進行する しんけいなんびょうかんじゃ たい ざいたくしえん 神経難病患者に対する在宅支援 しすてむを、せんもん いりよう きかん ざいたく システムを、専門医療機関・在宅 りはびりてーしょんとう ほけん いりよう リハビリテーション等の保健・医療 かんけいしゃ しょうがいふくしきーびすじぎょうとう 関係者と障害福祉サービス事業等 との連携により、構築します。 <ふかえ 振り返り> しんだんちよくご きん いしゆくせいそくさくこう かしょう えー 診断直後の筋萎縮性側索硬化症（A えるえす かた せいかつしょうがいしえん もくてき L S）の方の生活障害支援を目的に、 そうきかいにゅう しこう とりくみ あ 早期介入を試行しました。取組に当 たり、ざいたくりはびりてーしょんじぎょう 在宅リハビリテーション事業 しょうかい しな いりよう きかん の紹介を、市内11か所の医療機関 しんだん きかん じっし どうじ くふくし （診断機関）へ実施し、同時に区福祉 ほけん せんたー そうきかいにゅう ひつよう 保健センターへも、早期介入の必要 せいを伝えました。診断直後の利用者 しえん おこな なか じしん き の支援を行う中で、自身では気づき にくい生活障害への支援が行え、生 せいかつしょうがい しえん おこな せい 活動作の負担を軽減することに効果 かつどうさ ふたん けいげん こうか が出ています。診断時の医療機関あ で しんだんじ いりよう きかん るいは難病申請時の保健師による在 なんびょうしんせいじ ほけんし ざい 宅リハビリテーション事業への流れ たくりはびりてーしょんじぎょう なが ができ始めています。 はじ	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
なんびょうかんじゃざいたく 難病患者在宅 りょうようけいかくさくてい 療養計画策定・ ひょうかじぎょう 評価事業	ざいたくなんびょうかんじゃ たい ほけん いりよう 在宅難病患者に対し、保健・医療・ ふくし かくさーびす てきせつ ていきよう 福祉の各サービスを適切に提供する ために、関係者が合同でサービス内容 けんとう を検討します。 <ふ かえ 振り返り> へいせい ねんど じっし 平成27年度は、実施はありません。 へいせい ねんど あさひく けんじっし 平成28年度は、旭区で1件実施しま した。	すいしん 推進		へいせい ねんど 平成29年度 は、あさひく 旭区・ こうほくく 港北区で じっし 実施	△	すいしん 推進		
なんびょうかんじゃいちじ 難病患者一時 にゅういんじぎょう 入院事業	いりよういそんど たか なんびょうかんじゃ かいじょしゃ 医療依存度の高い難病患者が介助者 じじょう ざいたく かいじょ う の事情により、在宅で介助を受けるこ とがこんなん ばあい いちじてき に困難になった場合、一時的に にゅういん 入院できるようにします。 <ふ かえ 振り返り> げんざい びょういん びょうしょう うけいれ 現在は7病院、5病床にて受入を じっし 実施しています。 へいせい ねんどのべりようにつすう にち 平成27年度延利用日数：920日 へいせい ねんどのべりようにつすう にち 平成28年度延利用日数：840日	すいしん 推進		へいせい ねんど 平成29年度 のべりようにつすう 延利用日数 にち ：970日 (みこ 見込み)	○	すいしん 推進		

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
けんこうのーと 健康ノート	しょうがいじ しゃが じぶん す ちいき いりよう 障害児・者が自分の住む地域の医療 きかん じゆしん さい かつよう けんこう 機関で受診する際に活用できる「健康 のーと ノート」について、あり方を検討しま す。 <振り返り> ざいこ はいふ じょうきょう ちょうさ おこな 在庫・配付状況の調査を行ったほ か、しょうがいかんけいだんたい ひありんぐを じっし 実施しました。	かた あり方の けんとう 検討		けんとう 検討	△	けんとうけっか 検討結果 による		
いりようじゅうじしゃけんしゅう 医療従事者研修 じぎょう 事業 ㊤	しつぺい しょうがい しょうにおよ じゅうしょうしん 疾病や障害のある小児及び重症心 しんしょうがいじ しゃ しえん ひつよう ちしき 身障害児・者の支援に必要な知識・ ぎじゆつ こうじょう はか しょうがいとくせい りかい 技術の向上を図り、障害特性を理解 した医療従事者を育成するための けんしゅう じっし 研修を実施します。 <振り返り> いりよう きかん ふくし しせつとう きんむ かん 医療機関や福祉施設等に勤務する看 ごし たいしょう しょうにほうもんかんご じゅう 護師を対象に「小児訪問看護・重 しょうしんしんしょうがいじしゃけんしゅう まいねんどじっ 症心身障害児者研修」を毎年度実 し 施しています。	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しょうがいふくししせつとう 障害福祉施設等で はたら かんごし しえん 働く看護師の支援 (あ)	しょうがいふくししせつとう はたら かんごし 障害福祉施設等で働く看護師の ていちゃく む しえん おこな 定着に向けた支援を行うとともに、 かくほ ほうさく けんどう 確保の方策について検討します。 <ふ かえ> ちかつほ - む し か い し はけん しよく 地活ホームに歯科医師を派遣し、食 じ ば め ん しょうがいふくし げんば 事場面において、障害福祉の現場に そく じよげんしどう けんしゅう じっし 即した助言指導や研修を実施してい ます。 また、ちかつほ - む たきのうがたきよてん 地活ホームや多機能型拠点で はたら かんごし たいしやう かいぎ かい 働く看護師を対象とした会議を開 さい かだい きやうゆう ネットワーク 催し、課題の共有やネットワーク くりをおこな くりを行っています。	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		
じゅうどしょうがいしゃとう 重度障害者等 にゅういんじこみゆにけ 入院時コミュニケ しよんしえんじぎょう ーション支援事業 (あ)	にゅういんさきいりようきかん いし かんごしどう 入院先医療機関の医師・看護師等と いしそつう じゅうぶん はか の意思疎通が十分に図れない しょうがいじ しゃ たいしやう にゅういんさき 障害児・者を対象に、入院先に こみゆにけーしよんしえんいん はけん コミュニケーション支援員を派遣し ます。 <ふ かえ> へいせい ねんど じっせき 平成27年度実績 はけんけんすう けん 派遣件数：25件 そうはけんじかん じかん 総派遣時間：995時間 へいせい ねんど じっせき 平成28年度実績 はけんけんすう けん 派遣件数：67件 そうはけんじかん じかん 総派遣時間：1,081時間	すいしん 推進		へいせい ねんど 平成29年度 はけんけんすう 派遣件数 : 40件 (見込み)	○	すいしん 推進		



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひようか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひよう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひよう 標
はいえんきゅうきんわくちん 肺炎球菌ワクチン せつしゅじよせいじぎょう 接種助成事業 ㊤	はいえん かん ばあい きけんせい たか 肺炎にり患した場合に危険性が高い ないぶしょうがい しんたいしょうがいしゃ て ちょうしよ じ しゃ 内部障害の身体障害者手帳所持者 たい ひ つづ き か はいえんきゅうきんわく に対し、引き続き23価肺炎球菌ワク ちんせつしゅひよう いちぶ じよせい チン接種費用の一部を助成します。 ふ かえ <振り返り> せいじんようはいえんきゅうきんわくちんじぎょう かい 成人用肺炎球菌ワクチン事業の開 し ふ ねんれい じょうげんせつてい たい 始を踏まえ、年齢の上限設定と、対 しょう しんたいしょうがいしゃ て ちょう ないぶ き 象となる身体障害者手帳（内部機 のうしょうがい しょううしゃ とうきゅう せいげん 能障害）所有者の等級による制限を てつぱい 撤廃しました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			
いりようきかんれんけいじぎょう 医療機関連携事業 ㊤	しょうがいじ しゃ みちか ちいき てきせつ いりよう 障害児・者が身近な地域で適切な医療 う かんきょう ずいしん が受けられる環境づくりを推進する ため、しょうがいとくせいとう りかい てきせつ 障害特性等を理解し適切な いりよう ていきょう いりようきかん ふ 医療を提供できる医療機関を増やし ます。 ふ かえ <振り返り> ち てきしょうがいしゃせんもんがいらい びょういん かい 知的障害者専門外来を、3病院で開 せつ よこはまあいはらびょういん しうんかい 設しました。（横浜相原病院・紫雲会 よこはまびょういん こうほくびょういん しなしい 横浜病院・港北病院）また、市内医 りょうていきょうしせつ いりようじゅうじしゃ たいしやう 療提供施設の医療従事者を対象 とし「いりようあんぜんけんしゅうかい 医療安全研修会」において、 しょうがいしゃ しえん かか こうえん おこな 障害者支援に係る講演を行いました。	すいしん 推進	びょういん 4病院で かいせつ 開設 みこ (見込み)	○	すいしん 推進			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
めでいかるしょー とすていしすてむ トステイシステム 【再掲】㊦	<p>いりようてきけ あ ひつよう じゅうしょうしんしんしょうがい 医療的ケアが必要な重症心身障害 児・者を、在宅で介護する家族の負担 軽減と在宅生活の安定を目的として、 一時的に在宅生活が困難となった 場合などに病院での受入れを実施し ます。</p> <p><振り返り> 事業開始の平成24年度から平成28 年度までの利用登録者数212人、利用 の延べ人数366人、利用延べ日数は 2,805日で、そのうち、家族の疾病に よる利用は120人でした。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			
ざいたくりょうようじ ちいき 在宅療養児の地域 せいかつ ささ ねっ 生活を支えるネッ とわーくれんらくかい トワーク連絡会	<p>しょうがいじ しゃ いりよう にゅういん ざいたく かか 障害児・者の医療（入院・在宅）に関 わる医療関係者を中心に、福祉・ 教育関係者を対象として、在宅支援 に必要な情報交換や人的交流を通 じて、障害理解を促進します。</p> <p><振り返り> 医療関係者が中心となり、障害 児・者の生活を支える上での課題及 び取組等の情報交換などを実施し、 支援の促進に努めました。</p> <p>多職種連携の勉強会の実績 平成27年度：2回、参加者647人 平成28年度：2回、参加者337人</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひようか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひよう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひよう 標
いりようきかん ねつとわ 医療機関ネットワ ーク等の構築	<p>しょうがいじ しゃ ざいたくせいかつ ささ 障害児・者の在宅生活を支えるための いりようきかん しえんたいせい ねつとわ ーく 医療機関の支援体制とネットワーク を検討し、構築を図ります。</p> <p><ふりかえり> じゅうしんしょうがいじ しゃ ひつよう 重心障害児・者が必要としている いりようとう はあく ーと あんけーと 医療等を把握するためのアンケート ちようさ へいせい ねんど じっし 調査を平成28年度に実施しまし た。(860人回答)</p> <p>この結果を活用し、こども青少年 けっか かつよう せいしょうねん 局、健康福祉局、医療局の関係3 きょく けんこうふくし きょく いりようきょく かんけい 局で構成する庁内会議を設置し、医 きょく ごうせい ちょうないかいぎ せつち い 療的ケアを要する障害児・者の生活 りようてきけ あ よう しょうがいじ しゃ せいかつ を支えるための支援体制の構築を検 ささ しえんたいせい こうちく けん 討しています。</p>	じつたいはあくおよ 実態把握及 び医療ネ ットワー ク	けんとう 検討	○	すいしん 推進			
しかほけん いりようすいしん 歯科保健医療推進 じぎょう 事業 (しんしんしょうがいじ しゃし 心身障害児・者歯 か しんりよう 科診療)	<p>しか しんりよう きかい めぐ しんしん 歯科診療の機会に恵まれない心身 しょうがいじ しゃ たい し か ちりよう かくほ 障害児・者に対する歯科治療の確保 を、ひきつづき、はか を、引き続き、図ります。</p> <p><ふりかえり> よこはまし しかほけん いりようせん たーしんしん 横浜市歯科保健医療センター心身 しょうがいじ しゃし か しんりようじっせき 障害児・者歯科診療実績</p> <p>へいせい ねん けん 平成27年 9,773件 へいせい ねん けん 平成28年 9,797件</p> <p>よこはまし しんしんしょうがいじ しゃし か しんりようじぎょう 横浜市心身障害児者歯科診療事業 きょうりよく いりよう きかん 協力医療機関 210 か所 (平成29年3月末)</p>	すいしん 推進	へいせい ねんど 平成29年度 しか しんりよう 歯科診療 じっせき 実績 :9,545件 (見込み)	へいせい ねんど 平成29年度 きょうりよく い 協力医 療機関 :210 か所 (見込み)	○	すいしん 推進		



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
【新規】 医療的ケア児・者等の支援のための関係機関の協議の場の設置	医療的ケア児・者等が適切な支援を受けられるよう、平成30年度末までに、保健・医療・障害福祉・保育・教育等の関係機関が連携を図るための協議の場を設置します。	—	—	—	—	—	すいしん 推進	

⑧ **【見込み】**

	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
【新規】 医療的ケア児・者等に対する関連分野の支援を調整するコーディネーターの配置	じゅんび 準備	1 人	1 人



さんか けんこう しさく すいしん
◆参加しやすい健康づくり施策の推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
さんか 参加しやすい健康 づくり事業の検討	ほんし めざ けんこうじゅみょうにほんいち 本市が目指す健康寿命日本一に む けんこうすたんぷらりーのよう に向けて、健康スタンプラリーのよう しょうがいしゃ たの けんこう に障害者も楽しみながら健康づくり とく に取り組めるよう、障害者団体とも きょうりよく しょうがいとくせいどう 協力しながら、障害特性等にも はいりよ けんこう かいごよぼうじぎょう 配慮した健康づくり・介護予防事業 けんとう を検討します。 ふ かえ <振り返り> しょうがいしゃすぽーつ しゅうちかつどう すぽー 障害者スポーツの周知活動、スポー つぽらんてい あようせいこうざ しょきゅうしょう ツボランティア養成講座や初級障 がいしゃすぽーつ しどういんけんしゅうかいどう じっし 害者スポーツ指導員研修会等の実施 しえんしゃ しどうしゃ じんざいいく をとおして、支援者・指導者の人材育 せいすす 成を進めています。	—	—	—	△	—	—	
けんこう 健康づくり環境の せいび 整備	しょうがいとくせい りかい よこはまらぼーる 障害特性を理解した横浜ラポールの すたっふどう じんてきしげん せんようせつび スタッフ等の人的資源や専用設備を ゆう かんれんしせつ い しょうがいしゃ 有する関連施設を生かし、障害者に ひつよう たいりよく 必要な体力づくりや りはびりてーしょんが ちいき おこな リハビリテーションが地域で行える よう、地域の人材育成も含めた環境 ちいき じんざいいくせい ふく かんきょう の整備を進めます。 ふ かえ <振り返り> しょうがいしゃすぽーつ しゅうちかつどう すぽ 障害者スポーツの周知活動、スポ ーつぽらんてい あようせいこうざ しょきゅう ーツボランティア養成講座や初級 しょうがいしゃすぽーつ しどういんけんしゅうかいどう 障害者スポーツ指導員研修会等の じっし 実施をとおして、支援者・指導者の じんざいいくせいすす 人材育成を進めています。	—	—	—	△	—	—	

きゅうきゅういりようたいせい じゅうじつ
◆ 救急医療体制の充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
せいしん か きゅうきゅう 精神科救急 いりようたいさく じぎょう 医療対策事業	<p>せいしんしつかん きゅうげき はっしょう せいしんししょう 精神疾患の急激な発症や精神症 じょう あつか さつきゅう てきせつ せいしん 状の悪化などで、早急に適切な精神 か いりよう ひつよう ばあい せいしん ほけん 科医療を必要とする場合に、精神保健 ふくしほう もと しんさつ びょういん しょうかい 福祉法に基づく診察や病院の紹介を おこな ひつよう いりようしせつ かく 行うとともに、必要な医療施設を確 ほ とつ きゅうきゅうかんじゃ えん 保すること等により、救急患者の円 かつ いりようおよ ほご はか 滑な医療及び保護を図ります。</p> <p><ふりかえり> き め しょう ゆうがた じ かん 切れ目が生じた夕方 の時間において市内病 院の輪番制を強化 し、夕方から夜間 に対応できる病 院を配置しまし ました。</p> <p>また、精神科救急入院料 を取得した病院の 精神科救急に係 る指針を作成しま した。(現在横濱市 内7施設が取得)</p> <p>平成28年度には、深夜帯 に受け入れを行う 民間病院を週5回 に増やし、平成29 年度には、毎日通 年稼働としました。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん 度 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん 度 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
せいしんしつかん がっぺい 精神疾患を合併す る 身体救急患者 の救急医療体制 せいび じぎょう 整備事業	せいしんしつかん がっぺい しんたいきゅうきゅうかんじゃ 精神疾患を合併する身体救急患者 を適切な医療機関へ円滑に搬送でき るよう、救急医療体制を構築しま す。 <振り返り> せいしんしつかん とくていしょうじょう 精神疾患のうち特定症状をもつ身 体救急患者に対応する病院群につ いて、平成28年度末現在で2病院が たいせい さんかく 体制に参画しています。	すいしん 推進		とくていしょうじょう 特定症状 たいおうびょういんすう 対応病院数 : 2 病院	○	すいしん 推進		

ばりあふりー ふきゅう けいはつ そくしん
◆バリアフリーの普及・啓発の促進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しみん じぎょうしゃ 市民や事業者へ む ばりあふりー けいはつ に向けた普及・啓発	こうれいしゃ しょうがいしゃとう ふく すべ ひと 高齢者、障害者等を含む全ての人が そうご こうりゅう ささ あ 相互に交流し、支え合うとともに、 あんぜん えんかつ たてもの せつび りよう 安全かつ円滑に建物や設備を利用す るためには、しょうがい ただ りかい 障害への正しい理解が ひつよう ひろ しみん じぎょうしゃ む 必要なため、広く市民や事業者へ向 けた普及・啓発を進めます。 ふ かえ <振り返り> ※ とりくみ ふきゅう けいはつない たいおう 取組1-1の普及・啓発内で対応 していきます。	—	—	—	○	—	—	



ばりあふりー すいしん
◆さらなるバリアフリーの推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひようか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひよう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひよう 標
ふくし 福祉のまちづくり じょうれいすいしんじぎょう 条例推進事業	<p>「横浜 にかか すべ ひと たが 尊重し、助け合う、人の優しさにあ ふれたまちづくり」を実現するため、 はーど (しせつ せつび せいび そふと ハード (施設・設備の整備) とソフト (おも いやりの ところ いっさい) を一体的に と ぐり ぐみ、福祉のまちづくりを推進し ます。 <振り返り> こ ども 向けリーフレットの はいふ 子ども向けリーフレットの配布や、 しょくいんどう たいしやう けんしゅう かいさい 職員等を対象とした研修の開催な どにより、福祉のまちづくりを推進 しました。 へいせい ねん がつ ふくし 平成24年12月に福祉のまちづくり じょうれい かいせい じょうれい ちと じぜん 条例を改正し、条例に基づく事前 きやう ぎ せつけいそつだんどう たいおう 協議や設計相談等に対応しました。</p>	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		
こうきやうこうつう きかん 公共交通機関の ばりあふりーか バリアフリー化	<p>だれ い どう かんきやうせいび いっかん 誰もが移動しやすい環境整備の一環 として、てつどうえきしや えれべー たーどう として、鉄道駅舎へのエレベーター等 の設置及びノンステップバスの導入 せつちおよ のんすてっ ぶ ば す どうにゆう の設置及びノンステップバスの導入 せくしん ほか 促進を図ります。 <振り返り> えきしや えれべー たーせつち へいせい 駅舎エレベーター設置について、平成 ねん どもまつじてん し ない えきちゆう 28年度末時点で、市内157駅 中 149 えき だん さかいしやう ず しんちやくりつ 駅が段差解消済みで、進捗率は、 94.9 % です。 のんすてっ ぶ ば す どうにゆう へい ノンステップバス導入について、平 せい ねん ども し ないみんえい ぼ す じぎやうしや 成24年度より、市内民営バス事業者 どうにゆう さい ほ じよ さいかい へいせい の導入に際する補助を再開し、平成 ねん ども たい へいせい ねん ども たい 27年度は 50台、平成28年度は 24台 ほ じよたいしやう を補助対象としました。</p>	すいしん 推進	てつどうえきしや 鉄道駅舎へ えれべー のエレベ ーター等 の設置 : 96 % (対 象は1日 の利用者 3,000人以 上の駅) のんすてっ ノンステッ プバス導 入率 : 69 % (見込み)	てつどうえきしや 鉄道駅舎へ えれべー のエレベ ーター等 の設置 : 100 % (対 象は1日 の利用者 3,000人以 上の駅) のんすてっ ノンステッ プバス導 入率 : 70 %	○			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
ばりあふりーの すいしん ばりあふりー 推進 (バリアフリー きほんこうそう けんとう 基本構想の検討・ さくてい 策定)	えき ちゅうしん ちく たいしやう 駅を中心とした地区などを対象と して、バリアフリー法に基づき、まち のバリアフリー化の方針・計画である 「バリアフリー基本構想」の策定を、 ひ つづ すす 引き続き、進めます。 <振り返り> へいせい ねんどまつ かくく ちく ぜん 平成28年度末までに、各区1地区、全 ちく えき ぶく ちく ばりあふり 18地区26駅を含む地区でバリアフリ ー きほんこうそう さくてい かんりやう ー基本構想の策定を完了しました。	かくく しゅやう 各区の主要 えき さくてい 駅への策定 (18地区) かんりやう 完了	へいせい ねんど 平成29年度 ばりあふり ー きほんこうそう ー基本構想 の策定 : 18地区	○	みさくてい ちく 未策定地区 しんきさくてい の新規策定 とう すいしん 等を推進			
ばりあふりーの すいしん ばりあふりー 推進 (バリアフリー ほ こうくうかん せいび 歩行空間の整備)	えきしゅうへん ばりあふりーか すいしん 駅周辺のバリアフリー化を推進する ため、バリアフリー基本構想に基づ き、道路のバリアフリー化を、引き続 き、進めます。 <振り返り> ばりあふりーか せいびえんちやう るいけい バリアフリー化整備延長の累計 へいせい ねんど きろめーとる 平成27年度 : 33.5 k m へいせい ねんど きろめーとる 平成28年度 : 37.6 k m	ばりあふり ー か せいびえん ー化整備延 ちやうるいけい 長累計 きろめーとる 36 k m	へいせい ねんど 平成29年度 るいけい : 累計39.6 きろめーとる k m (見込み)	○	ばりあふり ー か せいびえん ー化整備延 ちやうるいけい 長累計 きろめーとる 42 k m			
よこはまし こうきやう さいん 横浜市公共サイン がいどらいん ガイドラインの かいてい 改訂	こうきやうきかん せっち ほ こうしややう 公共機関により設置される歩行者用 あんない ゆうどう さいん きかく ひやうじないやうとう 案内・誘導サインの規格や表示内容等 の統一を図るためのガイドラインを かいてい 改訂します。 <振り返り> とうきやうおりんぴく ばらりんぴく 東京オリンピック・パラリンピック どうこう ぶ じやうほうしゅうしゅう すす の動向を踏まえた情報収集を進め ました。	かいていがいど 改訂ガイド ラインの運 用推進	けんとう 検討	△	かいていがいど 改訂ガイド ラインの運 用推進			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
がっこうしせつ 学校施設の ばりあふりー バリアフリー	<p>エレベーターの整備など、学校施設の バリアフリー化を進め、障害児が学び やすい環境を整備します。</p> <p><振り返り> 車いす利用等の児童・生徒が在籍し ているがエレベーターが未整備であ る学校に、エレベーターを整備して います。</p> <p>整備校数 平成28年度： 小・中・義務教育学校487校中163 校</p>	すいしん 推進		へいせい ねん ど 平成29年度 しょう ちゅう 小・中・ ぎむきょういっくがっ 義務教育学 校：487校 ちゅう 中174校 (見込み)	○	すいしん 推進		



しょうがいしゃぎゃくたいぼうし とりくみ しんとう
◆ 障害者虐待防止の取組の浸透

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しょうがいしゃぎゃくたいさいく 障害者虐待対策 じぎょう 事業 (ふきゅう けいはつ 普及・啓発)	しみんむ りーふれつとさくせいとう 市民向けのリーフレット作成等によ こうほう おこな り広報を行います。 また、これまでのぎゃくたいじれい けんしやう 虐待事例を検証し うえ しょうがいふくしきーびす じぎょうしゃ た上で、障害福祉サービスの事業者 とう たいしやう けんしやう じっし 等を対象とした研修を実施します。 <振り返り> ・しみんむ けいはつちらし さくせい 市民向けの啓発チラシを作成しま した。(へいせい ねん がつ 平成29年3月) ・じぎょうしゃとう たいしやう けんしやう じっ 事業者等を対象とした研修を実 施しました。 ・へいせい ねんど いごう じっし じぎょうしゃ 平成29年度以降に実施する事業者 とう たいしやう ないやう かくじゅう 等を対象とした、内容を拡充した ぎゃくたいぼうし けんしやう くに じっし けんしやう 虐待防止研修(国が実施する研修 をふ 踏まえたもの)に向けて、ひつよう ちやう 必要な調 せいとう おこな 整等を行いました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			



しょうがいしゃさべつかいしょうほう ちと とりくみ
◆ 障害者差別解消法に基づく取組

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しょうがいしゃ さべつかいしょう 障害者差別解消 ほうしこう む たい 法施行に向けた対 おう 応	ほんし こんご とりくみ しょうがい 本市の今後の取組について、障害 とうじしゃ がくしきけいけんしゃとう ごうせい かいぎ 当事者、学識経験者等で構成する会議 において検討します。また、会議の けんとう かいぎ けんとうけっか かいぎ 検討結果をもとに、具体的な取組を すいしん 推進します。 ふ かせ <振り返り> よこはま しょうがいしゃ さべつかいしょうけんとう ぶ ・「横浜市 障害者差別解消 検討部 かい しょうがいしゃ さべつかいしょうほう 会」において、障害者差別解消法 しこう ともな ほんし おこな の施行に伴って本市が行うべきこ とをけんとう いただき、へいせい ねん がつ とをけんとう いただき、平成27年11月に まとめとしてのていげん う ていげん う ・検討部会の提言を受け、平成28年 がつ ほんし とりくみ かんが かつ とうりくみ 2月に本市の取組の考え方や取組の ないよう しめ とりくみししん さくてい 内容を示した取組指針を策定しまし た。	へいせい ねんど 平成27年度 けんとう うえ 検討の上、 とりくみ すいしん 取組を推進	とりくみししん 取組指針を さくてい 策定	○	—			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度		
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標	
ししよくいんたいおうようりょう 市職員対応要領 さくていおよ しゅうち の策定及び周知	<p>ほんししよくいん てきせつ たいおう おこな 本市職員が適切な対応を行って くための指針として、差別的取扱い となり得る事例や、合理的な配慮の え じれい ごうりてき はいりよ 好事例等を含む対応要領を策定し、 ごうじれいとう ふく たいおうようりょう さくてい 市職員への周知及び浸透を図りま す。</p> <p><振り返し> ししよくいんたいおうようりょう さくてい かくく ・市職員対応要領を策定し、各区 きよくむ しゅうち 局向けに周知しました。</p> <p>ぜんしよくいん たいしやう けんしゅう いーら ・全職員を対象とした研修（eラ ーニング）を継続的に実施していま す。</p> <p>かくく きよくとう しやうがいしや さべつ ・各区局等においても障害者差別 かいしょう てーま けんしゅう じっし 解消をテーマとした研修を実施し ています。</p>					すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しみん 市民への普及・ けいはつ 啓発	<p>しょうがい りゆう さべつ かいしょう あ 障害を理由とする差別の解消に当 たっては、市民の方々に関心と理解を 深めていただくことが何よりも大切 であることから、市民向けの広報及び 啓発活動を効果的に実施します。</p> <p><ふりかえり> ・ 広報よこはまへの記事掲載による 周知・啓発を行いました。 ・ 主に知的障害のある人を対象と した啓発資料（すごろく）を作成・ 配布しました。 ・ 「障害のある人と障害のない人 の交流を通じた啓発活動」を実施し ています。</p>	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
そうだんたいせいとう せいび 相談体制等の整備	<p>しょうがいしゃさべつ かん そうだん ぶんそう 障害者差別に関する相談、紛争の ぼうしどう たいせい せいび 防止等のための体制を整備すると もに、その周知を図ります。また、相談 およ ぶんそう ぼうしどう ちいき 及び紛争の防止等を地域において すいしん ちいききょうぎかい そしき 推進するための地域協議会を組織し ます。</p> <p><振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報よこはま等で、相談対応に関 する周知を行いました。 ・「横浜市 障害者差別解消 支援地 域協議会」を設置し、相談事例の 共有を図るとともに、相談対応に関 する検討を行っています。 ・相談対応によっても解決が図られ なかった差別事案のあっせんを行う 「横浜市 障害者差別の相談に関する 調整委員会」を設置しました。 	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			
ほうしこうご じっし 法施行後の実施 じょうきょう けんしょう 状況の検証	<p>ほんし とりくみ じっしじょうきょう かくにん 本市の取組の実施状況を確認する とともに、課題の確認及びその後の とりくみ ほうこうせい かん けんとう ていきてき 取組の方向性に関する検討を定期的 に行う仕組みを構築します。</p> <p><振り返り></p> <p>よこはま し しょうがいしゃ さべつ かいしょう し えん ち いききょう 横浜市 障害者差別解消 支援地域協 ぎ かい しょうがいしゃ さべつ かいしょう ちょうやうない すいしん かい 議会、障害者差別解消 庁内推進會 ぎ どりくみ じっし じょうきょう ほうこく 議において取組の実施状況を報告 し、共有しています。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			



せいねんこうけんせいど りようそくしん
◆成年後見制度の利用促進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひようか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひよう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひよう 標
よこはまししみんこうけんじん 横浜市市民後見人 ようせい かつどうしえん 養成・活動支援 じぎょう 事業	ちいき けんりようご しみんさんかく 地域における権利擁護を市民参画で すす よこはませいかつ せんた 進めるため、横浜生活あんしんセンタ ーが全区で市民後見人の養成を実施 し、区役所、市・区社会福祉協議会、 せんもんしよくだんたいどう れんけい かつどうしえん 専門職団体等が連携した活動支援の たいせい こうちく 体制を構築します。 ふ かえ <振り返り> へいせい ねんど だい きし みんこうけんじんよう ・平成27年度に第2期市民後見人養 せい かてい しゅうりよう ぜんく しみんこうけんじん 成課程が修了し、全区で市民後見人 ばんくどうろくしゃ こうほしや もうした バンク登録者を候補者として申立て かのう が可能となりました。また、平成28年 度には、ばんくどうろくしゃ すく つるみ にし こうなん かなざわ さかえ いずみ せやく 西、港南、金沢、栄、泉、瀬谷区を たいしやう だい きやうせい じっし へいせい 対象に第3期養成を実施し、平成28 ねんどまつじてん ばんくどうろくしゃ じん 年度末時点で、バンク登録者が71人、 じゆにんそうすう けん 受任総数は30件となっています。	すいしん 推進	へいせい ねんど 平成29年度 ばんくどうろく バンク登録 しゃ じん 者：67人 へいせい ねん 平成29年 がつ にちじ 7月1日時 てん 点 、 じゆにんそうすう 受任総数： 31件 へいせい ねん 平成29年 がつ にちじ 7月1日時 てん 点	○	すいしん 推進			

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
ほうじんごうけんしえんじぎょう 法人後見支援事業	<p>よこはませいかつ せんたー 横浜生活あんしんセンターが、これま でのほうじんごうけんじゆにんじつせき での法人後見受任実績を踏まえて、 しなひ しゃかいふくし ほうじんとう ほうじんごうけん 市内の社会福祉法人等への法人後見 じっし む しえん おこな 実施に向けた支援を行います。</p> <p><振り返り> ・平成26年度より法人後見支援事 ぎょう じっし ほうじんごうけん じっし 業を実施し、法人後見を実施してい だんたい じゆにん めぎ だんたい れんらく る団体や、受任を目指す団体の連絡 かいとう かいさい 会等を開催しました。 ・平成26,27年度に しょうがいしゃ しえんし せつ どうじしゃ かぞくとうむ あんけーと 設、当事者家族等向けにアンケート じっし けつか ぶ しょうがい を実施。その結果を踏まえ、障 害の かた かぞく しえんしゃ む せいねんごう ある方の家族や支援者向けの成年後 けんせいど ばんふれっと へいせい ねん 見制度のパンフレットを、平成28年 ど さくせい 度に作成しました。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			
せいねんごうけんせいど 成年後見制度の りょうそくしん む 利用促進に向けた かんけいだんたい けんとう 関係団体との検討	<p>けんしゅう じれい つう べんごし 研修や事例などを通じて、弁護士、 しほうしよし およ ぎょうせいしよしとう しょうがいしゃ 司法書士及び行政書士等と、障 害者 せいねんごうけんせいど りょうそくしん む の成年後見制度の利用促進に向けた けんとう おこな 検討を行います。</p> <p><振り返り> せいねんごうけんせいど りょうそくしん む べんご 成年後見制度の利用促進に向け、弁 護 し かい けんとうかい おこな 士会との検討会を行いました。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			



	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
もうした およ 申立て及び ほうしゅうじょせいけん 報酬助成件 すう 数	72 けん 件	79 けん 件	87 けん 件	173 けん 件	202 けん 件	232 けん 件
	じっせい 実績: 90 けん 件	じっせい 実績: 118 けん 件	161 けん 件 (実績見込み)			

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
けんりようごじぎょう 権利擁護事業	けんり まも 権利を守るための相談や契約に基づ きんせんかんり さーびす く金銭管理サービスなどの日常生活 の支援を、区あんしんセンターが、契 約に基づいて実施します。 ふ かえ <振り返り> くしゃきょう 区社協あんしんセンターの権利擁護 じぎょうけいやくすう へいせい ねんど 事業契約数は平成26年度が620件、 へいせい ねんど 平成27年度が728件、平成28年度が 904件と年々増加傾向となっていま す。	すいしん 推進	へいせい ねんど 平成29年度 1,000 けん 件 (見込み)	○	すいしん 推進	



◆ 早期療育体制の充実

⑧ 【目標】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
しょうがいじそだん 障害児相談	4,000 人	4,500 人	5,000 人	5,700 人	6,400 人	7,000 人
	じつじょう 実績: 1,771 人	じつじょう 実績: 2,630 人	3,950 人 (実績見込み)			

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
ちいきりょういくせんたー 地域療育センター 運営事業	<p>しょうがい 障害がある、またはその疑いのあ る児童の地域における療育体制の 充実などを目的として運営を行いま す。</p> <p>また、区福祉保健センターの療育相 談へのスタッフ派遣、関係機関への 巡回訪問による技術支援、障害児 相談支援等を行います。</p> <p><振り返り></p> <p>初診の申込件数が多い西部及び東部 地域療育センターの相談場所を拡 充し、支援の円滑化を図ることで、 平成28年度末で初診待機期間は3.2 月となりました。</p>	<p>初診待機期間</p> <p>3.0月 (現状3.5 月)</p>	<p>平成29年度</p> <p>3.0月 (見込み)</p>	○	<p>すすしん 推進</p>	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
ちいきくんれんかい うんえいひ 地域訓練会運営費 じよせいじぎょう 助成事業	<p>しょうがいじ ぼごしゃとう じしゅてき そしき 障害児の保護者等が自主的に組織し、 ちいき きのかいふくくんれん ほいく おこな 地域で機能回復訓練や保育を行う、 ちいきくんれんかい うんえいひ じよせい 地域訓練会の運営費を助成します。</p> <p><ふりかえり> ちいきくんれんかい さんか じどう げんしょうけいこう 地域訓練会の参加児童は減少傾向に ありますが、当事者力や地域力を高 めるとしやりよく ちいきりよく たか める活動であり、参加促進や参加しや すい工夫が必要です。</p> <p>【助成実績】 へいせい ねん ど だんたい 平成27年度：57団体 へいせい ねん ど だんたい 平成28年度：56団体</p>	すいしん 推進 (現状69 団体)	すいしん 推進	○	すいしん 推進			

⑧ 【目標】

	へいせい ねん ど 平成27年度		へいせい ねん ど 平成28年度		へいせい ねん ど 平成29年度		へいせい ねん ど 平成30年度		へいせい ねん ど 平成31年度		へいせい ねん ど 平成32年度	
ほいくしょとう 保育所等 ほうもんし 訪問支 えん じゆんかい 援・巡回 ほうもん 訪問	1,500 人	にん	1,500 人	にん	1,750 人	にん	1,775 人	にん	1,850 人	にん	1,950 人	にん
	実績: 1,497 人	にん	実績: 1,653 人	にん	実績見込み: 1,680 人	にん						
えん じゆんかい 援・巡回 ほうもん 訪問	11,000 人日	にんにち	11,000 人日	にんにち	14,000 人日	にんにち	14,500 人日	にんにち	15,000 人日	にんにち	17,000 人日	にんにち
	実績: 10,169 人日	にんにち	実績: 10,371 人日	にんにち	実績見込み: 11,500 人日	にんにち						
じ どうはったつ 児童発達 し えん 支援 ※	49 箇所	しよ	52 箇所	しよ	55 箇所	しよ	100 箇所	しよ	110 箇所	しよ	すいしん 推進	
	実績: 53 箇所	しよ	実績: 77 箇所	しよ	実績見込み: 92 箇所	しよ						
えん じゆんかい 援・巡回 ほうもん 訪問	133,000 人日	にんにち	141,000 人日	にんにち	149,000 人日	にんにち	229,000 人日	にんにち	252,000 人日	にんにち	すいしん 推進	
	実績: 159,562 人日	にんにち	実績: 176,280 人日	にんにち	実績見込み: 201,000 人日	にんにち						

※ 主に重症心身障害児を支援する児童発達支援事業所は、平成28年度時点で1箇所



⑧ もくひょう 【目標】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
いりょうがた 医療型 じどうはったつ 児童発達 しえんえん 支援 ※	9 <small>か所</small>	9 <small>か所</small>	9 <small>か所</small>	9 <small>か所</small>	9 <small>か所</small>	9 <small>か所</small>
	<small>ひつじょう</small> 実績: 9 <small>か所</small>	<small>ひつじょう</small> 実績: 9 <small>か所</small>	<small>ひつじょう</small> 実績: 9 <small>か所</small> <small>じつせきまこ</small> (実績見込み)			
	19,000 <small>にんにち</small> 人日	19,000 <small>にんにち</small> 人日	19,000 <small>にんにち</small> 人日	19,000 <small>にんにち</small> 人日	19,000 <small>にんにち</small> 人日	19,000 <small>にんにち</small> 人日
	<small>ひつじょう</small> 実績: 20,953 <small>にんにち</small> 人日	<small>ひつじょう</small> 実績: 18,849 <small>にんにち</small> 人日	<small>ひつじょう</small> 実績: 19,000 <small>にんにち</small> 人日 <small>じつせきまこ</small> (実績見込み)			

※ いずれも ちいきりょういくせんたーじつじぶんふく 地域療育センター実施分を含む

しんき
【新規】

きょたくほうもんがたじどうはったつしえん 居宅訪問型児童発達支援については、くにじぎょうしょうさいしめ 国が事業詳細を示した後、のちちいきじつじょうとうもと 地域の実情等を基に設定します。

⑧ もくひょう 【目標】

	へいせい ねんど 平成27年度	へいせい ねんど 平成28年度	へいせい ねんど 平成29年度	へいせい ねんど 平成30年度	へいせい ねんど 平成31年度	へいせい ねんど 平成32年度
<small>しんき</small> 【新規】 こども・子 そだ しえんとう 育て支援等 (保育所、 ほうかごじどう 放課後児童 けんぜんいくせいじ 健全育成事 ぎょうしょとう 業所等) に おける <small>しょうがい</small> 障害 じうけい 児の受入れ たいせい せいび 体制の整備	—	—	—	かんけいきかん れんけい こ 関係機関と連携し、子ども・子育て しえんとう ほいくじよ ほうかごじどうけんぜんいく 支援等（保育所、放課後児童健全育 せいじぎょうしょとう ほいくじよとうほうちんし 成事業所等）へ、保育所等訪問支 えん じゆんかいほうちんおよ けんしゅうとう かくじゅう 援、巡回訪問及び研修等を拡充 することにより、利用を希望する しょうがいじ うけい たいせい せいび 障害児の受入れ体制の整備を引き つづ すいしん 続き推進していきます。		



◆ がくれいしょうがいじ しえん じゅうじつ 学齡障害児の支援の充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
ほうかごとう 放課後等における いばしよ じゅうじつ 居場所の充実	がくれいき しょうがいじ たいしょう ほうかご 学齡期の障害児を対象に、放課後 なつやす みなどに、のびのびと過ごし ながら りょういくくねん や か しえん う 療育訓練や余暇支援を受けら れる居場所の確保を進めます。ま た、 ひ つづ ほうかご きつずく らぶ 引き続き放課後キッズクラブ 等、 ほうかご じどういくせいじぎょう 放課後児童育成事業における受 入れも すいしん 推進します。さらに、 ほうかご 放課後 等で いさーびす じぎょうしよ たい けんしゅう デイサービス事業所に対し研修 を じっし 実施する等、 しょうがいじ しえん しょう しょう 障害児支援の質の向 上 じょうむ に向けた とりくみ じゅうじつ 取組を 充実 します。 <ふりかえり> ・ しんき じていまえ せつめいかい へいせい ねんど 新規指定前の説明会を平成27年度 より かいさい じぎょうしゅうち ともに じっし 実施 の じょうじょう 向上 に向けた せつめい おこな 説明を行いました た。(へいせい ねんど かい へいせい ねんど 平成27年度 4回、平成28年度 3回) ・ じぎょうしよ じっちしどう しゅうだんしどう 事業所への実地指導、集団指導 にかえ、へいせい ねんど けんしゅう 平成27年度からは研修も おこな 行っています。(へいせい ねんど 平成27年度 2 回、へいせい ねんど かい 平成28年度 4回) ・ へいせい ねんど よこはま しぼんほうかごとう 平成27年度には「横浜市版放課後等 たいさーびすがいどらいん」を作成・ こうひょう 公表し、へいせい ねんど がいどらいん 平成28年度にはガイドライ ン ちと 基づいた じぎょうしよ じこひょうか およ 事業所自己評価及び ほごしゃひょうか 保護者評価の実施を ぜんじぎょうしよ 全事業所に指 導 導しました。	—	じっし 実施	○	すいしん 推進			

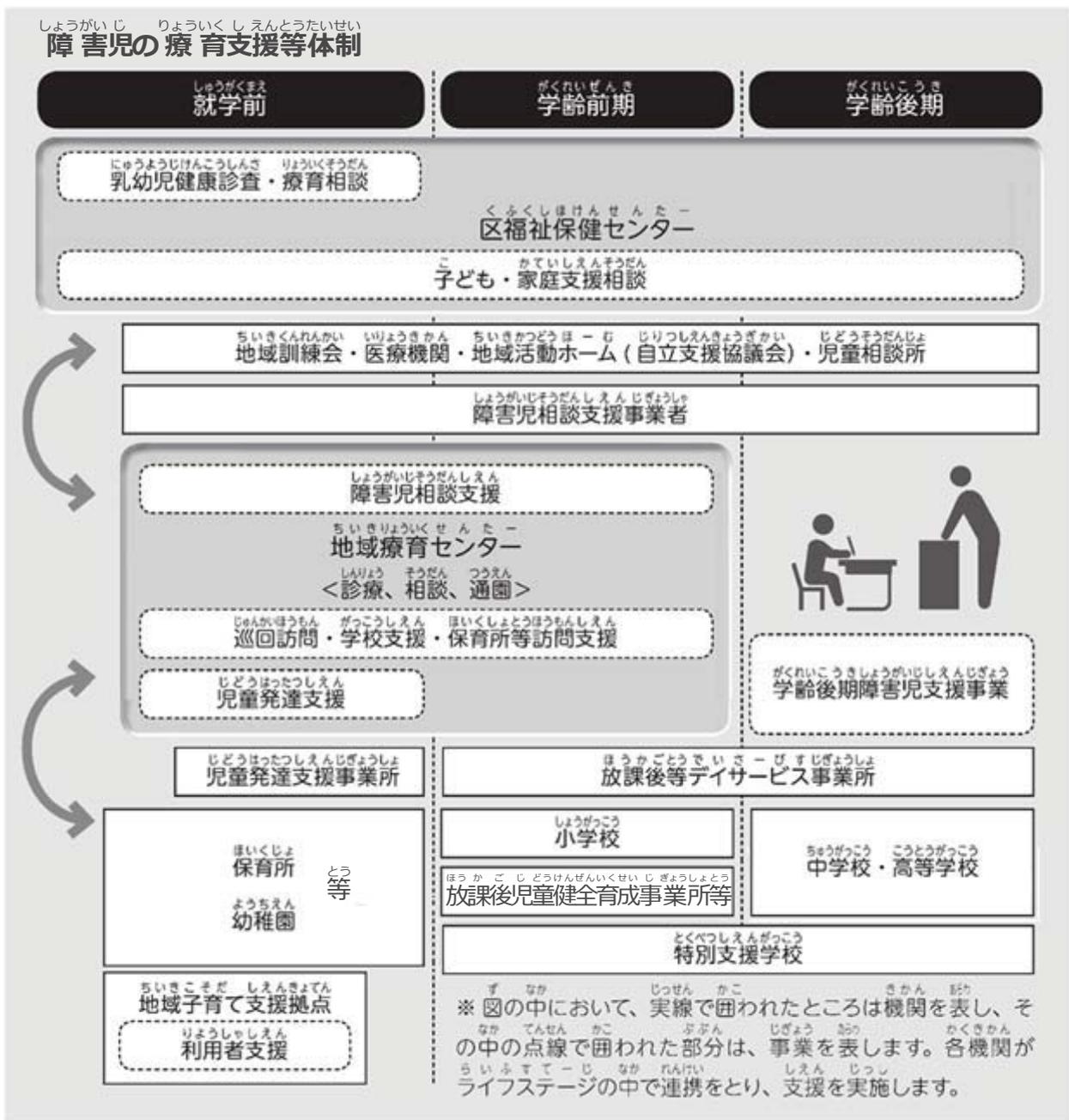


児 【目標】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
放課後等デイサービス事業	130 箇所 実績: 162 箇所	165 箇所 実績: 217 箇所	200 箇所 262 (実績見込み) 箇所	300 箇所	350 箇所	すいしん 推進
※	229,000 人日 実績: 350,782 人日	298,000 人日 実績: 521,130 人日	368,000 人日 656,000 (実績見込み) 人日	720,000 人日	840,000 人日	すいしん 推進

※ 主に重症心身障害児を支援する放課後等デイサービス事業所は、平成28年度時点で4箇所

事業名	事業内容	平成29年度		評価	平成32年度	
		目標	現状		目標	現状
学齢後期障害児支援事業	<p>医師、ソーシャルワーカー等のスタッフを配置し、学齢後期の主として発達障害のある児童を対象として、思春期におけるそれぞれの課題の解決に向けた診療、相談及び関係機関との調整等を行います。</p> <p><振り返り> 相談対応延件数は増加傾向にあり、4か所目の事業実施を検討しました。</p> <p>平成27年度： 新規利用者: 1,193人 相談対応延件数: 13,077件</p> <p>平成28年度： 新規利用者: 1,022人 相談対応延件数: 14,739件</p>	4 箇所 (現状 3 箇所)	3 箇所	△	4 箇所	



りょういく きょういく れんけい きめ しえん
◆療育と教育の連携による切れ目のない支援

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
よこはまがたせんたーてき きのう じゅうじつ 機能の充実	ちいまりょういくせんたーとくべつしえんがっこう 地域療育センターや特別支援学校、 つうきゅうしどうきょうしつどう たんとくしや せんもんせい 通級指導教室等の担当者が専門性 かつよう しえん おこな がっこうしえんたいせい を活用して支援を行う学校支援体制 (よこはまがたせんたーてききのう) じゅうじつ (横浜型センター的機能) の充実を はか 図ります。そして、しょう ちゅうがっこう 小・中学校から そうだん じどうせいと ほごしや しょうだん の相談や児童生徒、保護者からの相談 たいおう とくべつしえん ひつよう に対応するなど、特別な支援が必要な じどうせいと てきかく しえん 児童生徒を的確に支援します。 ふ かえ <振り返り> へいせい ねんど せんたーてききのう 平成28年度には、センター的機能の ばんふれっと さくせい しりつがっこう パンフレットを作成し、市立学校に しゅうち けいはつ はか 周知・啓発を図りました。	すいしん 推進		じっし 実施		○	すいしん 推進	
とくべつしえんきょういく 特別支援教育に おける幼保小の れんけい 連携	しょうがっこう ようちえん ほいくしょ等 きょうりょく 小学校が、幼稚園・保育所等と協 けんきゅうじっせん おこな とくべつしえんきょう して、研究実践を行い、特別支援教 いく ようほしょう れんけい じょうほう 育における幼保小の連携と情報の きょうゆうか かん けんきゅう おこな 共有化に関する研究を行います。 ふ かえ <振り返り> へいせい ねんど ねん ほうめん 平成26・27年度の2か年で、4方面 けんきゅうじっせん おこな において研究実践を行いました。 ねんど けんきゅうせいか さっし 28年度には、その研究成果を冊子に すべ しりつがっこう はっしん きょう まとめ、全ての市立学校に発信し共 ゆう 有しました。	すいしん 推進		じっし 実施		○	すいしん 推進	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しゅうがくせつめいかい 就学説明会	とくべつしえんきょういく きぼう ようじ 特別支援教育を希望する幼児の しゅうがく かん せつめいかい かいさい 就学に関する説明会を開催します。 <ふ かえ> へいせい ねんど がつ がつ 平成28年度は5月から6月にかけて 28かいじっし 28回実施しました。	すいしん 推進		へいせい ねんど 平成29年度 しゅうがく 就学 せつめいかい 説明会 : 26かい 回	○	すいしん 推進		
しゅうがく きょういく そうだん 就学・教育相談 たいせいきょうか の体制強化	ひとり きょういく に ーず てきかく 一人ひとりの教育ニーズを的確に はあく じんそく てきせい しゅうがく きょういく 把握し、迅速で適正な就学・教育 そうだん おこな かんけい きかん そうご 相談を行うために関係機関が相互に れんけい 連携しながら、しゅうがくまえ そつぎょうご 就学前から卒業後ま でを見通した相談体制の強化を図り ます。 <ふ かえ> へいせい ねんど けん しゅうがく きょう 平成28年度は4,267件の就学・教 いくそうだん おこな ぜんねんど くら 育相談を行いました。前年度に比べ やく けんそうか かんけい きかん 約300件増加したため、関係機関との さら れんけい ひつよう 更なる連携が必要です。	すいしん 推進		へいせい ねんど 平成29年度 しゅうがく きょう 就学・教 いくそうだん 育相談 : 4,300けん (見込み)	△	すいしん 推進		
ちょうかくしょうがいじしえん 聴覚障害児支援 じぎょう 事業	よこはましりつしょう ちゅうがっこう ざいせき 横浜市立小・中学校に在籍する ちょうかくしょうがい じどうせいと の ーと 聴覚障害のある児童生徒にノート ていく じょうほう ほしょう じっし テイクによる情報の保障を実施し ます。 <ふ かえ> へいせい ねんど にん じどうせいと たい 平成28年度は15人の児童生徒に対 して、390かい ぼらんてい あはけん 390回のボランティア派遣を おこな 行いました。	すいしん 推進		へいせい ねんど 平成29年度 ぼらんてい ボランティア あはけん ア派遣 : 260かい (見込み)	○	すいしん 推進		



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
ほごしゃ きょうしつかいさい 保護者教室開催 じぎょう 事業	よこはまし りつしょう ちゅうがっこう とくべつ しえんがっこう 横浜市立小・中学校、特別支援学校の保護者を対象とした障害に対する正しい知識の啓発を進めます。 <振り返り> まいとし なんちょう げんご しょうがい 毎年、難聴・言語障害にかかわるものを3回、発達障害にかかわるものを3回開催しています。	すいしん 推進		へいせい ねん ど 平成29年度 ほごしゃ 保護者 きょうしつ 教室 : 6回	○	すいしん 推進		
なつやす しえんじぎょう 夏休み支援事業 (きゅうがくれいしょうがいじ 旧学齢障害児 なつやす しえんじぎょう 夏休み支援事業)	とくべつしえんがっこうようじじどうせいと なつやす 特別支援学校幼児児童生徒の夏休み期間中における余暇活動の充実、保護者の介護負担の軽減及び地域との連携を進めます。 <振り返り> とくべつしえんがっこう なつやす きかん かくごう 特別支援学校の夏休み期間に、各校の実情に合わせて、プール開放やぶかつどう れくりえーしょん かつどうとう よ 部活動・レクリエーション活動等の余暇活動を毎年度実施しています。	すいしん 推進		へいせい ねん ど 平成29年度 さんかしゃ 参加者 : 4,700人 (見込み)	○	すいしん 推進		
しりつようちえんとう 私立幼稚園等 とくべつしえんきょういくひ 特別支援教育費 ほじょじぎょう 補助事業	しりつようちえんとう ざいえん しょうがいじ 私立幼稚園等に在園している障害児に対する教育が、障害の種類・程度などに応じて適切に行われるよう、その経費の一部を設置者に補助し、しょうがいじ きょういく やくだ 障害児の教育に役立っています。 <振り返り> へいせい ねん ど とくべつしえんきょういくひ ほじょ 平成28年度の特別支援教育費補助の対象園児数は903人、補助総額は180,600千円となりました。	すいしん 推進		へいせい ねん ど 平成29年度 ほじょそうがく 補助総額 : 95,000 せんえん 千円	○	すいしん 推進		

きょういくかんきょう きょういくかつどう じゅうじつ
◆ 教育環境・教育活動の充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
とくべつし えんきょういく こー てい ねー たー ようせい 特別支援教育コーディネーター養成 けんしゅう じゅうこう かつどう とくべつし 研修を受講して活動している特別支 えんきょういく こー てい ねー たー たいしやう 援教育コーディネーターを対象に、 さらなるスキルアップを目指して、事 れいけんきゅう ちゆうしん けんしゅう すす 例研究などを中心とした研修を めると共に、関係機関との連携を強 か せんもんてき ししつ たか 化し、専門的な資質を高めます。 ふ かえ <振り返り> へいせい ねん ど ようせいけんしゅう にん たい 平成28年度、養成研修は326人を対 しょう かい すきるあつ ぶけんしゅう 象に15回、スキルアップ研修は70 にん たいしやう かいじっし 人を対象に10回実施しました。ま たく かくく ほうめんきやう ぎかい かくこう た、各区、方面協議会において各校 とりくみ きやうゆう じれいけんとう おこな の取組の共有や事例検討を行いました。	すす 推進	へいせい ねん ど 平成29年度 ようせいけんしゅう 養成研修 かい : 12回、 すきるあつ スキルアッ ぶけんしゅう プ研修 かい : 6回	○	すす 推進				
ゆにばーさるでざ いん してん ちと ユニバーサルデザ インの視点に基づ く授業の展開	いっばんがくきゅう きやう かがくしゅう とく 一般学級の教科学習において、特 べつし えんきょういく う だ さまざま く 別支援教育で生み出された様々な工 ふう と い すべ こ 夫を取り入れ、全ての子どもたちの授 ぎやう たい いよく たか りかい 業に対する意欲を高めたり、理解を ふか 深めたりすることを目指します。 ふ かえ <振り返り> とくべつし えんきょういく そうごう せん たー およ せん 特別支援教育総合センター及びセン たー けんしゅうせい きんむこう けんきゅう ター研修生の勤務校において研究 おこな まいとし がつ ほうこくかい かいさい を行い、毎年3月に報告会を開催し ています。重点研究を行っている がっこう たい しどうじよげん じっし 学校に対し、指導助言を実施していま す。	すす 推進	じっし 実施	○	すす 推進			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
とくべつ し えんがっこう 特別支援学校にお ける I C T 機器 の活用	<p>しゅたいてき がくしゅう のための 効果的な タブレット端末の活用について、特別支援学校全校で実践研究を行います。</p> <p><振り返り> 平成26~28年度の3か年で、全ての市立特別支援学校（12校）で実践研究を行いました。平成26年度末には研究の中間報告を冊子にまとめ、29年度に最終報告を予定しています。</p>		すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進	
とくべつ し えんがっこう さい 特別支援学校の再 編整備	<p>にゅうがくしゃぞう ともな きょうあいか ため、対応が必要な特別支援学校（肢体不自由）を再編整備し、環境の改善と教育内容の充実を図ります。</p> <p><振り返り> 平成31年度の左近山特別支援学校（仮称）の開校に向けた設計等を実施するとともに、閉校を予定している北綱島特別支援学校では保護者説明会や個別面談等を実施しました。</p>		すいしん 推進		じっし 実施	○	さいへんせいび 再編整備 しゅうりょう 終了	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
とくべつしえんがっこう 特別支援学校 すくーるばす スクールバスの うんこう 運行	<p>じどうせいと どうげこう あんぜんかくほ せいしん 児童生徒の登下校の安全確保と精神 てき しんたいてき ふたん けいげん がっこうきょう 的・身体的負担の軽減による学校教 いく じゅうじつ はか すくーるばす 育の充実を図るため、スクールバス うんこう を運行します。</p> <p><振り返り> へいせい ねんど したいふ じゆうこう すく 平成28年度には肢体不自由校でスク ーるばす だいぞうしゃ こう こー ールバスを1台増車し、8校41コー す うんこう じっし スの運行を実施しました。また、平成 29年度からすべてのバスに いちじょうほう 位置情報を しすてむ どうにゆう てきせい うんこうかんり システムを導入し、適正な運行管理 および保護者の利便性向上を図りまし た。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			
とくべつしえんがっこう いりょう 特別支援学校医療 てきけ あたいせいせいび じ 的ケア体制整備事 ぎょう 業 (きゅう したいふ じゆうとく 旧肢体不自由特 べつしえんがっこう いりょう 別支援学校医療 てきけ あたいせいせいび じ 的ケア体制整備事 ぎょう 業)	<p>とくべつしえんがっこう したいふ じゆう こう かん 特別支援学校(肢体不自由)5校に看 ごし はいち じどうせいと しゅ 護師を配置しています。児童生徒の主 じ いとう しじ もと かんごし きょう 治医等の指示に基づき、看護師と教 いん れんけい いりょうてきけ あじっしたいせい 員が連携して、医療的ケア実施体制 せいび おこな の整備を行います。</p> <p><振り返り> したいふ じゆうとくべつしえんがっこう こう かんご 肢体不自由特別支援学校5校に看護 し はいち きょういん れんけい いりょうてき 師を配置し、教員と連携した医療的 け あじっしたいせい こうちく ケア実施体制を構築することで、医 りょうてきけ あ ともな じどうせいと あんしん あん 療的ケアを伴う児童生徒が安心・安 ぜん きょういく う 全に教育を受けられる環境整備を おこな 行っています。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
ごうないけんしゅう じっし 校内研修の実施	<p>いっばんがっきゅう においても 特別な 支援を要する 児童生徒が 増加し、支援の ニーズが 多様化している 状況を 踏まえ、全ての 教員が 障害の 状態や 特性に 応じた 指導・支援を行えるよう、ケーススタディを 重視した 研修を 充実させ、専門性の 向上を 目指します。</p> <p><振り返り> 全ての 小・中学校において、「障害者 差別 解消法 施行に 伴う 合理的 配慮」や「発達 障害の 理解を 深めるため」など 各校の 実情に 応じた テーマで 校内研修 を 実施しています。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			
とくべつ しえんきょういく し 特別支援 教育支 えんいん じぎょう 援員事業 (旧 障害児学校 生活支援員事業)	<p>小・中学校で 障害により 学習面、生活面 や 安全面 への 支援が 必要な 児童生徒に 対し、校内 支援体制が 整うまでの 間、特別支援 教育支援員を 配置します。</p> <p><振り返り> 小・中学校で 障害等により 学習面、生活面 や 安全面 への 支援が 必要な 児童生徒に 対し、特別支援 教育支援員を 配置しました。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			

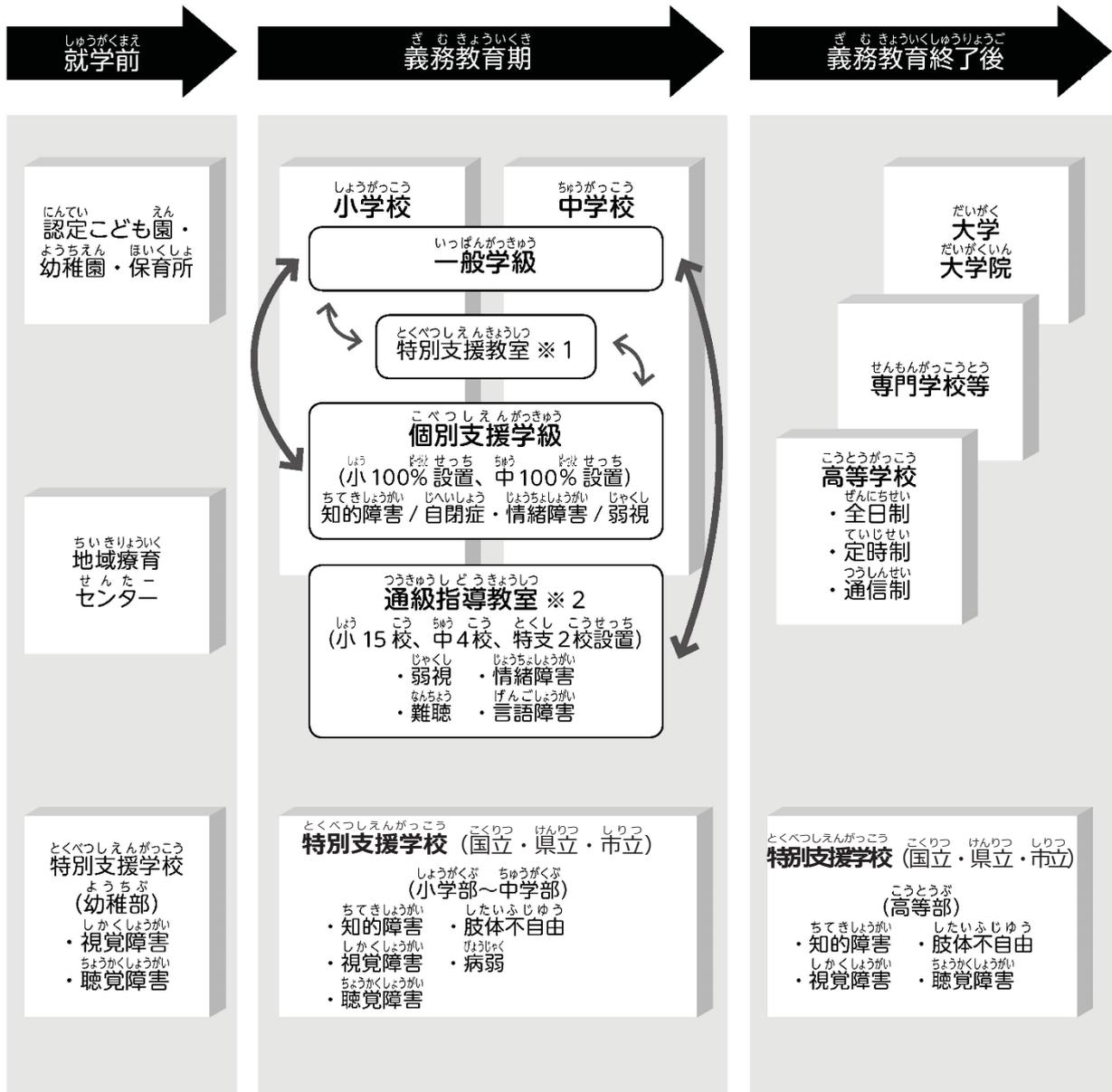


じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん 度 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん 度 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
とくべつ し えんきょういく 特別支援教育の りーだー いくせい リーダーの育成	<p>だいがくとうせんもんきかん へん おこな 大学等専門機関への派遣を行うこと により、とくべつ し えんきょういく にな きょういん 特別支援教育を担う教員の りーだー しようせい おこな リーダーの養成を行います。</p> <p><ふりかえり> きょうしよくいん とくべつ し えんきょういく かん し 教職員の特別支援教育に関する指 導力の向上及び校内における特別 し えんきょういく りーだー いくせい よこ 支援教育のリーダー育成として、横 はまこくりつだいがく とくべつ し えんきょういく こーでい 浜国立大学の特別支援教育コディ ネーター養成コース派遣研修に小 がっこうきょう ゆ へん 学校教諭を派遣しました。また、特 べつ し えんきょういく こーでい ねーたー む 別支援教育コーディネーター向けの けんしゅう みなお じっせんてき ないよう 研修を見直し、より実践的な内容を と いる など、すきる あっぶ はか 取り入れるなど、スキルアップを図っ ています。</p>	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		



◆ 教育から就労への支援

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
とくべつしえんがっこう 特別支援学校 しゅうろうしえんじぎょう 就労支援事業	<p>きぎょうしゅうろう め ぎ せい と じっしゅうさきかい 企業就労を目指す生徒の実習先開拓や職場定着支援を行うため、高等とくべつしえんがっこう わか ぼ だい とくべつ し えんがっこう ち 特別支援学校(若葉台特別支援学校知的障害教育部門を含む)に就労しえんしどういん はいち 支援指導員を配置します。</p> <p><振り返り> こうとうとくべつしえんがっこう ひ の ちゅうおう ふた 高等特別支援学校(日野中央、二つ ぼし わか ぼ だい ち てきしょうがいきょういく ぶ もん 橋、若葉台知的障害教育部門)の3 ところ 1 人 ずつ しゅうろうしえんしどういん しゃく 校に1人ずつ就労支援指導員を嘱託員として配置し、各校における実習先開拓や職場定着支援に寄与しています。</p>	すいしん 推進		しゅうろうしえん しどういん はいち 配置	○	すいしん 推進		
とくべつしえんがっこうしんろ 特別支援学校進路 たんどうしゃれんらくかい 担当者連絡会の かいさい 開催	<p>しりつとくべつしえんがっこう しんろたんどうしゃ が 市立特別支援学校の進路担当者 しょうがいしゅべつ こ ていきてき じょうほう 障害種別を超えて定期的に情報 こうかん じれいけんきゅう おこな はばひろ しんろ 交換や事例研究を行い、幅広い進路 せんたく たいおう 選択に対応できるようにします。</p> <p><振り返り> しりつとくべつしえんがっこう しんろ たんどうしゃ じょうほうこうかん じれいけんきゅう ねんかん かいいてい ど じつ 市立特別支援学校の進路担当者の情報交換や事例研究を年間5回程度実施し、幅広い進路選択に対応できるようにしました。</p>	すいしん 推進	へいせい ねん ど 平成29年度	しんろたんどうしゃ 進路担当者 れんらくかい 連絡会 : 5回 (予定)	○	すいしん 推進		



さんこう よこはまし とくべつしえんきょういく おこな ぼしよ へいせい ねんげんざい (参考) 横浜市における特別支援教育を行う場所 (平成 29 年現在)

- ※1 特別支援教室：集団では学習に参加することが難しい児童生徒が、一時的に一般学級を離れて、落ち着ける環境の中で学習するためのスペース
- ※2 通級指導教室：一般学級に在籍する、比較的軽度の障害がある児童生徒に対して、障害の状態に応じた特別な指導をするための場。

とくべつ しえん ひつよう こ しゅうがくまえ さまざま きかん しえん う
 特別な支援の必要な子どもたちは、就学前から様々な機関の支援を受けていることが
 おお しえん ないよう ぐたいてき ほうほう き けいぞく
 多くあり、それぞれの支援の内容や具体的な方法が切れめなく継続していくようにすること
 たいせつ しゅうがくき とく こべつ きょういくしえんけいかく さくせい しんきゅう しんがく さい ひ
 が大切です。就学期には特に「個別の教育支援計画」を作成して、進級・進学の際の引き
 つ かつよう
 継ぎに活用しています。



しょうがいふくしじゅうじや かくほ いくせい
◆ 障害福祉従事者の確保と育成

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
がくせいとう たいししょう 学生等を対象と した人材の確保事 業 ②	せんもんがっこう しないだいがくとう れんけい がくせい 専門学校や市内大学等と連携し、学生 む せつめいかい せみなー けんがくつあー 向けに説明会やセミナー、見学ツアー とう おこな しょうがいふくし ぶ きかい 等を行い、障害福祉に触れる機会を ふ しょうがいふくし じんざいかくほ 増やすなど、障害福祉への人材確保 む とりくみ おこな に向けた取組を行います。 <振り返り> ・平成27年「福祉のしごとフェア」に かんれんだんたい さんかく 関連団体と参画しました。 しょうがいふくし じんざい ぶ そく かいけつ む ・障害福祉人材不足の解決に向け、 みんかんじぎょうしや きょうどう ゆうこう こうほう 民間事業者と協働して、有効な広報 だ かいさく けんとう や打開策を検討しています。	すいしん 推進	じっし 実施	△	すいしん 推進	
しょうがいとくせい おう 障害特性に応じた しえん けんしゅう 支援のための研修	こうどうしょうがい はったつしょうがいとう しょうがいとくせい 行動障害や発達障害等の障害特性 おう けんしゅう しょくほうしょうがいしや に応じた研修や、触法障害者に かん けんしゅう けんとう じっし 関する研修などを検討・実施します。 <振り返り> しょうがいふくし きーびす じぎょうしやとう しょく ・障害福祉サービス事業所等の職 いん たいししょう こうどうしょうがい かの しえん 員を対象に、行動障害に係る支援 りよくこうじょう はか けんしゅう しないほう 力向上を図るための研修を市内法 じん きょうどう おーるよこはま 人が共同して「オール横浜」として じっし さいけい 実施しました。(再掲) はったつしょうがい かん いちじ そうだん しえん き ・発達障害に関する一次相談支援機 かん しえん すきる こうじょう けんしゅう 関の支援スキル向上のため、研修を じっし 実施しました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
いりょうじゅうじしゃけんしゅう 医療従事者研修 じぎょう さいけい 事業【再掲】㊤	<p>しつぺい しょうがい しょうにおよ じゅうしょうしん 疾病や障害のある小児及び重症心 身障害児・者の支援に必要な知識・ ぎじゆつ こうじょう はか しょうがいとくせい りかい 技術の向上を図り、障害特性を理解 した医療従事者を育成するための いりょうじゅうじしゃ いくせい 研修を実施します。</p> <p>ふ かえ <振り返り></p> <p>いりょう きかん ふくし しせつどう きんむ かん 医療機関や福祉施設等に勤務する看 ごし たいしょう しょう にほうもんかんご じゅう 護師を対象に「小児訪問看護・重 しょうしんしんしょうがい じしゃけんしゅう ぜん にちかん 症心身障害児者研修」を全11日間 じっし 実施しました。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			
しょうがいふくししせつどう 障害福祉施設等で はたら かんごし しえん 働く看護師の支援 さいけい 【再掲】㊤	<p>しょうがいふくししせつどう はたら かんごし 障害福祉施設等で働く看護師の ていちゃく む しえん おこな 定着に向けた支援を行うとともに、 かくほ ほうさく けんどう 確保の方策について検討します。</p> <p>ふ かえ <振り返り></p> <p>ちかつほ - む しかいし はけん しょく 地活ホームに歯科医師を派遣し、食 じ ばめん しょうがいふくし げんば 事場面において、障害福祉の現場に そく じよげんしどう けんしゅう じっし 即した助言指導や研修を実施してい ます。</p> <p>ちかつほ - む たきのうがたきよてん また、地活ホームや多機能型拠点で はたら かんごし たいしょう かいぎ かい 働く看護師を対象とした会議を開 さい かだい きょうゆう ネットワーク 催し、課題の共有やネットワーク くりに行っています。</p>	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しゅうろうしえんきかん 就労支援機関の じんざいいくせい 人材育成	しゅうろうしえんきかんしよくいん しえんすきる 就労支援機関職員の支援スキルを こうじょう じんざいいくせい しく 向上させるため、人材育成の仕組み づくりを検討します。 <ふ かえ 振り返り> しゅうろうしえんせんたー なたけんとう なか 就労支援センターのあり方検討の中 で、人材育成に関する次の内容に取 り組むことを決めました。 ・きそちしき すきる せいり がくしゅう 基礎知識・スキルの整理と学習の 機会の検討 ・しょうがいしゅべつけんしゅう たきかん れんけい 障害種別研修や他機関と連携し た研修の実施 ・ほんしかいさい そうだんし えんけんしゅう さんか 本市開催の相談支援研修への参加	けんとう ふ 検討を踏ま えた研修 等の実施	じっし 実施	○	すいしん 推進			
しょうがいふくしきーびす 障害福祉サービス じぎょうしやとうしよくいんむ 事業所等職員向け けんしゅう の研修	じぎょうしよ しよくいん しやうがいしやこよう おこな 事業所の職員が、障害者雇用を行 っている企業での「就業体験」など をとおじて、しゅうろうしえんすきる こうじょう を通じて、就労支援スキルの向上 や、しゅうろう む いしきづ おこな 就労に向けた意識付けを行いま す。 <ふ かえ 振り返り> きぎょう だんたい きやうりよく しななじ 企業・団体の協力のもと、市内事 業所職員を対象に実施しました (まいねんど 6 ~ 7 月)。 へいせい ねんど さんか にんずう るいけい 平成27~28年度参加人数(累計) : 92人	さんか にんずう 参加人数 (累計) 90人	へいせい ねんど 平成29年度 さんか にんずう 参加人数 (累計) : 173人	○	さんか にんずう 参加人数 (累計) 380人			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
がいどへるばーとう ガイドヘルパー等 けんしゅうじゅこうりょうじよせい 研修受講料助成 ㊤	がいどへるばーとう しかくしゅとく ガイドヘルパー等の資格取得のため けんしゅうじゅこうりょう いちぶ じよせい じんざい の研修受講料の一部を助成し、人材 かくほ はか 確保を図ります。 ふ かえ <振り返り> へいせい ねんど じよせいにんずう にん 平成28年度助成人数：210人 そうじよせいがく えん 総助成額：3,759,000円 うちわけ ちてきが いどへるばー けん ぜんしん 内訳：知的ガイドヘルパー39件、全身 せいがいどへるばー けん どうこうえんごいつ 性ガイドヘルパー44件、同行援護一 ばんかてい けん こうどうえんご けん 般課程100件、行動援護31件			へいせい ねんど 平成29年度 じよせいにんずう 助成人数 ：250人 (見込み) 、 そうじよせいがく 総助成額 ：5,000,000 えん 円 (見込み)	○	すいしん 推進	すいしん 推進	
がいどへるばー ガイドヘルパー すきるあっぷけんしゅう スキルアップ研修 ㊤	より質の高いサービスが提供できる よう、いどうしえんじぎょう じゅうぎょうしゃ 移動支援事業の従業者を たいしやう けんしゅう じっし 対象に研修を実施します。 ふ かえ <振り返り> へいせい ねんど さーびすていきやうせきにんしや 平成28年度はサービス提供責任者 む じゅうぎょうしゃむ わ かいざい 向けと従業者向けに分けて開催し ました。 さーびすていきやうせきにんしやむ けんしゅう じゅう サービス提供責任者向け研修の受 こうしやすう にん ぜん かい 講者数：132人(全4回) じゅうぎょうしゃむ けんしゅう じゅうこうしやすう 従業者向け研修の受講者数：250 にん ぜん かい 人(全6回)			へいせい ねんど 平成29年度 さーびすてい サービス提 きやうせきにんしや 供責任者 む けんしゅう 向け研修 ：240人 (見込み) 、 じゅうぎょうしゃむ 従業者向 けんしゅう け研修 ：480人 (見込み)	○	すいしん 推進	すいしん 推進	



とうじしゃ しえんたいせい じゅうじつ
◆当事者による支援体制の充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しゃかいさんかすいしんせん 社会参加推進セン ターによる団体活 動支援機能の充実	しょうがいしゃほんにん かつどう ささ じんざい 障害者本人の活動を支える人材の いくせい すす おな しょうがい 育成を進めるとともに、同じ障 害が ある人たちの交 流や こみゆにけーしょん きかい かくじゅう コミュニケーションの機会を拡 充 し、各団体活動を促進する取組を すいしん 推進します。 <ふりかえり> しょうがいしゃ じりつ しゃかいさんかどう そくしん 障害者の自立や社会参加等を促進す るための当事者による事業を17事 ぎょうじっし 業実施しました。	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		
しょうがいしゃほんにんおよび 家族による普 及・啓発活動の すいしん さいけい 推進【再掲】	しゃかいさんかすいしんせん たー ちゅうしん 社会参加推進センターが中心とな り、しょうがいしゃほんにん かぞくおよ かくだんたい 障害者本人、家族及び各団体と れんけい きょうどう しょうがいりかい そくしん む 連携・協働し、障害理解の促進に向 ふきゅう けいはつかつどう すいしん けた普及・啓発活動を推進します。 <ふりかえり> しゃかいさんかすいしんせん たーどう ぷ 社会参加推進センター等により、普 きゅうけいはつりーふれっと さくせいおよ けいはつ 及啓発リーフレットの作成及び啓発 こうぎどう じっし 講座等を実施しました。	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		



◆ 一般就労の促進と定着支援の充実

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しゅうろうしえんせんたー 就 労 支 援 セ ン タ ー (9か所)	<p>はたら 働くことを希望する しょうがい 障害のある方や すでに働いている方が安心して はたら つづ 働き続けるための支援を、企業や かんけいきかん 関係機関と連携して行います。</p> <p><振り返り> かんけいきかん 関係機関と連携しながら、しょうがいしゃ 障害者の きぎょうとう 企業等へのしゅうろう 就 労 ・ 定 着 支 援 を 推 進 するほか、へいせい 平成27年度からしゅうろうしえん 就 労 支 援 せんたー センターのあり方について、方向性を さだ 定めて具体的な取組の検討を行いま した。また、へいせい 平成28年度からぜんせんたー 全センタ ー 共通の支援員向け研修を実施し ています。</p> <p>(へいせい 平成28年度末の支援対象者数 (登 ろくしゃすう 録者数) : 4,316人)</p>	しえんたいしやう 支援対象 しゃすう 者数 (9か所計) 3,400人	しえんたいしやう 支援対象 しゃすう 者数 (9か所計) 4,300人 (見込み)	○	しえんたいしやう 支援対象 しゃすう 者数 (9か所計) 4,400人			
しゅうろうしえんきかん 就 労 支 援 機 関 の じんざいいくせい 人材育成【再掲】	<p>しゅうろうしえんきかんしよくいん 就 労 支 援 機 関 職 員 の 支 援 ス キ ル を こうじやう 向上させるため、じんざいいくせい 人材育成の仕組み づくりを検討します。</p> <p><振り返り> しゅうろうしえんせんたー 就 労 支 援 セ ン タ ー の あり方検討の中 で、じんざいいくせい 人材育成に関する次の内容に取り くみ 組むことを決めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> きそちしき 基礎知識・スキルの整理と学習の きかい 機会の検討 しょうがいしゆべつけんしゅう 障害種別研修や他機関と連携し た研修の実施 ほんしかいさい 本市開催の相談支援研修への参加 	けんとう 検討を踏ま えた研修 等の実施	じっし 実施	○	すいしん 推進			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
はたら 働きたい！あなた のシンポジウム	はたら しょうがいしゃ こよう すす きぎょう 働く 障害者や、雇用を進める企業 などの「生の声」を聴くことで、 しょうがいしゃこよう りかいそくしん けいはつ すす 障害者雇用の理解促進や啓発を進 めます。 <振り返り> 「働きたい！あなたのシンポジウ ム」を開催（年1回）し、当事者・御 家族等に対して就労啓発を行いま した。（平成27～28年度参加者数累 計：824人）	さんかしゃすう 参加者数 （累計） 600人	へいせい ねんど 平成29年度 さんかしゃすう 参加者数 （累計） 1,224人 （見込み）	○	さんかしゃすう 参加者数 （累計） 3,000人	
きぎょう ふくし 企業と福祉をつな ぐセミナー	しょうがいしゃこよう けんどう きぎょうとう 障害者雇用を検討する企業等を たいしょう ふくし しえんきかんとう 対象に、福祉の支援機関等をつなげ ることや雇用に関する制度の情報 提供を行います。 <振り返り> かながわけん たとし ごとう きぎょうむ 神奈川県や他都市と合同で企業向 けセミナーを実施しました。 平成27～28年度累計：185社	さんかきぎょうすう 参加企業数 （累計） 120社	へいせい ねんど 平成29年度 さんかきぎょうすう 参加企業数 （累計） 240社 （見込み）	○	さんかきぎょうすう 参加企業数 （累計） 240社	
しょうがいしゃこようじれい 障害者雇用事例の 紹介	しょうがいしゃこよう すく とりくみ おこな 障害者雇用で優れた取組を行う 企業等をデータベースにして市の WEBページ等で広く紹介します。 <振り返り> きぎょう だんたいなど ひありんぐ おこな 企業や団体等へのヒアリングを行 い、順次WEBページへの掲載を行 いました。また、神奈川県や国の機関 との情報共有を行いました。 しょうかい きぎょうすう るいけい しゃ へいせい 紹介企業数（累計）：76社（平成28 年度末）	しょうかいきぎょうすう 紹介企業数 （累計） 90社	へいせい ねんど 平成29年度 しょうかいきぎょうすう 紹介企業数 （累計） 90社 （見込み）	○	しょうかいきぎょうすう 紹介企業数 （累計） 150社	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
ちゅうしょうきぎょう 中小企業 への しょうがいしゃ こよう しえん 障害者雇用支援	し ない きぎょう たいはん を 占める 中 小 企 業 に対する 雇用啓発 に向けて 検討し ます。 < 振り返り > けいざいだんたいとう で む で まえこうぎ じっし 経済団体等 に出向き、出前講座を 実施 しました。 へいせい ねんど るいけい だんたい しゃ 平成27~28年度 累計：6 団体93社	けんとう ふ 検討を 踏ま えた 事業 の実施	へいせい 平成27~ 29年度 るいけい 累計 : 8 団体 120社 (見込み)	○	すいしん 推進	

ふくしてきしゅうろう いっぱんしゅうろう いこう
◆ 福祉的就 労から一般就 労への移行

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
ちいき 地域における 就 労 しえん ネットワーク 支援ネットワーク の構築	かんけいきかんどうし れんけい きょうりよくたいせい 関係機関同士の 連携・協 力 体制を こうちく することで、企業 就 労の 促進、 しゅうろうご ていちゃくしえんおよ せいかつしえん 就 労後の 定着支援及び生活支援 の じゅうじつ はか 充 実を 図ります。 < 振り返り > しゅうろうしえんせんたー - ちゅうしん とく 就 労支援センターを 中心として、特 べつしえんがっこう しゅうろういこうしえんじぎょうしよ 別支援学校 や 就 労移行支援事業 所 とう かくかんけいきかん れんけい すず 等、各関係機関と 連携を進めました。	かんけいきかん 関係機関 との 連携 ガイドライン の 策定等	じっし 実施	○	すいしん 推進	

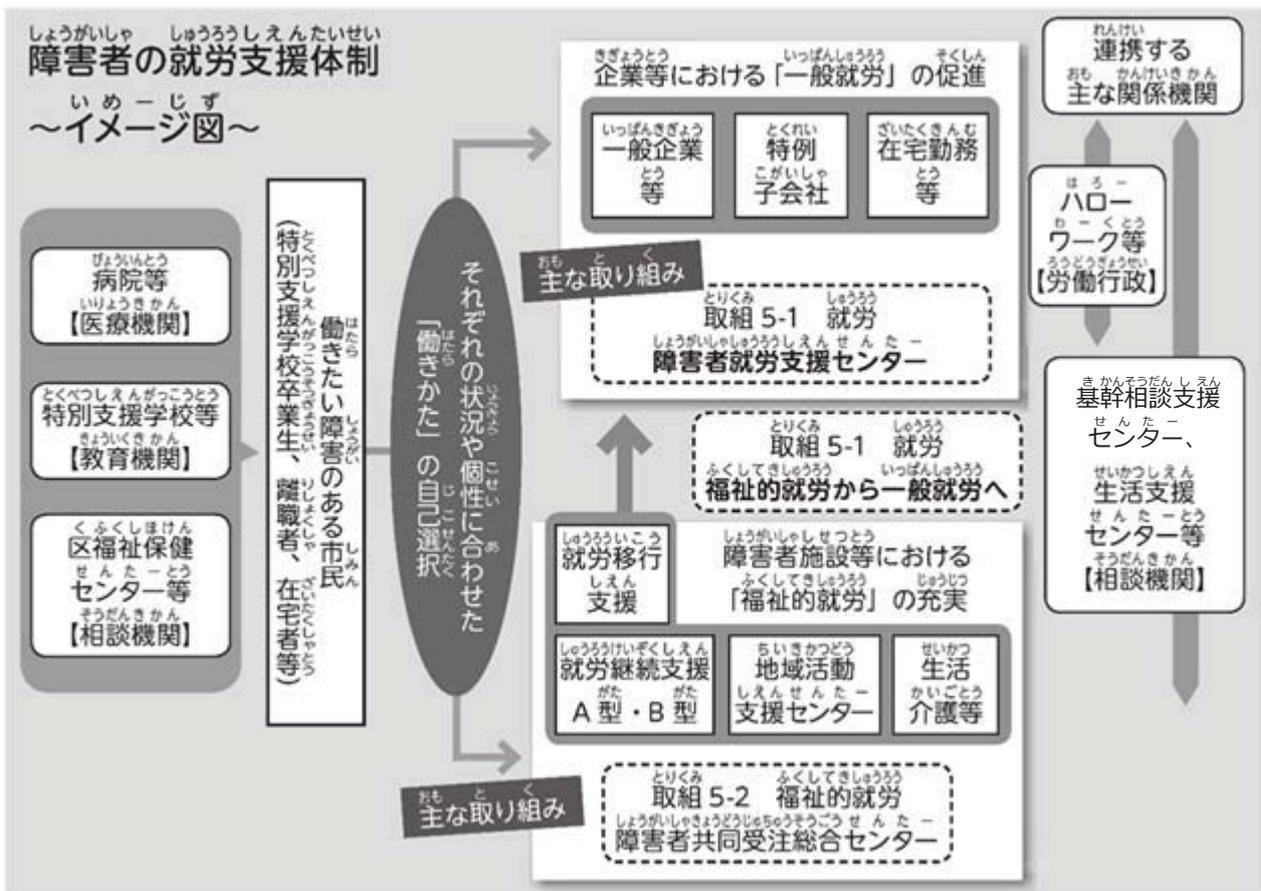
福 【目標】

平成 24 年度実績の福祉施設から一般就労への移行者数	160 人	平成 29 年度見込の福祉施設から一般就労への移行者数	360 人 【平成28年度実績】:457 人	平成 32 年度見込の福祉施設から一般就労への移行者数	781 人
平成 25 年度末時点での就労移行支援事業の利用者数	556 人	平成 29 年度末時点での就労移行支援事業の利用者数	898 人 【平成28年度実績】:950 人	平成 32 年度末時点での就労移行支援事業の利用者数	1,949 人
平成 25 年度実績の就労移行支援事業の利用者のうち就労移行率が3割以上の事業所の割合	36 %	平成 29 年度見込の就労移行支援事業の利用者のうち就労移行率が3割以上の事業所の割合	41 % 【平成28年度実績】:26 %	平成 32 年度見込の就労移行支援事業の利用者のうち就労移行率が3割以上の事業所の割合	41 %

福

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
【新規】 就労定着支援利用者数 (仮称)	—	—	—	くに じぎょうしょうさい しめ のち ちいき じつじょう 国が事業 詳細を示した後、地域の実情 どう もと せってい 等を基に設定します。		

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
しょうがいふくしき - びす 障害福祉サービス じぎょうしよとうしよくいんむ 事業所等職員向け の研修【再掲】	<p>じぎょうしよ 事業所の職員が、しょうがいしゃこよう おこな っている企業での「就業体験」など を通過して、しゅうろうしえんすきる こうじょう や、 しゅうろうむ いしきづ おこな 就労に向けた意識付けを行います。</p> <p><振り返り> きぎょう だんたい きょうりよく しな いじ 企業・団体の協力のもと、市内事 業所職員を対象に実施しました (毎年6月~7月)。</p> <p>へいせい ねんど きょうりよく きぎょうすう るい 平成27~28年度協力企業数(累 計) : 40社</p> <p>へいせい ねんど さんか にんずう るいけい 平成27~28年度参加人数(累計) : 92人</p>	さんか にんずう 参加人数 (累計) 90人	へいせい ねんど 平成29年度 さんか にんずう 参加人数 (累計) : 173人	、 きょうりよく きぎょう 協力企業 すう るいけい 数(累計) : 70社	○	さんか にんずう 参加人数 (累計) 380人		





◆作業の充実と工賃向上

事業名	事業内容	平成29年度				評価	平成32年度	
		目	目標	現	状		目	目標
よこはま 障害者 共同受注 総合センターの運営	<p>市内の障害者施設等の情報を集約するとともに、企業等からの作業受注における窓口及びコーディネート等を行います。</p> <p><振り返り> 平成27年度にセンターを開設しました。センターでは、市内障害者施設等の登録を進め、作業内容などの情報を集約し、WEBページで周知しました。また、工賃向上のため、企業訪問やパンフレットの改訂、研修や技術的指導を行いました。なお、工賃総額は増加したものの、加盟施設及び利用者の増により平均工賃は目標を下回る見込みです。</p>	加盟施設における「月額平均工賃」が10%以上上昇	平成29年度加盟施設における「月額平均工賃」の維持(見込み)	△	加盟施設における「月額平均工賃」が10%以上上昇			
優先調達推進のための庁内への啓発	<p>庁内LANや庁内報などを活用し、優先調達における区局等の優れた発注事例について広く周知・啓発を行います。</p> <p><振り返り> 毎年度、優先調達方針を策定し、優れた発注事例を「ハートオーダー通信」として庁内LANに掲載するとともに(平成27~28年度 累計12号発行)、庁内会議等で事例を説明し、発注を促進しました。</p>	すすん 推進	じっし 実施	○	すすん 推進			



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
たいしょうじぎょうしょ 対象事業所の拡大に向けた検討	とくれいこがいしゃ じゅうどしょうがいしゃ たすうこようじ 特例子会社、重度障害者多数雇用事 ぎょうしょおよ ざいたくしゅうぎょうしょうがいしゃとう ほりつ 業所及び在宅就業障害者等、法律 たいしょうはん い きぎょうとう たいしょう の対象範囲である企業等への対象 かくだい む けんとう おこな 拡大に向けて検討を行います。 <振り返り> へいせい ねんど けんとう おこな ねんど 平成28年度から検討を行い、29年度 じゅうどしょうがいしゃ たすうこようじぎょうしょおよ に重度障害者多数雇用事業所及び ざいたくしゅうぎょう しえんだんたい よこはまし 在宅就業支援団体、横浜市ふれあい しょっぷをたいしょう ふく よこはまししょう ショップを対象に含めた「横浜市障 がいしゃ しえんしせつとう じゅん もの にんてい 害者支援施設等に準ずる者の認定に ようこう さくてい じぎょうしょ かかる要綱」を策定し、10事業所を にんてい 認定しました。	かだい けん 課題の検 しょう ふ 証を踏ま えた検討 けんとう	じっし 実施	○	すいしん 推進			
しゃかいさんか 社会参加する機会 の確保	きぎょう はたら しせつ にちちゅうかよ 企業で働くことや、施設に日中通 ことがこんなん ざいたく かた しゃかいさんか ことが困難な在宅の方でも、社会参加 きかい かくほ する機会を確保できるような仕組み けんとう を検討します。 <振り返り> しかくしょうがいしゃ かたとう しゃかいさんか てれ 視覚障害者の方等の社会参加やテレ わーくについて じょうほうしゅうしゅう いけんこう ワークについて情報収集・意見交 かん おこな 換を行いました。	—	—	○	—			

◆ 日中活動場所の拡充

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
にっちゅうかつどうばしよ 日中活動場所の やくわり めいかくかおよ 役割の明確化及び せっちそくしん 設置促進	げんざい にっちゅうかつどう にかか さまざま しゃ 現在の日中活動に関わる、様々な社 かいしげん やくわり いちづ めいかく 会資源の役割や位置付けを明確に し、しょうがいしゃほんにん きぼう かつどう ばしよ し、障害者本人が希望する活動場所 をせんたく ほうほう いりょうてきけ あとうせん を選択できる方法や医療的ケア等専 もんてき しえん ひつよう かた しえんほうほう 門的な支援が必要な方への支援方法 について、けんとう けんとう あわ とく ついて、検討します。併せて、特 べつ しえんがっこう そつぎょうせいとう い さき 別支援学校の卒業生等の行き先とな るにっちゅうかつどう ばしよ せっち そくしん る日中活動場所の設置を促進しま す。 <ふりかえ 振り返り> にっちゅう さーびす にかか かくしせつ やく 日中のサービスに関わる各施設の役 わり かんけいしゃ など まじ 割などについて、関係者などを交えた けんとう かだい きょうゆう か おこな 検討や、課題などの共有化を行いま した。	—	—	—	△	—		

福【見込み】

	へいせい ねん 平成27年度	へいせい ねん 平成28年度	へいせい ねん 平成29年度	へいせい ねん 平成30年度	へいせい ねん 平成31年度	へいせい ねん 平成32年度
せいにかつかいご 生活介護	7,150人分	7,759人分	8,420人分			
	実績: 6,956人分	実績: 7,147人分	7,306人分 (実績見込み)	7,783人分	8,080人分	8,417人分
	125,140人日	135,795人日	147,357人日			
	実績: 116,606人日	実績: 118,489人日	125,438人日 (実績見込み)	127,637人日	131,598人日	136,283人日



福【見込み】

	へいせい ねん ど 平成27年度		へいせい ねん ど 平成28年度		へいせい ねん ど 平成29年度		へいせい ねん ど 平成30年度		へいせい ねん ど 平成31年度		へいせい ねん ど 平成32年度	
じりつくんれん (機能訓練)	26	人分	26	人分	26	人分						
	実績:	29	実績:	35	実績見込み:	35	30	人分	30	人分	30	人分
	422	人日	422	人日	422	人日						
	実績:	497	実績:	603	実績見込み:	596	511	人日	511	人日	511	人日
じりつくんれん (生活訓練)	191	人分	193	人分	194	人分						
	実績:	169	実績:	192	実績見込み:	208	207	人分	222	人分	233	人分
	2,801	人日	2,829	人日	2,857	人日						
	実績:	2,784	実績:	3,015	実績見込み:	3,364	3,402	人日	3,638	人日	3,874	人日
しゅうろういこう 支援事業	657	人分	807	人分	898	人分						
	実績:	830	実績:	950	実績見込み:	1,036	1,376	人分	1,628	人分	1,949	人分
	10,911	人日	13,683	人日	15,252	人日						
	実績:	13,988	実績:	16,116	実績見込み:	18,176	24,241	人日	29,130	人日	35,486	人日
しゅうろうけいぞくし 支援事業 (A型)	670	人分	891	人分	1,141	人分						
	実績:	563	実績:	593	実績見込み:	664	698	人分	750	人分	812	人分
	13,422	人日	17,851	人日	22,849	人日						
	実績:	11,294	実績:	11,886	実績見込み:	13,259	13,994	人日	15,031	人日	16,255	人日
しゅうろうけいぞくし 支援事業 (B型)	2,964	人分	3,507	人分	4,150	人分						
	実績:	2,846	実績:	3,250	実績見込み:	3,570	4,248	人分	4,855	人分	5,551	人分
	53,365	人日	61,501	人日	72,747	人日						
	実績:	49,612	実績:	55,979	実績見込み:	63,011	72,506	人日	82,283	人日	93,555	人日



福【見込み】

	へいせい ねん ど 平成27年度	へいせい ねん ど 平成28年度	へいせい ねん ど 平成29年度	へいせい ねん ど 平成30年度	へいせい ねん ど 平成31年度	へいせい ねん ど 平成32年度
ちいきかつどうし 地域活動支 援センター	189か所	185か所	181か所	154か所	154か所	154か所
	実績: 170か所	実績: 158か所	158か所 (実績見込み)			
さぎょうしょがた 作業所型 (※)	3,892人	3,800人	3,707人	3,411人	3,411人	3,411人
	実績: 3,755人	実績: 3,462人	2,709人 (実績見込み)			
ちゅうとしょうがい 中途障害 者地域活動 センター	18か所	18か所	18か所	18か所	18か所	18か所
	実績: 18か所	実績: 18か所	18か所 (実績見込み)			
	529人	529人	529人	529人	529人	529人
	実績: 527人	実績: 531人	529人 (実績見込み)			

※ 地域活動支援センター作業所型については、必要数を確保するとともに、障害福祉サービスへの事業移行を進めていきます。

※ この表における単位の考え方は次のとおりです。

- ・「人分」「回」…月間の利用人数・回数
- ・「人日」…「月間の利用人数」×「一人一か月あたりの平均利用日数」



いどうしえん じゅうじつ しゃかいさんか そくしん ◆移動支援の充実による社会参加の促進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
いどうじょうほうせんたー 移動情報センター うんえいとうじぎょう 運営等事業の推進 ②	いどうしえん かん じょうほう しゅうやく 移動支援に関する情報を集約し、ひとりひとりにあった適切な情報を提供することや、移動支援を支える人材の発掘・育成を行う移動情報センターを全区で開設し、市内のどの地域でも移動支援の仕組みを効果的に利用できるようにします。 <振り返り> いどうじょうほうせんたーの窓口を平成28年度までに15区に設置し、運営を行いました。平成29年度に新たに3区で開設することで、全区で展開する予定です。	そうだんけんすう 相談件数 2,500件		へいせい ねんど 平成29年度 そうだんけんすう 相談件数 2,500件 (見込み)		○	そうだんけんすう 相談件数 3,600件	
がいどへるばーとう ガイドヘルパー等 けんしゅうじゅこうりょう 研修受講料助成 【再掲】 ②	がいどへるばーとう しかくしゅとく ガイドヘルパー等の資格取得のための研修受講料の一部を助成し、人材確保を図ります。 <振り返り> へいせい ねんど 平成28年度助成人数 : 210人 そうじょせいがく 総助成額 : 3,759,000円 うちわけ ちてきが いどへるばー けん ぜん 内訳: 知的ガイドヘルパー39件、全身性ガイドヘルパー44件、同行援護 いっばんかてい けん こうどうえんご けん 一般課程100件、行動援護31件	すいしん 推進		へいせい ねんど 平成29年度 じょせいにんずう 助成人数 : 250人 (見込み) 、 そうじょせいがく 総助成額 : 5,000,000円 (見込み)		○	すいしん 推進	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
がいどへるばー ガイドヘルパー すきるあつぷけんしゅう スキルアップ研修 【再掲】 ㉞	より質の高いサービスが提供できる よう、移動支援事業の従業者を 対象に研修を実施します。 <振り返り> 平成28年度はサービス提供責任者 向けと従業者向けに分けて開催し ました。 サービス提供責任者向け研修の受 講者数：132人（全4回） 従業者向け研修の受講者数：250 人（全6回）	すいしん 推進	へいせい ねんど 平成29年度 サービス提供 責任者 向け研修 : 240人 (見込み) 、 従業者向 け研修 : 480人 (見込み)	○	すいしん 推進	
こうりつてき しゃりょうりよう 効率的な車両利用 の仕組みの検討 ㉞	つうじょう しゃかいさんか いっそうすす 通所等の社会参加が一層進められる よう、乗合形式等による効率的な 車両利用の仕組みを検討します。 <振り返り> カーシェアリング(乗合送迎)の仕組 みについて、検討委員会を設置し、平 成25年から平成27年にかけて検討を おこな 行い、報告書を作成しました。また、 えりあ げんてい もでる そうこうとう じっ エリアを限定したモデル走行等も実 施しました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	



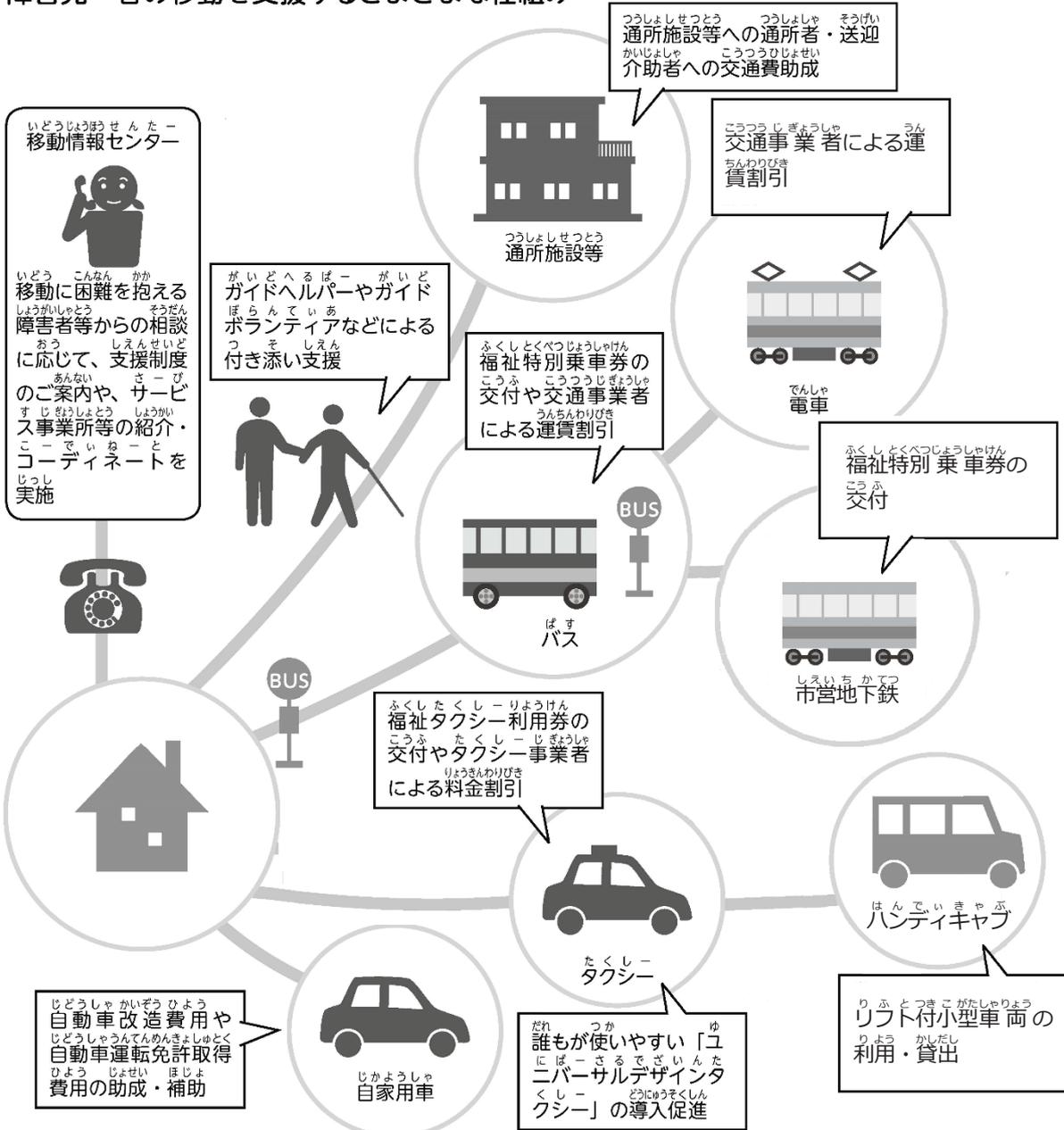
じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねん ど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねん ど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
なんびょうかんじゃがいしゅつ 難病患者外出 しえん さーびす 支援サービス事業	<p>いっばん こうつうきかん りよう がいしゅつ 一般の交通機関を利用しての外出に こんなん ともな くるま りようしゃとう ふくし 困難を伴う、車いす利用者等に福祉 しやりよう さーびす ていきよう 車両によるサービスを提供します。</p> <p><振り返り></p> <p>へいせい ねん どのべりようかいすう 平成27年度延利用回数:1,119回</p> <p>へいせい ねん どのべりようかいすう 平成28年度延利用回数:946回</p>		すいしん 推進	へいせい ねん ど 平成29年度 のべりようかいすう 延利用回数 :850回 (見込み)	○	すいしん 推進		
ざいたくじゅうしょうかんじゃ 在宅重症患者 がいしゅつしえんじぎょう 外出支援事業	<p>くるま いどう こんなん すとれっ 車いすによる移動が困難でストレッ チャー対応車を使用せざるを得ない なんびょうかんじゃ つういんとう さい しよてい かんじゃ 難病患者が、通院等の際、所定の患者 とうはんそうようじどうしゃ りよう ばあい 等搬送用自動車を利用した場合に、そ の移送費の一部を助成します。</p> <p><振り返り></p> <p>へいせい ねん どのべりようかいすう 平成27年度延利用回数：499回</p> <p>へいせい ねん どのべりようかいすう 平成28年度延利用回数：540回</p>		すいしん 推進	へいせい ねん ど 平成29年度 のべりようかいすう 延利用回数 :580回 (見込み)	○	すいしん 推進		
ふくしゆうしょううんそうじぎょう 福祉有償運送事業	<p>いどう かいじょ ひつよう しんたいしょうがいしゃとう 移動に介助が必要な身体障害者等を たいしょう どうろく えぬびーおーほうじんどう 対象に、登録されたNPO法人等に より、じかようじどうしゃ しよう ゆうしょう 家用自動車を使用して有償 ゆそう さーびす そくしん で輸送するサービスを促進します。</p> <p><振り返り></p> <p>ふくしゆうしょううんそう おこな えぬびーおーほうじんどう 福祉有償運送を行うNPO法人等 の登録等や福祉有償運送の適正な じっしとう きようぎ ふくしゆうしょう 実施等について協議する、福祉有償 いどう さーびす うえいきようぎかい かいさい 移動サービス運営協議会を開催しま した。</p>		すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進		



【見込み】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
移動支援事業	668,820時間分	688,978時間分	709,744時間分			
業	659,335時間分	682,557時間分	703,034時間分 (実績見込み)	724,125時間分	745,849時間分	768,224時間分
(移動介						
護・通学通	4,546人分	4,819人分	5,109人分			
所支援)	5,105人分	5,401人分	5,671人分 (実績見込み)	5,898人分	6,134人分	6,379人分

障害児・者の移動を支援するさまざまな仕組み





とりくみ ぶんか すぽーつ れくりえーしょん
取組 5-5 文化・スポーツ・レクリエーション

ぶんか げいじゆつかつどう すいしん
◆文化・芸術活動の推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
さんかがたあーといべ 参加型アートイベ んとかいさい ントの開催	<p>市内のさまざまな会場を活用して、参加型のアートイベントを検討・開催します。3年に一度開催するパラトリエンナーレへの基盤づくりとして、障害者の芸術活動の環境づくりを検討します。</p> <p><振り返り></p> <p>障害のある方のアート活動を支援する人材を育成することを目的とし、文化事業ボランティア等の研修会及び各種ワークショップを実施しました。</p>	すいしん 推進		じっし 実施	○	すいしん 推進		
よこはま ぱらと りえんなーれ の かいさい 開催	<p>障害者の芸術活動を促進することや、障害者と芸術家の協働による作品作りを行うことなどにより、障害者自身の一層の自立につなげていくため、現代アート国際展である「ヨコハマ・パラトリエンナーレ」を開催します。</p> <p><振り返り></p> <p>ヨコハマ・ヒューマン & テクノランドにおいてパラトリエンナーレ2014および横浜ランデヴープロジェクトで継続して実施している障害者施設とのアート活動について紹介しました。</p>	かいさい 開催		かいさい 開催	○	かいさい 開催		



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
こうしゅ ず が こうさく 4校種 図画工作・ びじゅつ しやうさくひんてん 美術・書道作品展 とくべつしえんきやういくぶもん 特別支援教育部門 ~つたえたい ぼく のおもい わたしの きもち~の開催 【再掲】	こうしゅ しやう ちゅう こう とくべつしえん 4校種（小・中・高・特別支援） の幼児児童生徒の作品を一堂に集 め、市民公開の作品展を開催するこ とで、障害のある子どもの文化活動 に関する普及・啓発を図ります。 <ふりかえり> こうしゅ しやう ちゅう こう とくべつしえん 4校種（小・中・高・特別支援）の 幼児児童生徒の作品を一堂に集め、 市民公開の作品展を開催し、毎年1万 人を超える市民が来場しています。 また、平成28年度にはNPO法人の 後援を受け、展示するパネルを新し くすることができました。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	
しょうがいしゃ げいじゅつかつ 障害者の芸術活 どうしえんねつとわー 動支援ネットワ ークの構築	しょうがいしゃ びじゅつかつどう ささ じんざい だん 障害者の美術活動を支える人材、団 体等の関係機関によるネットワーク 化を図り、芸術活動の情報収集、 発信を行う拠点を設置します。 <ふりかえり> へいせい ねんど から じぎょうか 平成29年度から事業化するため、予 算を配分しました。	こうちく 構築	こうちく 構築	○	すいしん 推進	



すぽーつかつどう すいしん
◆スポーツ活動の推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度				ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標	げん 現	じょう 状		もく 目	ひょう 標
ばらとらいあすろん パラトライアスロンの強化	よこはまらぼーる 横浜ラポールにおいて、パラトライアスロン競技の普及・強化に向けたとりくみすいしん 取組を推進します。 <振り返り> ぐりーんとらいあすろん せかいとらいあすろんしりーずよこはまたいかい しーさい グリーントライアスロン、世界トライアスロンシリーズ横浜大会、シーサイドトライアスロンに協力しています。また、イグジットハンドラーの実技研修を横浜ラポールのプールで実施しました。	すいしん 推進		じっし 実施		○	すいしん 推進	
とくべつしえんがっこう 特別支援学校におけるスポーツ選手育成強化事業	おりんびくく・ぱらりんびくくとうきょう オリンピック・パラリンピック東京大会開催を契機として、特別支援学校で行うスポーツで世界を目指す児童生徒を支援することにより、障害のある子どもたちの自立と社会参加につなげます。 <振り返り> とくべつしえんがっこう じどうせいと たつきゅう すい 特別支援学校の児童生徒が卓球、水泳、陸上競技で世界的な大会に出場するにあたり、奨励金を交付したほか、障害者スポーツの普及啓発のためにゴールボールやボッチャの備品を特別支援学校に整備しました。	すいしん 推進		じっし 実施		○	すいしん 推進	

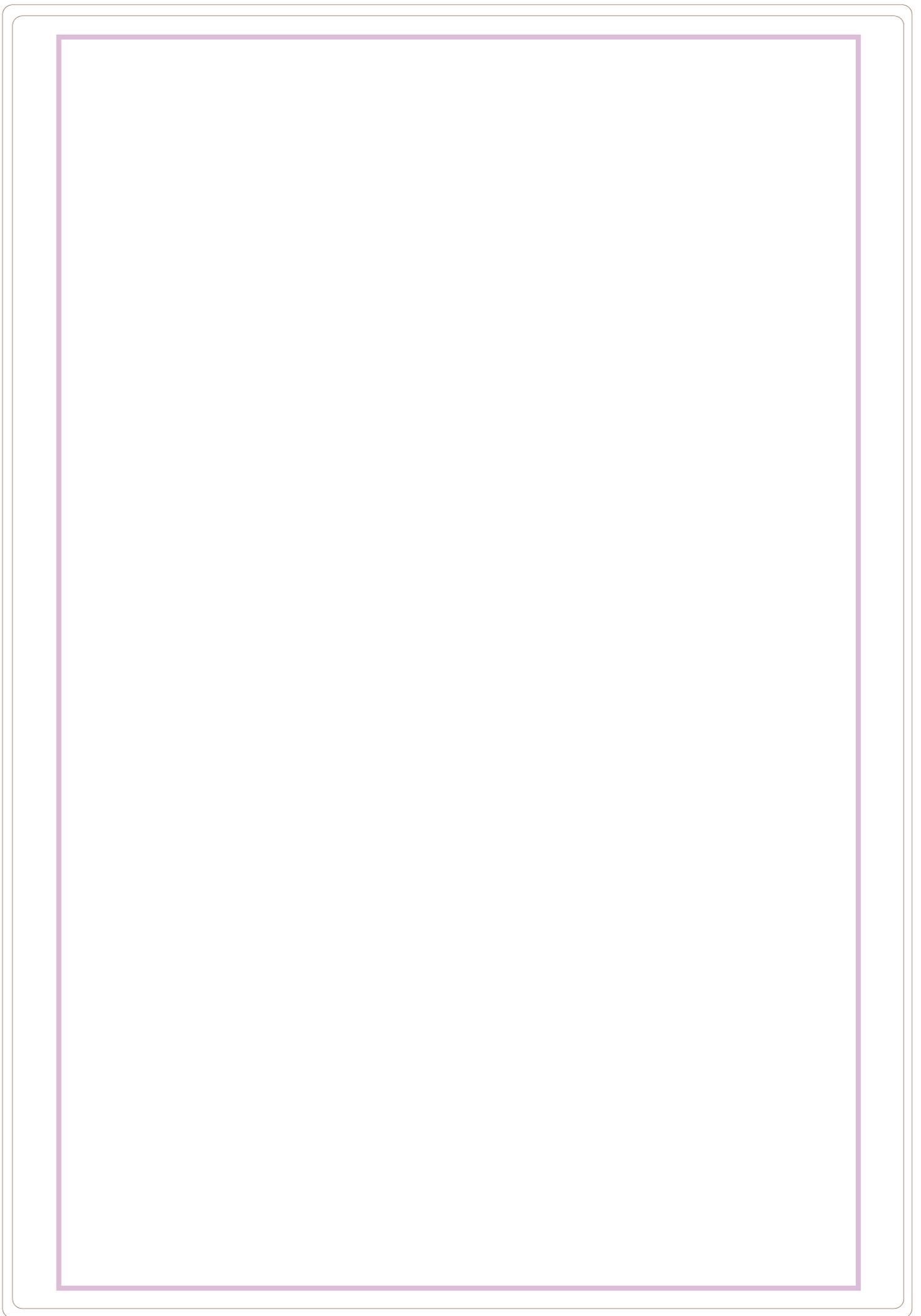


れくりえーしょんかつどう すいしん
◆レクリエーション活動の推進

じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		もく 目	ひょう 標
しょうがいしゃ すぽーつ 障害者スポーツの けいはつ 啓発	たとし とりくみ じょうほうしゅうしゅう 他都市における取組の情報収集 と、具体的な啓発方法の検討を行います。 <振り返り> たとしとりくみ じょうほうしゅうしゅう すす 他都市取組の情報収集を進めると 同時に、しょうがいしゃ すぽーつたいけんかい し 障害者スポーツ体験会を市 ないこうりつがっこう ちゅうしん かいさい 内公立学校を中心に開催しました。 また、よこはま たらそん きふきん かつよう 横浜マラソンの寄付金を活用 し、りお ぱらりん びっく しゅつじょうせんしゅ リオパラリンピック出場選手へ のじょせいきん こうふ や、りお ぱらりん びっ 助成金の交付や、リオパラリンピッ クのさつえい おこな しゃしんか しゃしんてん 撮影を行った写真家の写真展を かいさい おりん びっく ぱらりん びっ 開催し、オリンピック・パラリンピッ くとうきょうたいかい む けいはつかつどう と 東京大会に向けた啓発活動にも取 り組みました。	けいはつほうほう 啓発方法の けんとう 検討	じっし 実施	○	すいしん 推進	



じぎょうめい 事業名	じぎょうないよう 事業内容	へいせい ねんど 平成29年度		ひょうか 評価	へいせい ねんど 平成32年度	
		もく 目	ひょう 標		げん 現	じょう 状
みちか ちいき 身近な地域におけ る障害者スポーツ の推進	みちか ちいき すぽーつ せんたー 身近な地域にあるスポーツセンター とう かつよう しょうがいしゃ すぽーつ 等を活用して、障害者スポーツにい つでもとりくむことができるよう、 ちいきじんざい いくせい すす しょうがいしゃ すぽ 地域人材の育成を進め、障害者スポ ーつ活動の推進を図ります。 ＜ふりかえ＞ ちゅうとしょうがいしゃ ちいきかつどう せんたー たいいく 中途障害者地域活動センター、体育 きょうかいとう れんけい ネットワーク こうちく 協会等と連携しネットワークを構築 してきた地域の活動を、引き続き支援 しています。さらに、いそごく こうなんく 磯子区と港南区 あら ネットワークの構築に取り 組んでいます。また、しょうがいしゃ すぽー つの周知活動、スポーツボランティ あようせいこうざ しょきゅうしょうがいしゃ すぽーつ ア養成講座や初級障害者スポーツ しどういけんしゅうかいとう じっし とお 指導員研修会等の実施を通して、支 えんしゃ しどうしゃ じんざいいくせい すす 援者・指導者の人材育成を進めていま す。	すいしん 推進	じっし 実施	○	すいしん 推進	



よこはまし かくしょうがいしやてちやうとうとうけい すいひ
横浜市の各障害者手帳等統計の推移

よこはまし しょうがいしやてちやうしよじしやすう
(1) 横浜市の障害者手帳所持者数について

よこはましはつこう かくしょうがいしやてちやう しんたいしょうがいしやてちやう あい てちやう りやういくてちやう せいしんしょうがい
 横浜市発行の各障害者手帳（身体障害者手帳・愛の手帳（療育手帳）・精神障害
 者保健福祉手帳）の平成29年3月末時点での所持者数の合計は、約16万人（横浜市全
 体人口比で4.28%）となっています。

ひやう 表1によると、手帳所持者数は、24年の約13万9千人から、現在までに、約2万1千
 人増加し（増加率約12.9%）、所持者数が伸びていることが分かります。

また、表2からわかるように、障害者手帳所持者数の増加率については、ここ数年
 2%から4%の間で推移しており、横浜市人口の増加率と比べても大きいことか
 ら、障害者手帳所持者の割合が増えてきています。今後も障害者手帳所持者数の割合
 は増えていくことが推測されます。

ひやう 表1 よこはましじんこう しょうがいしやてちやうしよじしやすう ひかく
 横浜市人口と障害者手帳所持者数の比較

（3月末時点、ただし、横浜市人口のみ4月1日時点。以下同様）（人）

	24年	25年	26年	27年	28年	29年
横浜市人口	3,688,624	3,693,788	3,702,093	3,712,170	3,725,042	3,728,124
身体障害者	94,291	96,114	98,706	99,120	99,199	99,356
知的障害者	21,864	23,005	24,171	25,447	26,712	27,958
精神障害者	22,785	24,538	26,475	28,285	30,225	32,249
手帳所持者全体	138,940	143,657	149,352	152,852	156,136	159,563
横浜市人口における障害者 手帳所持者数割合	3.77%	3.89%	4.03%	4.12%	4.19%	4.28%

ひやう 表2 よこはまし じんこう しょうがいしやてちやう しよじしや すう ぞうかすう ひかく
 横浜市人口と障害者手帳所持者数の増加数の比較

（人）

	24～25年	25～26年	26～27年	27～28年	28～29年
横浜市人口増加数	5,164	8,305	10,077	12,872	3,082
（増加率）	(0.14%)	(0.22%)	(0.27%)	(0.35%)	(0.08%)
手帳所持者の増加数	4,717	5,695	3,500	3,284	3,427
（増加率）	(3.39%)	(3.96%)	(2.34%)	(2.15%)	(2.19%)

図 1 市人口と手帳所持者の増加数

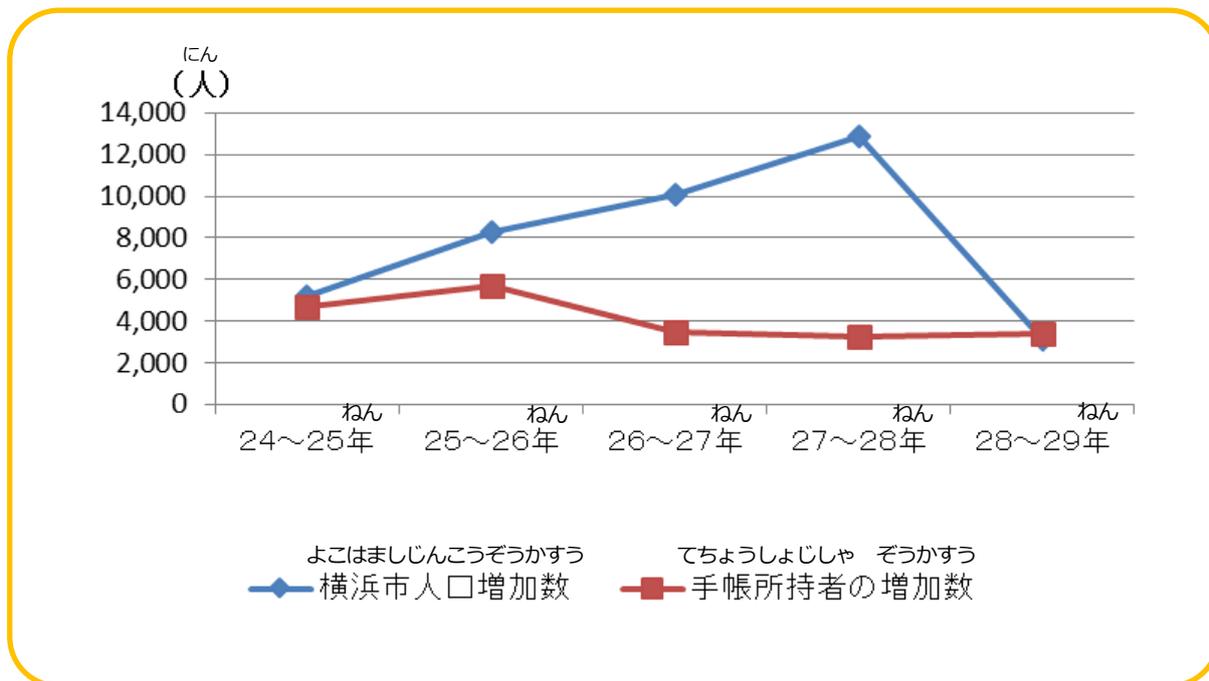
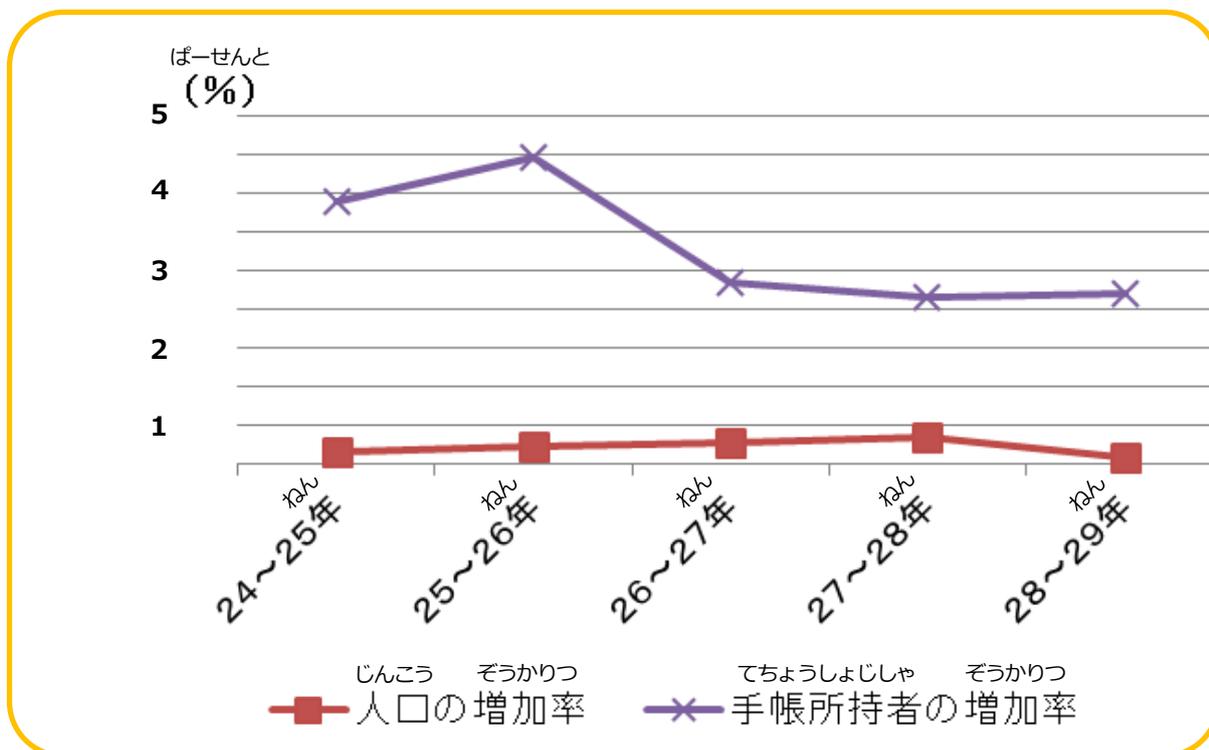


図 2 市人口と手帳所持者の増加率の推移



(2) 障害別の状況

ア 身体障害者手帳

表 3 によると、手帳所持者数は、肢体不自由が最も多く、次いで、内部障害となっています。

また、表 4 からわかるように、手帳所持者数は、18歳未満の人数が横ばい、18歳から65歳未満の人数が減少しているのに対して、65歳以上の人数は、年々増加しています。

表 3 身体障害者手帳 障害状況 別推移

各年 3 月末時点 (人)

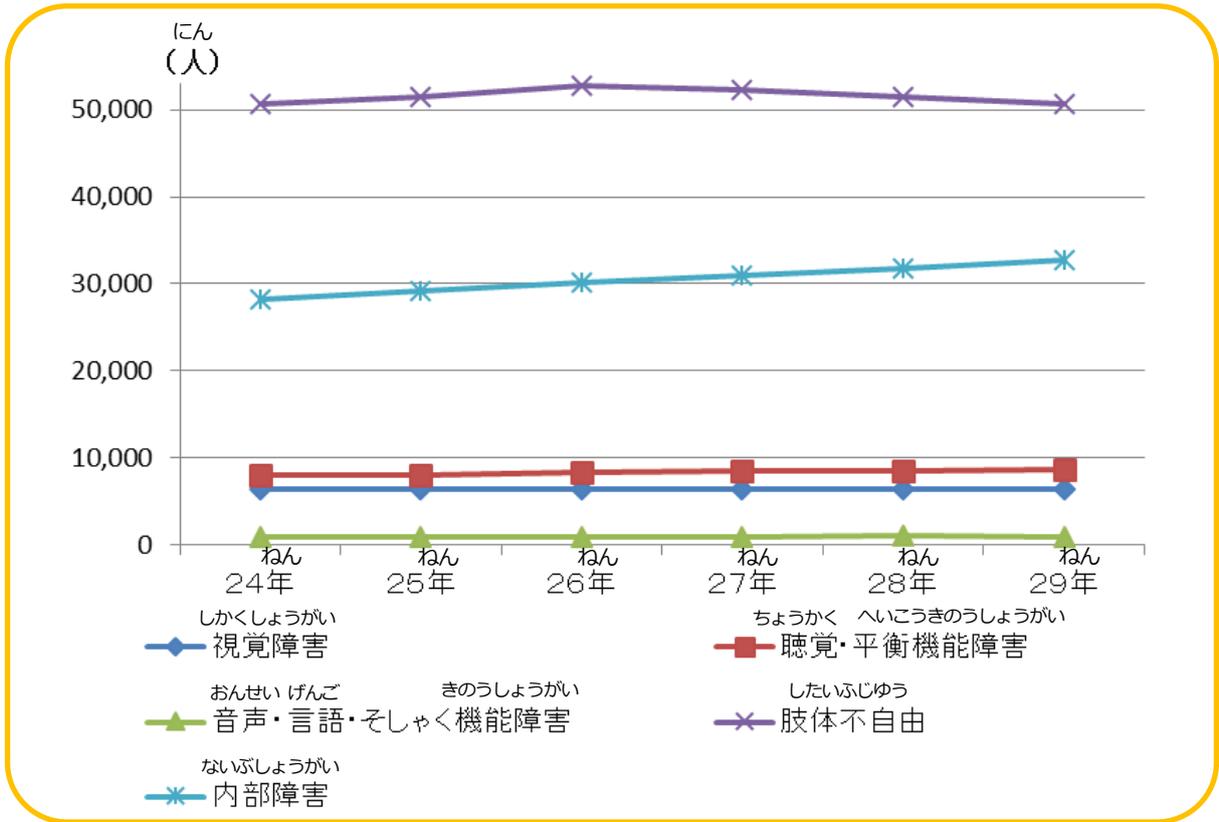
	24年	25年	26年	27年	28年	29年
視覚障害	6,400	6,441	6,435	6,447	6,397	6,370
聴覚・平衡機能障害	7,987	8,083	8,321	8,452	8,585	8,643
音声・言語・そしゃく機能障害	946	957	964	982	993	979
肢体不自由	50,706	51,519	52,813	52,284	51,420	50,669
内部障害	28,252	29,114	30,173	30,955	31,804	32,695
計	94,291	96,114	98,706	99,120	99,199	99,356

表 4 身体障害者手帳所持者数 年齢別推移

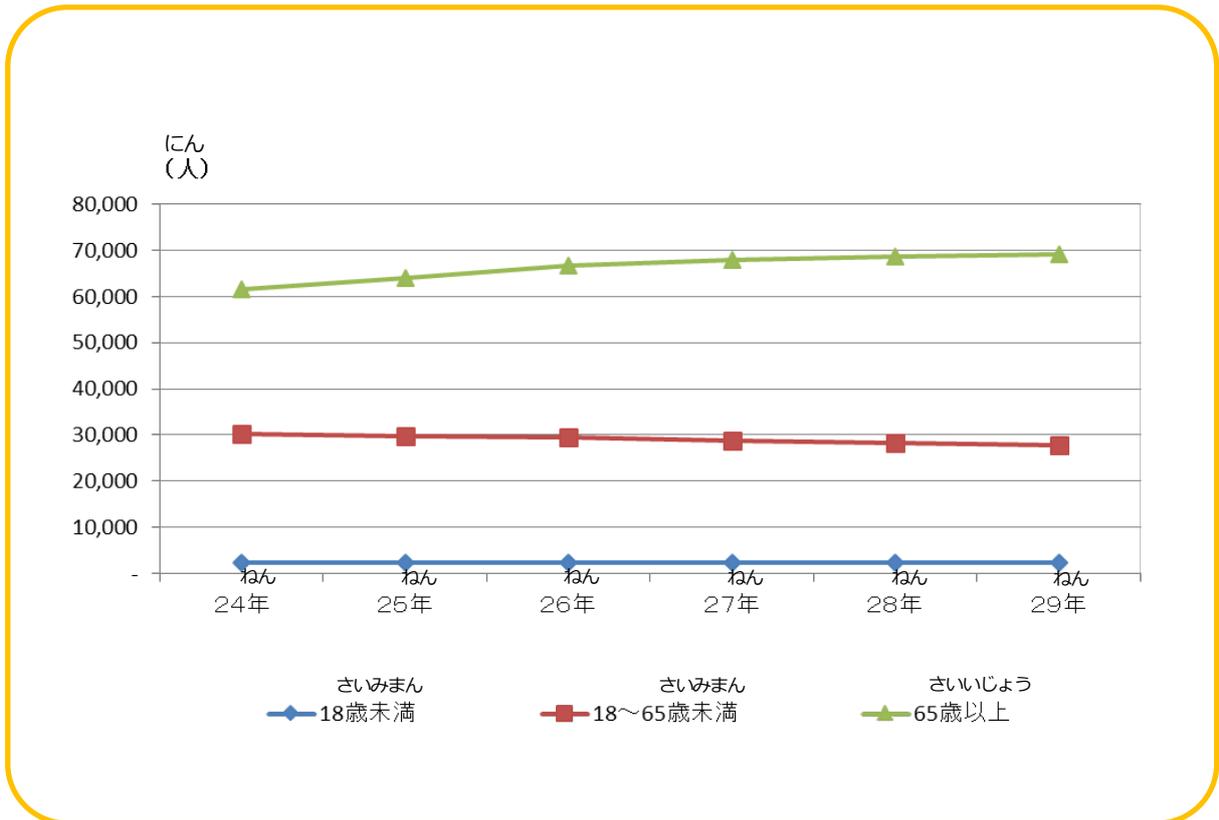
各年度 3 月末時点 (人)

	24年	25年	26年	27年	28年	29年
18歳未満	2,423	2,425	2,469	2,426	2,428	2,397
(下段：全体に占める割合)	(2.6%)	(2.5%)	(2.5%)	(2.4%)	(2.4%)	(2.4%)
18～65歳未満	30,332	29,702	29,509	28,823	28,193	27,903
(下段：全体に占める割合)	(32.2%)	(30.9%)	(29.9%)	(29.1%)	(28.4%)	(28.1%)
65歳以上	61,536	63,987	66,728	67,871	68,578	69,056
(下段：全体に占める割合)	(65.3%)	(66.6%)	(67.6%)	(68.5%)	(69.1%)	(69.5%)
計	94,291	96,114	98,706	99,120	99,199	99,356

す 3 しんたいしょうがいしゃ しょうがいじょうきょうべつすい
図 3 身体障害者 障害 状況別推移



す 4 しんたいしょうがいしゃ ねんれいべつすい
図 4 身体障害者 年齢別推移



イ 愛の手帳(療育手帳)

表 5によると、29年3月末時点では、24年と比べ、6千人以上増えています。中でも、B 2の手帳を所持している方が、約4千人と、全体の増加数の約6割5分を占めています。

また、表 6からわかるように、全体の所持者数における各年齢の所持者数の割合は、この6年間を通して、ほぼ横ばいとなっています。

表 5 愛の手帳 障害程度別推移

各年3月末時点(人)

	24年	25年	26年	27年	28年	29年
A 1	4,502	4,629	4,775	4,908	4,995	5,087
A 2	4,487	4,617	4,706	4,799	4,923	5,040
B 1	5,004	5,164	5,366	5,646	5,843	6,009
B 2	7,871	8,595	9,324	10,094	10,951	11,822
計	21,864	23,005	24,171	25,447	26,712	27,958

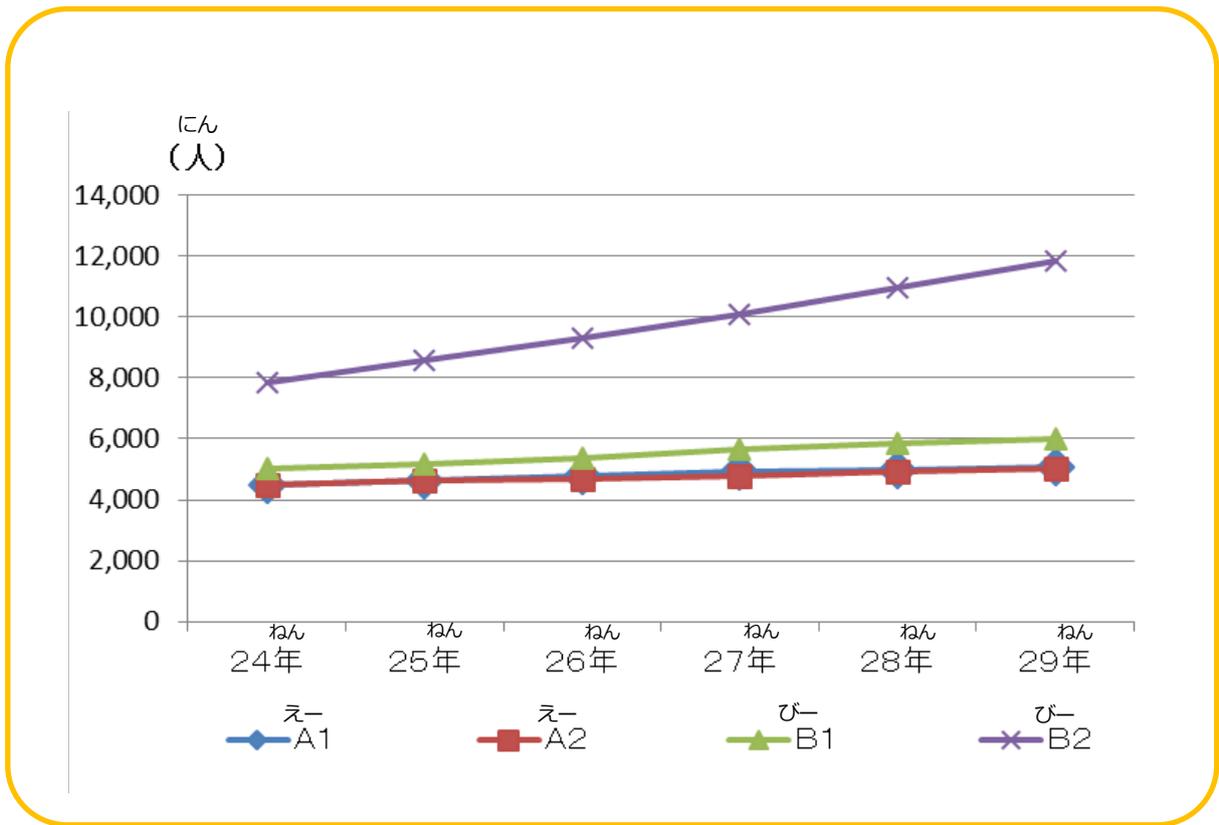
※参考 A 1…IQ 20以下、A 2…IQ 21～35、B1…IQ36～50、B2…IQ51～75

表 6 愛の手帳所持者数の年齢別推移

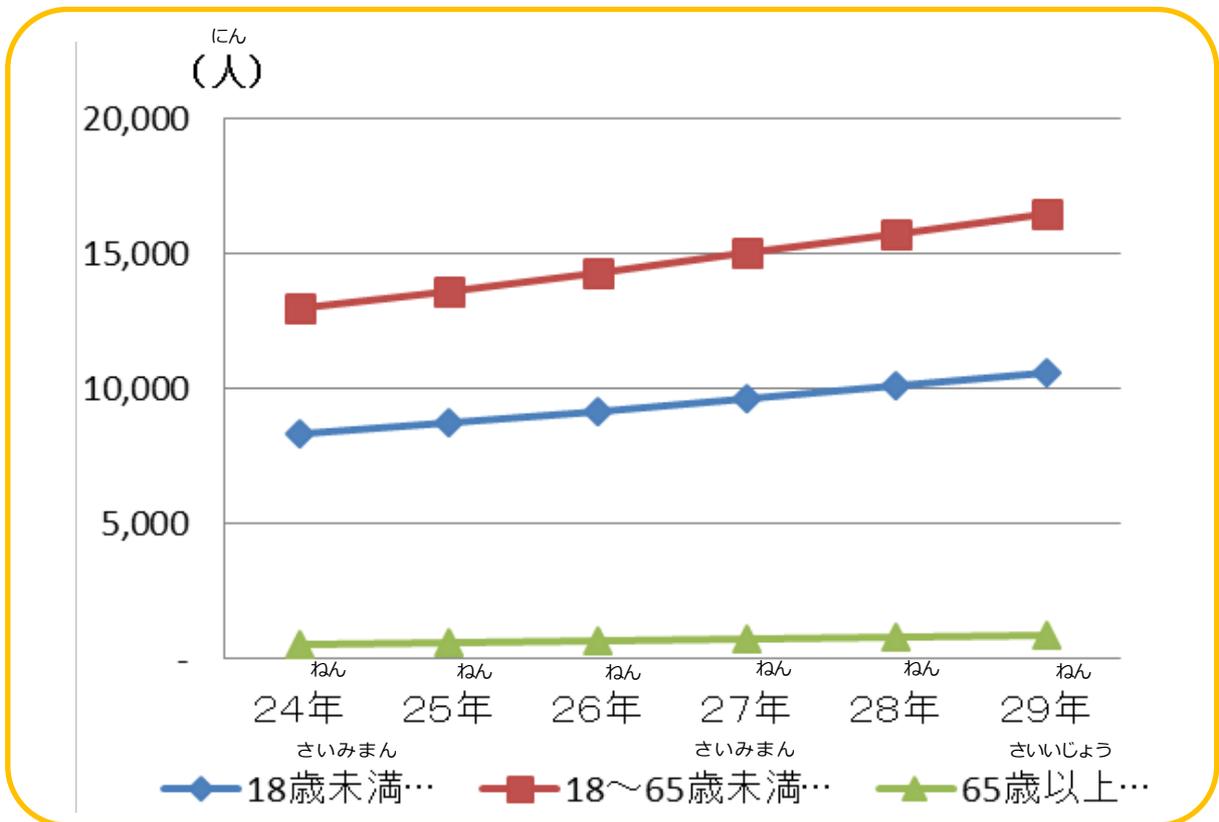
各年3月末時点(人)

	24年	25年	26年	27年	28年	29年
18歳未満 (下段：全体に占める割合)	8,315 (38.0%)	8,761 (38.1%)	9,172 (37.9%)	9,646 (37.9%)	10,141 (38.0%)	10,612 (38.0%)
18～65歳未満 (下段：全体に占める割合)	13,010 (59.5%)	13,636 (59.3%)	14,312 (59.2%)	15,058 (59.2%)	15,746 (58.9%)	16,485 (59.0%)
65歳以上 (下段：全体に占める割合)	539 (2.5%)	608 (2.6%)	687 (2.8%)	743 (2.9%)	825 (3.1%)	861 (3.1%)
計	21,864	23,005	24,171	25,447	26,712	27,958

ず 図 5 あい てちょう りょういくてちょう
愛の手帳（療育手帳）



ず 図 6 あい てちょう りょういくてちょう
愛の手帳（療育手帳）



せいしんしょうがいしゃほけんふくしてちょう
ウ 精神障害者保健福祉手帳

しんたいしょうがい ちてきしょうがい せいしんしょうがい しょうがい てちょうしよじしゃ ねんかん
身体障害・知的障害・精神障害の3障害の手帳所持者のうち、この5年間でもつ
とも増加してきているのが、精神障害です。表7からわかるように、平成29年3月末
時点では、24年と比べ、9千人以上増えており、特に2級が約5千5百人（約1.4
倍）増えています。

また、表8からわかるように、手帳所持者数は、20歳～65歳未満の人数が大きく増加
してきている傾向に対し、20歳未満の人数は、ほぼ横ばい、65歳以上の所持者数は、
若干の増加という傾向となっています。

ひょう 表7 精神障害者保健福祉手帳 等級別推移 各年3月末時点（人）

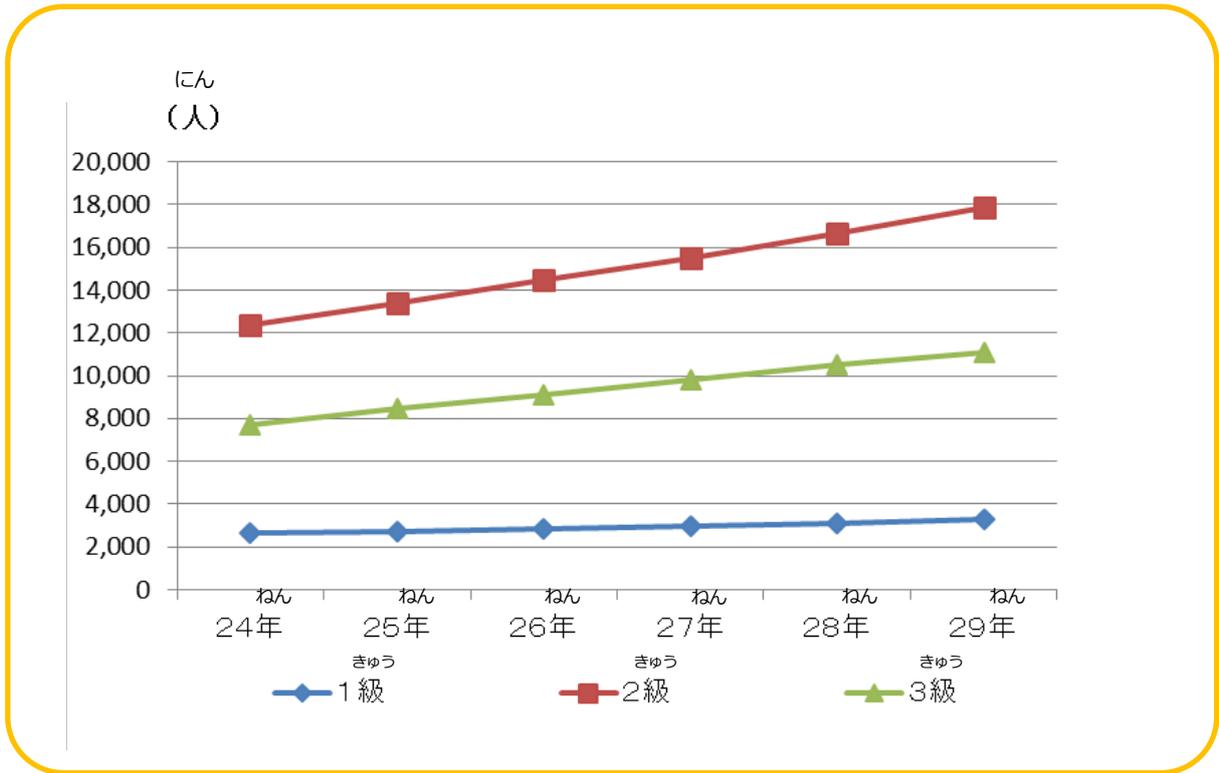
	ねん 24年	ねん 25年	ねん 26年	ねん 27年	ねん 28年	ねん 29年
きゅう 1級	2,669	2,694	2,870	2,994	3,118	3,308
きゅう 2級	12,387	13,399	14,497	15,477	16,623	17,844
きゅう 3級	7,729	8,445	9,108	9,814	10,484	11,097
けい 計	22,785	24,538	26,475	28,285	30,225	32,249

ひょう 表8 精神障害者保健福祉手帳所持者の年齢別推移 各年3月末時点（人）

	ねん 24年	ねん 25年	ねん 26年	ねん 27年	ねん 28年	ねん 29年
さいみまん 20歳未満	298	408	493	596	727	869
げだん ぜんたい し わりあい (下段：全体に占める割合)	(1.3%)	(1.7%)	(1.9%)	(2.1%)	(2.4%)	(2.7%)
さいみまん 20～65歳未満	19,663	20,952	22,355	23,682	25,126	26,666
げだん ぜんたい し わりあい (下段：全体に占める割合)	(86.3%)	(85.4%)	(84.4%)	(83.7%)	(83.1%)	(82.7%)
さいいじょう 65歳以上	2,824	3,178	3,627	4,007	4,372	4,714
げだん ぜんたい し わりあい (下段：全体に占める割合)	(12.4%)	(13.0%)	(13.7%)	(14.2%)	(14.5%)	(14.6%)
けい 計	22,785	24,538	26,475	28,285	30,225	32,249

せいしんしょうがいしゃほけんふくしてちょう さいみまん どうけい と さいみまん
※精神障害者保健福祉手帳については、18歳未満での統計を取っていないため、20歳未満としています。

す せいしんしょうがいしゃ とうきゅうべつすい い
図 7 精神障害者 等級別推移



す せいしんしょうがいしゃ ねんれいべつすい い
図 8 精神障害者 年齢別推移

